

## 夜間退却ニ關スル原則的説明

## (一) 夜間退却ノ要義

夜間退却ノ要義ハ靜肅ナル動作ヲ以テ我退却運動ヲ敵ニ秘匿スルニ在リ故ニ退却運動ノ爲多クノ時間ヲ費スノ害ハ之ヲ忍ハサルヘカラス否遲速ノ問題ハ之ヲ第二位ニ置キ竊ニ戰場ヲ脱逸スルコトヲ第一義トナスヘキモノナリ若夫レ普通手段ニ依ル靜肅動作ノミニテハ我行動ヲ敵ニ秘シ得サルニ於テハ欺騙的行動ヲ以テ敵ノ注意ヲ他方面ニ牽制スルノ手段ヲ採ルモノトス

## (二) 軍隊ノ集結及掌握

夜間退却ノ特ニ不利ナル處ハ軍隊ノ集結及掌握ノ困難ナルニ在リ故ニ各級指揮官ハ特ニ部下ノ集結及掌握ノ爲ニ努力セサルヘカラス而シテ夜間退却ニ際シ部隊集結ノ爲用フル戰線ノ後方ニ於ケル集結地ハ晝間ノ如ク敵彈ノ患ナキヲ以テ著シキ橫方向ノ行進ト各部隊ノ混雜ヲ避ケ得ルヲ度トシ道路網ノ關係ト附近ノ地形トヲ顧慮シ晝間ノ場合ニ比シ比較的戰線ニ接近シアルヲ一般ト

ス但シ茲ニ予カ部隊集結ト稱スルモ必シモ大部隊ヲ一地ニ集合セシムルノ意ニアラス戰術的結合ヲ以テ爾後部隊の運動ニ移リ指揮官今後ノ使用(行軍縱隊ノ編組又ハ要點陣地ノ占領等)ニ便ナラシムルノ準備ヲ爲スノ意ナリ是夜間退却ノ集合ハ部隊ノ大ナルニ從ヒ却テ混亂ヲ惹起スルモノナレハナリ而シテ何部隊ヲ何地ニ集合セシムヘキヤ等ハ一ニ現時ノ狀況ニ關係ス

## (三) 戰場離脱ノ時機

此時機ノ決定ハ敵情及我後方ノ狀況ニ關係ス

敵情ニ關スルモノノ一二ヲ例示センニ例ヘハ夜襲ノ患アルトキハ日沒後成ルヘク速ニ運動ヲ開始シ又此患ナキトキハ暗黒ヨリ生スル害ノ幾分ヲ避ケ爾後ノ動作ヲ便ナラシムル爲拂曉前ニ於テスルヲ可トス又我目的近ク後方ニ新陣地ヲ占領スル等ノ場合ニハ拂曉ニ於テ此陣地ノ占領設備ヲ含ムヲ終リ得ル如ク退却運動ヲ規定スヘシ

後方機關ヲ整理シ退却路ヲ閉塞セサルコトハ最モ緊要ニシテ時トシテハ爾他ノ狀況之ヲ許セハ此整理ノ爲戰鬪部隊退却時機ヲ延引セサルヘカラサル



コトアリ衛生機關ノ如キ殊ニ然リ戰列部隊ヲ犧牲トシテ死傷者ヲ整理スル意ト誤解セサルヲ要ス  
退却ノ爲ノ目標晝夜ニ關セス)

退却ノ爲ノ目標ハ狀況ニ依リ一定シ難キモ通常第一ニ集合シ出發スル爲ノ地點ナリ退却地區内ニ障碍線等アルトキハ多クハ其後方ニ選定セラル而シテ此目標ハ即チ眞ノ退却目標ニアラスシテ集合ノ爲ノ行進目標ナリ此處ニ集合シ得タルモノハ爾後ノ作戰ニ適應スル眞ノ退却目標ニ向ヒ退却行ヲ行フコトトナルヘシ

若夫將ニ離脱セントスル戰場ニ近ク陣地ヲ占領セントスル如キトキハ行進目標ト退却目標トカ相一致スル場合アリ

戰略上此目標ヲ如何ニ選フ可キヤハ他日軍統帥ヲ講スル際ニ讓ルモ要スルニ集中的ト背心的トアルコトニ注意スヘシ(甲)ハ露軍ノ遼陽ニ向テスル退却

(乙)ハ清軍ノ鴨綠江戰ノ後ノ退却ノ如シ

#### (四) 收容隊ノ要否

夜間退却ニ於テハ一般ノ場合ニ於テハ收容隊ヲ要セス何トナレハ收容本來ノ

意義ハ後方若干距離ニ在ル部隊カ火力ニ依リテ其前方部隊ヲ自己占領線内ニ引キ入ルルヲ云フモノナルニ夜間ハ敵兵追撃射撃ヲ以テ我ヲ苦シノ得サルノミナラス我モ亦射撃ヲ施スニ由ナケレハナリ特ニ夜間ニ於ケル不知ノ地ニ進入スル敵ノ追撃ハ實ニ困難ナルモノアルヲ以テ敵ノ追撃(攻撃)ニ際シテハ第一線若ハ第一線ノ殘置部隊ヲシテ極力之ヲ防止セシムルモノトス

但シ狀況殊ニ我軍隊ノ志氣的關係ニ由リ地形之ヲ許サハ暗夜ト雖後方某要點ニ一部隊ヲ配置シ退却部隊ニ精神的依頼ヲ起サシメ集合ノ核心ヲ形成スルノ必要ナルコトナキニアラス然レトモ予ハ之ヲ以テ戰術的收容ト認メス是其隊ノ眞目的ハ毫モ收容ノ意味ヲ有セサレハナリ強テ之ニ命名セハ「集合核心」ト稱スルヲ適當トスヘシ

晝間退却ニ在リテハ收容隊ヲ設ケテ第一線ノ退却ヲ收容スルノ外時宜ニ依リテハ第一線ヲ交代シ(多クハ騎兵ヲ以テ)又ハ第一線ノ前方ニ陣地ヲ占領シテ(敵ト遠ク隔タル場合ノ隨意退却)第一線ノ退却ヲ掩護セシムルコト等之ナキニアラサルモ夜間ハ此事モ亦實行シ難シ何トナレハ夜間退却ハ通常敵前近距離ヨ



リ行ハルルト他方新ナル部隊ヲ以テ第一線ヲ交代シ又ハ突然前方ニ陣地ヲ占領セシムル如キハ未知ノ地形敵情及暗黒ノ爲只五里霧中ニ彷徨スルニ過キサルヘケレハナリ但シ晝間ヨリ十分準備シタル所謂豫定ノ退却ナルトキハ稀ニ實行シ得サルニアラス

## (五)

一般ノ要領

晝間退却ハ主義トシテ同時退却ヲ可トスルモ夜間退却ハ敵彈、敵眼ヲ避ケ得ルト靜肅保持ヲ必要トスルノ關係上縱橫兩方向共ニ逐次退却ノ方法ヲ採用スルヲ可トス彼我著シク近接シアル場合ニ於テモ亦然リ而シテ之ヲ實行シ得ルハ實例ノ證スル所ナリ

## (六)

地區ノ選擇

夜間退却ニ在リテハ敵彈、敵眼ニ對シテ退却部隊ヲ掩蔽スルノ必要ナキカ故ニ晝間退却ノ爲ノ良友タル蔭蔽地ハ寧ロ之ヲ避ケ平坦開豁ニシテ運動ヲ妨害セサル地區ヲ選ヒ齊整タル動作ト確實ナル指揮及掌握トニ注意スルコト緊要ナリ而シテ夜間ノ行動ハ短距離ト雖路外ノ運動ハ事實甚タ困難ナルモノナルカ

故ニ部隊ノ大小ヲ顧慮シ配當地區内ニ適當ニ道路ヲ含有セシムルコトハ特ニ注意ヲ要ス

## (七)

所要時間ノ考定

夜間ノ退却運動ハ著シク時間ヲ要ス日露戰役ノ實驗第一軍戰鬪報告ニ據ルニヨレハ夜間退却ハ晝間ニ比シ約三倍ノ時間ヲ要スト云フ故ニ夜間退却ノ區處ヲ定ムルニハ特ニ時間ノ餘裕ヲ與フルコト緊要ナリ極テ輕易ノ狀況ニ在リテモ平均晝間ノ二倍ノ時間ヲ豫算セサルヘカラス

## (八)

第一線ノ任務及動作

夜間退却ニ於ケル第一線ハ特ニ重要ナルモノニシテ獨力ヲ以テ後方部隊ノ退却ヲ掩護スヘキ重任ヲ有ス故ニ百方手段ヲ盡シテ第一線ノ退却ヲ安全ナラシムルコトヲ勉メサルヘカラス即チ第一線ハ第一ニ敵ノ攻撃ヲ受ケサルコトヲ努メ若後方部隊ノ退却動作未タ完了セサルニ敵ノ攻撃ヲ受ケタル時ハ斃レテ後己ムノ覺悟アルヲ要ス

今第一線ノ爲其採ルヘキ手段ヲ具體的ニ例示セハ左ノ如シ



- (1) 濃密ナル斥候ヲ派遣シ敵襲ヲ監視ス
- (2) 障碍物等敵ノ近接ヲ妨害スヘキ補助手段ヲ講ス
- (3) 要點ニ兵力ヲ集結シ接戦ヲ準備ス
- (4) 時宜ニ依リ我ヨリ夜襲ヲ行ヒ敵ヲ欺騙ス

(注意)

日本ノ如キ騎兵ノ少ナキ國軍ニハ適用シ難キモ極メテ優勢ナル騎兵ヲ有スル軍ニアリテハ騎兵ヲ以テ第一線ヲ交代シ先歩兵ヲ退却セシメ後騎兵ノ之ニ續行スルモ一手段ナリ

日露戦役ノ實験ニ鑑ミ指揮官退却意志ノ發動後稍時間ヲ有スル場合ニ於テ日没ヲ待ツ爲ニ採リシ二三ノ手段ヲ述フヘレハ次ノ如シ

- (1) 攻者ハ第一線諸隊ヲ現在ノ位置ニ止メ威嚇砲撃ヲ以テ攻撃開始準備ノ感覺ヲ敵ニ與フ
- (2) 防者ハ頑強ナル抵抗ニ依リ日没迄眞面目ノ戦闘ヲ持續ス
- (3) 防者猛烈ナル逆襲ヲ企テ以テ攻者ノ攻撃ヲ澁滯セシメ日没ヲ待ツ

第一線ノ退却ハ晝間ノ如ク後方部隊ニ依リ收容セラルルヲ得サルカ故ニ全ク自衛ノ法ヲ講シ逐次戦線ヲ稀薄ニシ殘置部隊ハ常ニ退却部隊ヲ掩護スルノ責任ヲ負フモノニシテ漸次如斯シテ終ニ全部退却ス而シテ通常一小部隊ハ翌拂曉迄舊位置ニ在リテ敵ト觸接ヲ保持ス此際騎兵ヲ以テ之ニ充ツルヲ得レハ最モ妙ナリ

(九) 特別ノ場合

以上ハ主トシテ敵襲ノ患ナク且暗夜ニ於テ行フ場合ニ就テ述タルモノナリ若夫夜間ト雖月明積雪等ノ爲若干ノ通視ヲ許ストキハ其明暗ノ程度ニ應シ退却部署モ亦晝間退却ノ要領ヲ參酌セサルヘカラス又退却掩護ニ任シタル部隊ノ退却翌拂曉トナルトキハ勿論後方部隊ニ於テ收容隊(收容ノ任務ヲ有スル部隊)ヲ編成シ之ヲ收容セサルヘカラス

敵兵我退却ヲ察知シ我第一線ヲ攻撃シ來ルトキハ最早悠長ノ退却ヲ實行シ得サルヘク一部ヲ犠牲トシテ其他ハ混雜ナカラモ一舉ニ其位置ヲ撤スルノ己ムナキコトアルヘシ



(十) 其他退却指揮一般ノ要領ニ至リテハ晝間ノ諸原則ニ據ルヘキモノトス  
退却指揮ニ關スル戰略關係例ヘハ集心退却、離心退却等ニ就テハ學年ノ進ムニ  
從ヒ更ニ研究スル所アラントス

### 退却行ニ於ケル後衛ニ關スル原則的説明

#### (一) 後衛ノ任務

退却行ニ於ケル後衛本來ノ任務ハ本隊ニ退却ノ餘裕(時間及場所)ヲ與ヘ本隊ノ  
後方ヲ警戒スルニ在リ  
抑、退却ハ隨意退却ナルト敗戦ノ結果ニ基ク退却ナルトヲ問ハス許多ノ場合ニ  
於テ當面ノ敵兵優勢ナル爲決戦ヲ避クルニ在リ換言スレハ退却スル軍隊ノ直  
接目的ハ一ニ敵ノ掣肘ヨリ離脱シ行動ノ自由ヲ得ントスルニ在リ此際敵ハ猛  
烈果敢ナル追撃ヲ實行シ以テ退却軍ヲ餘儀ナク決戦ニ陥レント勉ムルヤ言ヲ  
待タズ茲ニ於テ退却軍ハ一部ヲ以テ敵ノ行動ヲ監視警戒シ要スレハ之ヲ妨害  
セシメ主力ハ之ニ依リテ以テ速ニ行動ノ自由ヲ獲得スルコトヲ圖ルヘシ夫レ

全軍既ニ決戦ヲ避ケント欲スル如キ優勢ナル敵ニ對シ其一部タル後衛ヲ以テ  
敵ノ行動ヲ掣肘セント欲ス後衛任務達成ノ困難ナル思半ニ過キン

#### (二) 後衛ノ行動一般ノ準據

全軍目的既ニ敵ノ掣肘ヲ離脱スルニ在ルヲ以テ後衛ト雖其主旨ヲ體シ漫ニ  
敵ト戰鬥ヲ交フル等ノコトハ之ヲ避クヘキモノトス而シテ後衛ノ行動ハ本隊  
ノ狀況ニ鑑ミ敵ノ遠近及其動作並地形ニ應スヘキモノニシテ一般ノ準據トス  
ヘキモノ左ノ如シ(要務令一二九)

(I) 情況之ヲ許セハ後衛ハ成シ得ル限り行軍縱隊ヲ以テ行進シツツ本隊ノ  
退却ヲ掩護スルコト恰モ前進行ニ於ケル前衛側敵行ニ於ケル側衛等ト異  
ナルコトナシ世人往々後衛ト稱スレハ必ス一度ハ交戦ヲ豫期スル如キ感  
想ヲ抱クハ一ノ偏見タルヲ失ハス

(II) 敵ノ追撃急ニシテ狀況上已ムヲ得サルニ至レハ後衛ハ餘儀ナク陣地ヲ  
占領シテ敵ノ前進ヲ遲滯セシメサルヘカラス而シテ其戰鬥狀態ハ千變萬  
化ナルモ後衛ハ如何ナル狀況ニ際シテモ獨力ヲ以テ戰鬥ヲ始終スヘキハ



特ニ注意ヲ要スルコトナリトス

(III) 非常ノ場合ニハ後衛ハ全軍ノ犠牲トナリテ本軍ノ退却ヲ容易ナラシム  
 之カ爲決戦ヲ辭セサルノミナラス往々自ラ反撃ヲ企テ本隊ニ時間ト場所  
 トノ餘裕ヲ與ヘントスルコトナキニアラス

以上列擧スル事項ヲ仔細ニ研究スルトキハ後衛ノ行動ハ(甲)騎兵斥候ヲ以テ敵  
 ノ行動ヲ監視スルコトヨリ(乙)諸兵連合部隊ノ持久戦ヲ經テ(丙)犠牲的決戦ニ亘  
 ル凡テヲ含有スルモノニシテ極端ヨリ極端ニ涉ルモノナリ是後衛行動ノ困難  
 ナル所以ナリ又隣接シテ退却スル部隊ノ後衛アルトキハ能ク之ト連絡ヲ保持  
 スルハ特ニ注意ヲ要スル件ナリトス

### (三) 兵力及編組

後衛ノ行動前述ノ如クナルヲ以テ後衛ノ兵力編組ハ現時ノ狀況ニ應シ左ノ件  
 ヲ願慮シテ定ムヘキモノトス(要務令一三〇)

- (1) 敵ノ行動特ニ其迂回運動ヲ速ニ察知スルヲ要ス(騎兵)
- (2) 敵ノ近接ヲ妨害スヘキ諸設備ヲ爲シ得ルヲ要ス(工兵)

(3) 成ルヘク近接戦闘ヲ爲サス遠距離射撃ニ依リ敵ノ前進ヲ遲滯セシムル  
 ヲ要ス(砲兵)

(4) 非常ノ場合ニハ柔軟ノ抵抗ヲ爲シ得ルヲ要ス(歩兵及機關銃)  
 尙後衛ノ兵力編組ヲ定ムル際注意スヘキハ敵ノ小規模ノ妨害ハ其影響ヲ直ニ  
 本隊ニ波及セシメサルコト及後衛ハ獨力ヲ以テ戦闘ヲ始終シ得ルコトニ注意  
 スヘシ

### (四) 後衛ノ戦闘法

後衛ノ戦闘法ハ一言ニシテ云ヘハ即チ持久戦ナリ然レトモ前已ニ述ヘタルカ  
 如ク極端ヨリ極端ニ涉ルモノナルカ故ニ各場合ニ應スル具體的ノ行動ニ至リ  
 テハ其都度現時ノ狀況ニ應シテ定ムヘキモノトス而シテ其準據トナルヘキモ  
 ノハ主トシテ敵情希望スル餘裕ノ長短利用又ハ保持スヘキ地域是ナリ詳言ス  
 レハ(a)短少時間ノ餘裕ヲ得ント欲ルヤ(b)長時間ノ餘裕ヲ得ント欲スルヤ(c)逐  
 次抵抗ヲ爲シ得ル地域存在スルヤ(d)一地ニ固著スルヲ要スルヤ(e)利用セント  
 欲スル場所ノ地形ノ價值ハ如何ナルヤ等是ナリ如斯ニシテ尙任務ノ達成困難



ナレハ茲ニ最後ノ手段トシテ攻撃動作即チ逆襲ヲ以テスルナリ換言スレハ其  
戰鬪法ハ次ノ如シ

- 一 短時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦
- 二 一地ニ於テ長時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦
- 三 歩々抵抗ヲ爲ス逐次的持久防禦所謂退却戰鬪
- 四 逆襲的攻撃

何レノ戰鬪法ヲ採用スヘキヤハ全ク狀況ニ關ス而シテ各場合ニ於ケル戰鬪指  
導ノ要領ハ後章持久戰ノ部ニ於テ更ニ詳述スル所アラントス

#### (五) 後衛陣地

後衛陣地ハ特別ノ場合ヲ除ク外一般ニ決戰ヲ避クル陣地ナリ故ニ(1)遠戰ヲ以  
テ敵ヲ遠距離ニ支持シ得ヘキ射界ヲ有シ(2)陣地前ニハ敵ノ近迫ヲ困難ナラシ  
ムル障碍物ヲ有シ(3)兩翼側ハ敵ノ迂回困難ナルヘク(4)我退却ハ敵ニ遮蔽シテ  
實施スルコトヲ得ルトキハ最モ妙ナリ然レトモ諸官ハ如斯陣地ノ容易ニ存在  
スルモノニアラサルコトヲ注意セサルヘカラス要ハ如斯主旨ニ近キ價值ヲ有

スル地形ヲ希望スト云フニ外ナラス又已ムナクンハ某地區ヲ如斯主旨ニ基キ  
利用スル方法ヲ講セサルヘカラス逐次抵抗ノ場合ニ於ケル後衛陣地ニシテ敵  
ノ行動上第一次ノ陣地カ右翼ヨリ迂回セラレ易キ地形ナルトキ第二次陣地ハ  
左翼ニアラサレハ迂回シ難キ地形ヲ逐次利用シ得レハ甚タ妙ナリ



## 攻勢防禦之研究

### 想定

#### 所要地圖

二十萬分一

新庄、仙臺、福島、山形、漆山、山邊、下寶澤、山形、門傳、黒澤、上ノ山

- 一 福島占領ノ目的ヲ有スル北軍主力(二師團ヲ主幹トス)ハ福島附近ニ在ル敵ニ對シ仙臺附近ニ於テ前進準備中ナリ
  - 二 山形ヲ占領シ成シ得レハ米澤ヲ占領ス可キ任務ヲ有スル北軍A支隊ハ熊ヶ根、馬場ヲ經テ前進シ三月十五日午前十時其歩兵先頭ヲ以テ二口峠南方約一吉ノ三叉路附近ニ達ス此時迄ニ支隊長ノ知り得タル狀況概ネ左ノ如シ
- (1) 福島附近ノ敵ハ今朝同地出發阿武隈川河谷ヲ北進セラルモノノ如ク我軍主力ハ明後十七日早朝ヨリ前進ヲ開始



スル豫定ナリ

- (2) 歩兵八九千人砲約二十四門ヲ有スル敵ノ一縱隊ハ本日午前六時頃米澤ヲ發シ北進セリ
- (3) 我騎兵ノ主力ハ上ノ山附近ニ於テ約二百五十ノ敵騎ニ遭遇シ漸次北方ニ退却シツツアリ

三 A支隊ノ編組

長 少將某

- 步兵第一旅團(第一第二聯隊)
- 騎兵第一中隊(乙)
- 野砲兵第一大隊(聯隊段列一小隊ヲ附ス)
- 山砲兵第四中隊(聯隊段列一分隊ヲ附ス)
- 工兵第一中隊

衛生隊半部

其他輜重若干

(注意) 一般ノ注意ハ前想定ノモノヲ適用ス

攻勢防禦ノ爲ノ決心

第一問題 (宿題)

十五日午前十時ニ於ケル北軍A支隊長ノ決心(處置ヲ要セス)

第一問題答解ニ對スル總評

諸官ノ考案ヲ類別スレハ左ノ如シ

- 第一案 攻撃ノ目的ヲ以テ羽州街道ヲ南進セントスル案
- 第二案 決戦ノ目的ヲ以テ山形市南端附近ニ陣地ヲ占領セントスル案
- 第三案 決戦ノ目的ヲ以テ山寺村隘路口附近ニ陣地ヲ占領セントスル案



## 第一案ニ就テ

此案ハ米澤方面ノ敵兵本軍方面ニ轉進セサルヤノ願慮ニ重キヲ置キ之ヲ抑留セント欲スルカ又ハ米澤方面ノ敵ハ依然北進スルトスルモ支隊ハ尙多クノ敵兵ヲ牽制シ本軍方面ノ狀況ヲ有利ナラシメントスルノ主旨ニ出テタルモノニシテ支隊夫自身ノ苦痛ヲ忍ヒ本軍ノ作戰ヲ有利ナラシメント欲スル其著眼ニ至リテハ大ニ見ルヘキモノアリ然レトモ其主旨ニ基ク實行手段ノ研究適切ヲ缺ク爲實行上頗ル困難ナルハ遺憾トスル所ナリ即チ

米澤附近ノ敵兵我支隊ヲ近ク前面ニ置キ本軍狀況ノ切迫シアラサル今日該方面ニ轉進スルナラント考フルハ本軍方面ノ狀況考察適切ナラサルモノアリ米澤方面ヨリ前進スル敵ノ兵力ハ支隊ノ兵力ニ比シ約一倍半ナルニ拘ラス尙其以上ノ兵力ヲ牽制セント欲スルハ過望ニシテ之ヲ願慮セス米澤ニ向ヒ南進セント欲スル如キハ稍無謀ナリ

敵ノ兵力優勢ナリト雖敵ノ隘路進路ニ乘スルヲ得ハ勝算アリト稱スルハ抽象的の原則トシテハ可ナルモ恐ラクハ此考案タルヤ山地進出ニ關スル戰術原則及

支隊自己現在ノ狀態ヲ深ク願慮セサルノ致ス處ナラン何トナレハ敵ハ山形平地ニ進出スルニハ羽州街道方面ノミナラス長谷堂門傳ニ通スル諸道路ヲ利用スヘク支隊ハ二口峠山寺隘路口ヲ進出シタル後ニアラサレハ縱隊ヲ區分シ得サルノ景況ニ在ルヲ以テナリ

更ニ翻テ然ラハ支隊ハ勝算ノ有無ニ拘ラス優勢ノ敵ニ對シ攻撃ヲ企圖セサルヘカラサル事情アルヤ否ヤヲ考察スルニ本軍方面ノ狀況ハ一モ之ヲ要求スルコトナシ

故ニ予ハ此案ノ自ラ苦境ニ進ミ本軍ヲ有利ナラシメントスル主旨ト其意氣トニハ大ニ賛同スルモ實行上有利ナル策案ニアラスト認ム

## 第二案ニ就テ

此案ハ一般ノ狀況上優勢ナル敵ニ對シ遭遇戰ヲ交ユルノ危險ヲ冒スハ不利ナルモ山形市ヲ領有スル要求ト笹谷峠道ヲ確實ニ掩護スル必要上多少地形ノ不利ヲ忍ヒテモ山形市南端附近ヲ占領スルノ主旨ニ出テタルモノニシテ一理アル考案ナリ然レトモ此考案者ハ次ノ如キ點ニ著意ノ薄カリシモノト云ハサルヲ得ス



山形市ヲ占領スヘキ任務ニ對シ之ヲ直解的ニ實行セントスル其熱誠ハ甚可ナリト雖支隊ニシテ山形市南端ヲ占領セハ同市ハ兵災ニ陥リ支隊ノ後方ニハ火ノ海ヲ生スヘキコトヲ考慮セサルヘカラス

米澤方面ノ敵ハ羽州街道ノミヲ前進スルモノトシ長谷堂門傳方面ヨリスル包圍ニ對シ山形市南端ハ幾何ノ價值アリヤヲ考慮スルヲ失念セル感アリ

支隊ニシテ山形平地ニ存在スル以上ハ敵ハ我ニ顧慮スルコトナク笹谷峠方面ニ行動シ得サルコトヲ考ヘサリシナラン

次ニ攻勢防禦ノ方式ニ基キ決戦ヲ爲スニハ其目的ニ適スル地形ヲ選定シ之ヲ利用スルヲ必要トス本考案ハ之カ爲ノ地形觀察ニ於テ缺クル處アリ

故ニ予ハ此案ハ任務ヲ正文ノ如ク最モ嚴格ニ達成セントシタル誠意ニ對シ滿腔ノ同意ヲ表スルト共ニ實行手段ニ就キ研究ノ疎ナリシヲ惜ムモノナリ

### 第三案ニ就テ

此案ハ一般ノ狀況ニ鑑ミ決戦方式トシテ攻勢防禦ヲ採ルヲ有利ト認メ此方式ヲ採用スルモ任務達成上支障ナク其位置ハ山形市以北ニ於テ適當ナル地形ヲ選擇

スルヲ可ナリトスルモノニシテ大體ノ考案ハ可ナルモ其位置ノ落合、風間、山寺等區々ナルハ戰略上防禦陣地位置ノ選定ニ關スル要旨ト戰術上決戦防禦ニ利用スヘキ地形ノ價值ノ判斷ニ關シ足ラサル點アルハ予ノ遺憾トスル所ナリ

不備ノ點ヲ總評スレハ以上ノ如シト雖諸官ノ全員カ悉ク決戦ヲ以テ敵ニ對スル考案ヲ立テ一人トシテ純然タル守勢即チ防支ヲノミ主トスル防禦ヲ爲シタル者ナキハ予ノ最モ愉快トスル所ナリ

### 作業ノ作爲ニ就テ

一 判決文ニシテ意志ノ不明瞭ナルモノアルハ不可ナリ例ヘハ「支隊ハ山形ニ向ヒ前進セントス」又ハ「支隊ハ山形市南端ヲ占領シ敵ヲ防禦セントス」或ハ「支隊ハ敵ト決戦ヲ爲ス目的ヲ以テ山形市ニ向ヒ前進セントス」等はナリ此等ハ第一何ノ目的ニテ前進スルヤ不明ナリ第二ハ如何ナル防禦ヲ爲スヤ不明ナリ第三ハ決戦ノ爲攻撃ヲ爲スヤ攻勢防禦ヲ爲スヤ不明ナリ此判決文ハ特ニ自己ノ意志ヲ明確ニ表ハスコトニ注意スルヲ要ス例ヘハ

支隊ハ決戦ノ目的ヲ以テ山形市南端ニ陣地ヲ占領スル爲同地ニ向ヒ前進セ



ントス

支隊ハ決戦ノ目的ヲ以テ山形南端附近ニ陣地ヲ占領セントス  
 支隊ハ山形南端附近ヲ占領シテ決戦防禦攻勢防禦ヲ爲サントス  
 支隊ハ山形南端附近ヲ占領シテ敵ヲ拒止シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントス  
 等ノ如ク何地ニ於テ決戦防禦ヲ爲スノ意志ヲ適切確實ニ記述スルヲ要ス  
 二 理由ノ記述一般ニ甚不明瞭ニテ又主旨一貫シアラス是前回特ニ作業作爲上  
 ノ副問題ヲ課シタル所以ナリ今一例ヲ示セハ

決戦防禦ヲ可トスル理由  
 風間附近ノ位置ハ作戰上目下ノ要求ニ合スル理由  
 風間附近ハ決戦防禦ノ爲地形適當ナル理由  
 攻勢防禦ヲ可トスル理由  
 作戰上山形南端附近ニ位置セサルヘカラサル理由  
 山形南端ハ敵ニ先シ之ヲ占領シ得ルノミナラス且陣地  
 設備ノ爲時間ヲ有スル理由又ハ時間ノ不足ヲ補ヒ得

ル理由  
 地形上敵ノ包圍ニ對シ支隊ノ目的ヲ達シ得ル理由  
 攻撃ヲ企圖スルヲ要スル理由  
 優勢ノ敵ニ對シ攻撃ヲ企圖シテ勝算アル理由  
 又ハ勝算少ナキモ特ニ攻撃ヲ可トスル理由  
 諸官ノ作業中若干ノモノハ判決ト理由トノ全ク一致セサルモノアリ此等ハ特  
 ニ將來ノ注意ヲ望ム其詳細ハ個人ノ作業ニ就テ述ヘタルヲ以テ省略ス

第一問題解答上ノ著眼

(一) 軍主力方面ノ狀況 之ヲ考察スル目的ハ主力方面狀況切迫シアルヤ否ヤ、其程度ハ支作  
 戦ニ於テ非常手段ヲ採ルヲ要スルヤ否ヤヲ判定セントスルニ在リ  
 軍主力前面ノ敵ハ福島附近ヲ出發シテ北進シ我軍主力ハ明後十七日仙臺附近  
 ヲ出發シテ南進スヘキカ故ニ彼我主力ノ決戦ハ名取川河畔若ハ其附近ニ於テ  
 同日午後遅ク若ハ十八日早朝ヨリ惹起スルモノト考察スルコトヲ得換言スレ  
 ハ軍主力方面ニ於ケル狀況ハ未タ切迫シ居ラサルモノト認ム從テ支隊ハ主力



方面ノ狀況上特ニ非常手段ヲ講スル等ノ必要ハ之ナシ

(二)

支隊前面ノ敵情判斷

此判斷ノ目的ハ彼我前進スル場合ノ遭遇點及敵ノ山地進出狀態ヲ判定スルニ在リ

支隊前面ノ敵ハ騎兵約二中隊、歩兵約九大隊、砲約二十四門ヲ有スル微弱師團ニテ支隊ノ兵力ニ比シ約一倍半ニ相當ス而シテ此敵ハ午前六時米澤ヲ出發シタルヲ以テ午前十時ニハ其先頭赤湯若ハ白龍湖附近ニ達シアルナラン果シテ然ラハ假ニ彼我前進ストセハ山形市及片谷地ノ中間附近ニ於テ遭遇戰ヲ惹起スルノ距離ニ在リ此際敵ハ山地通過ヲ容易ナラシムル爲長谷堂及門傳方面ヨリ一部隊ヲ進出セシムルヤモ測ラレス

(三)

支隊任務ノ解

此目的ハ任務ノ正文ニ基キ狀況上之カ實行ノ標準ヲ得ントスルニ在リ

支隊ノ任務ハ山形市ヲ占領スルニ在リ支隊ヲシテ同市ヲ占領セシムル軍司令官ノ意圖ハ恐ラクハ幾多ノ目的ヲ含有スヘシト雖目下ノ狀況ニ於テ作戰上ヨリ觀ルトキハ軍主力ノ側背ヲ安全ニシ兼テ前進準備ノ完了ヲ迅速ナラシムルニ在ルヘシ果シテ然ラハ若支隊ニシテ狀況上山形市街ヲ我有ニスルノ企圖ト軍ノ側背ヲ安全ナラシムル行動トヲ併セ行ヒ得サル場合ニハ寧ロ後者ニ重ヲ

置クノ已ムヲ得サルモノアルヘシ軍方面ノ狀況切迫シアラサルニ於テ殊ニ然リ支隊前面ノ敵ハ支隊ヨリ優勢ニシテ支隊力之ニ對シ直接山形市街領有ノ爲遭遇戰ヲ惹起スルハ有利ナラス是敵ハ數縱隊ニテ山地ヲ進出スヘク既ニ羽州街道ヲ一縱隊ニテ前進スルモノトスルモ既ニ片谷地附近換置スレハ上ノ山北方隘路口ニ充分ナル立脚地ヲ占メ得ルニ反シ支隊ハ山形市街ヲ通過シ之ヲ背ニシテ交戰セサルヘカラサルノ不利アレハナリ故ニ支隊ハ此際一時守勢ニ立チ地形ノ補助ニ依リ兵力ノ均衡ヲ得テ以テ敵ヲ擊破スルノ策ニ出ツルヲ適當トス然レトモ縱ヒ軍司令官ノ内意ハ如何アルヘキニモセヨ支隊ノ任務ハ山形占領ニ在ルカ故ニ攻勢ノ意志ヲ放棄スヘカラサルハ勿論ニシテ唯目下ノ時機ハ攻勢ヲ採ルノ形式カ直接ナラサルモ可ナリト云フ迄ナリ故ニ支隊ハ此際攻勢防禦ヲ企畫スルヲ適當ト認ム

(四)

地形一般ノ觀察

本地形觀察ノ目的ハ前述ノ主旨ニ基キ何レニ位置スヘキヤ換言スレハ攻勢防禦ノ目的ヲ以テ占領スル陣地ハ何地附近ヲ適當トナスヤ判斷スルニ在リ即チ位置ノ選定之ナリ

防禦陣地ノ位置ハ戰略及戰術上ノ要旨ニ從ヒ決定スヘキモノナリ何ヲカ戰略上ノ要旨ト謂ヒ又何ヲカ戰術上ノ要旨ト稱スルヤ本狀況ニ於テハ



## 戰略上ノ要旨

一 米澤方向ヨリ前進スル敵ヲシテ必ス我ヲ攻撃セサルヲ得サシメ若敵兵我ヲ攻撃セスシテ本軍方面ニ轉進スル等ノ場合ニハ少ナクモ之ヲ緊留シ得ル位置ナラサルヘカラス之カ爲ニハ支隊ノ位置ハ敵ノ笹谷峠道轉進ヲ制シ得ル處ナラサルヘカラス

二 支隊ハ隘路ヲ進出シテ作戰スルカ故ニ動モスレハ敵ノ壓迫ヲ受ケ動作ノ自由ヲ束縛セラレ易シ從テ比較的行動ノ自由ヲ保有スルコトニ努力スルヲ要ス之カ爲已ムヲ得サレハ一時本來ノ退却線ヲ變換スルモ可ナリ(退路變換ニ關シテハ軍司令官ニ報告シ其區處ヲ受クルハ勿論ナリトス)

即チ成ルヘク山寺附近ノ隘路口ヨリ遠カリ已ムヲ得サレハ關山峠道ニ退路ヲ變換シ得ルヲ可トス

## 戰術上ノ要旨

三 支隊長ノ防禦方針ニ基キ敵ノ數縱隊ニテ前進スル爲ニ生スル包圍ノ

不利ヲ免レ而モ最能ク戰術的効果換言スレハ防禦ノ利益ヲ發揚シ且適時ニ攻撃ノ處置ヲ併セ行ヒ得ルヲ要ス

四 防禦ノ利益ヲ充分收メ得ンカ爲必要ナル諸設備實施ノ時間比較的多キヲ要ス

以上ノ著眼ヲ以テ支隊ノ陣地ヲ占領シ得ヘキ地域内ヲ觀察スルニ蓋シ風間附近ヲ有利トスヘシ何トナレハ此位置ハ敵ハ必ス我ヲ攻撃スヘク且隘路ヲ遠カリテ行動ノ自由ヲ有シ比較的時間ノ餘裕ヲ得ヘク且地形モ亦相等ニ攻勢防禦ニ適スレハナリ

(附言) 戰略上防禦陣地位置選定ニ關シテハ學年ノ進ムニ從ヒ更ニ研究スル所アラントス

以上ノ各項ヲ綜合スレハ適當ナル歸著點ヲ求メ得ヘシ即チ

- (1) A 支隊ハ攻勢防禦ヲナスヲ要ス
  - (2) 防禦陣地ハ風間附近ヲ適當トス
- 是ナリ之本問題ノ答解ナラサルヘカラス



### 第一問題原案

#### 決心

支隊ハ攻勢ノ目的ヲ以テ風間附近ニ陣地ヲ占領セントス

#### 理由

- 一 支隊ノ任務ハ山形占領ニ在ルヲ以テ攻勢意志ヲ放棄スヘカラサルハ勿論ナリト雖支隊前面ノ敵ハ優勢ナルノミナラス敵ハ數縱隊トナリ前進シ得ルニ反シ支隊ハ一縱隊ヲ以テ前進セサルヘカラス且彼我ノ遭遇點ハ距離ノ關係上須川ノ線附近ナルヲ以テ地形ハ敵軍ニ有利ナリ故ニ支隊ハ此際敵ト遭遇戰ヲ交フルハ不利ナリ寧ロ防禦陣地ヲ占領シ機ヲ見テ攻勢ニ轉スルヲ有利トス本軍方面ノ狀況切迫シアラサルニ於テ殊ニ然リ（攻勢防禦ヲ可トスル理由）
- 二 支隊ノ占ムヘキ陣地ハ山形平地ニ於ケル敵ノ行動ヲ制シ且山寺隘路前ニ於

ケル動作ノ自由ヲ保有スルト同時ニ攻勢防禦ニ適スル地ナルヲ要ス之カ爲ニハ彼我位置ノ關係上風間附近ヲ適當トス是同地附近ハ數縱隊ヲ以テ分進スル敵ノ包圍ヲ免レ且敵ノ笹谷峠道ニ轉進スルヲ制シ得ヘク又支隊ノ兵力ニ對シ山寺隘路ヨリ相等ニ離隔シ地形モ亦攻勢防禦ノ爲相當ノ價值ヲ有スルノミナラス防禦設備ノ爲比較的多少時間ノ餘裕ヲ得ラルレハナリ

#### 防禦陣地決定前ノ處置及動作

#### (問)

A 支隊本日ノ軍隊區分及本隊ノ行軍序列如何

#### (答)

左ノ如シ

搜索騎兵

騎兵第一中隊(半小隊欠)

攻勢防禦之研究



前衛

- 長 歩兵少佐某
- 歩兵第一聯隊第一大隊
- 同機關銃一小隊
- 騎兵第一中隊ノ半小隊(四騎欠)
- 工兵第一中隊
- 本隊(同行軍序列)

- 旅團司令部(傳騎四ヲ附ス)
- 歩兵第一聯隊(第一大隊及機關銃一小隊欠)
- 歩兵第二聯隊
- 野砲兵第一大隊
- 山砲兵第四中隊
- 野砲兵聯隊段列
- 山砲兵聯隊段列

衛生隊半部

備考 砲兵聯隊段列ハ記載ノ必要ナキモ研究上之ヲ示ス

(問)

支隊長ハ防禦陣地占領ニ決心セル後何ヲ爲サントスルヤ(大行李以下ノ處置ハ省略)

(答)

- 一 前衛ヲシテ山寺―風間―落合道ヲ落合附近ニ向ヒ急行セシム
- 二 支隊長ハ前衛本隊ノ位置ニ移ル
- 三 軍司令官ニ決心ヲ報告

狀況

A 支隊長ハ前衛本隊ノ先頭ニ在リテ行進シ正午上荒谷東方約四百米三叉路附近ニ達ス



支隊長何カ處置アリヤ (問)

(答)

陣地占領掩護隊ヲ派遣ス

(問)

如何ナル部隊ヲ何地ニ派遣スルヤ

(答)

尖兵中隊騎兵半小隊ヲ馬見ヶ崎川ノ線ニ派遣ス是主トシテ優勢ナル敵騎ヲ顧慮スルヲ以テナリ(歩二ノ五七)

### 狀況

陣地占領掩護隊タル歩兵第一聯隊第一中隊及騎兵半小隊ハ午後一時四十分乃至午後二時ノ間ニ於テ概ネ所要ノ線ヲ占領ス

ルヲ得タリ而シテ羽州街道ノ敵ハ依然前進ヲ繼續シアリ且我騎兵中隊ハ敵騎ノ壓迫ヲ受ケ山形西方地區ヲ江俣附近ニ向ヒ退却中ナリ

### 第二問題

陣地占領掩護隊ノ配備要圖

#### 原案

- 一 歩兵第一中隊(一小隊欠)ハ千歳橋北端ヲ南方及西南方ニ對シテ占領
- 二 歩兵第一中隊ノ一小隊ハ鈴川村大野目南方高地ノ凸出部ヲ占領但シ内二分隊ヲ馬見ヶ崎橋ノ北端ニ出ス
- 三 騎兵半小隊ハ山形市東側地區ヨリ敵情ヲ搜索セル後千歳橋ト馬見ヶ崎橋トノ中央道路附近ニ歸還シ馬見ヶ崎川ノ線ヲ監視ス

(問)

陣地占領掩護隊派遣後支隊長ハ何ヲ爲スヤ



(答)

諸隊ハ現在地即チ上荒谷附近ニ到着セハ同地ニ開進スヘキコトヲ命シ支隊長ハ砲兵、工兵隊長、副官、傳騎ヲ伴ヒ風間附近ニ急行シ陣地ノ偵察ヲ爲ス之ト同時ニ歩兵兩聯隊長ニ追及ヲ命シ又所要ノ命令受領者ヲ高澤附近ニ招致ス

(附言) 支隊長ノ陣地決定前諸隊風間附近ニ達セハ隊内ノ古參者ハ全般ノ區處ヲ爲シテ諸隊ヲ同地ニ開進セシム  
開進ニ關スル大體ノ處置ハ攻撃ニ於テ研究セルモノト大差ナシ故ニ茲ニハ之ヲ省略ス

### 攻勢防禦ノ爲ノ地形判斷

#### 狀況

支隊長ハ所要ノ區處ヲ終リテ急行シ午後零時四十分頃風間若ハ其附近ニ達シ陣地ノ偵察ニ著手ス

#### 第三問題 (宿題)

### 支隊防禦ノ爲風間附近地形判斷(要圖答解)

但シ防禦指導ノ方針ヲ註記スルヲ要ス

#### 第三問題答解ニ對スル總評

##### 一 防禦方針ニ就テ

支隊防禦方針ニ關スル諸官ノ考案ニ三種アリ(甲)我火力ニテ敵ノ攻撃頓挫スルニ乗セントスルモノ(乙)堅固ナル守勢地帯ヲ設備シ敵力大ナル兵力ヲ以テ之ヲ攻撃スルニ方リ外翼ニ向ヒ攻勢ヲ取ラントスルモノ(丙)敵兵陣地前某線ニ到着セハ攻撃前進ヲ起シ遭遇戰的戰鬥ヲ交ヘントスルモノ是ナリ(丙)ハ支隊カ地形ヲ利用シ防禦ノ物質的優勢ヲ利用スルノ主旨ヲ沒却セルモノニシテ(乙)ハ敵兵防者ノ希望スル如ク堅固ナル守勢地區ニ主力ヲ以テ攻撃セサルヘキヲ如何ニセン(甲)ハ防者ノ防禦ニ關スル物質的利益ヲ發揚スル所以ニテ此際支隊ノ採ルヘキ方針ナリトス

##### 二 防禦線ニ就テ

攻勢防禦之研究



防禦線ノ選定ニ關スル諸官ノ考案ハ大體ニ於テ二案アリ(甲)風間東方高地ヨリ十文字ヲ經テ立谷川ニ至ルモノ(乙)大岡山ヨリ青柳ヲ經テ羽州街道ニ亘ルモノ是ナリ更ニ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

(甲) (イ) 風間東方高地ヨリ十文字ヲ經テ清池東方約千米無名祠附近ニ亘ルモノ

(ロ) 風間東方高地ヨリ十文字ヲ經テ清池南端ニ亘ルモノ

(ハ) 風間東方高地ヨリ十文字ヲ經テ漆山丁字路附近ニ亘ルモノ

(乙) (ニ) 大岡山、青柳ヲ經テ千手堂南端ニ亘ルモノ

(ホ) 大岡山、青柳ヲ經テ七浦附近ニ亘ルモノ

(ヘ) 青野東方高地ヨリ鷺森、青柳ヲ經テ七浦ニ亘ルモノ

等はナリ

(乙)案ハ失敗ノ際山寺ノ隘路口ニ壓迫セラレシテ羽州街道ニ沿フテ行動シ得ルノ利アリト雖前述何レノ線ヲ採用スルニ拘ラス陣地ノ正面過廣トナルノミナラス羽州街道ニ沿フ村落ノ爲前地ハ射撃ヲ以テ相應シ得サルニ地區ニ分タ

ルルカ故ニ十分防禦ノ火力ヲ利用スル所以ニアラス殊ニ鷺森ヲ防禦線ニ入ルルトキハ地形堅固ト頼ム我左翼方面ニ危險ヲ誘發スルノ虞ナシトセス又右翼ヲ千手堂ニ後退セシムルトキハ敵ヲシテ七浦及白川沿岸ニ堅固ナル立脚地ヲ得セシムル爲著ク我右翼ヲ危險ナラシムルモノナリ故ニ予ハ此線ハ支隊目下ノ狀況ニ不適當ナリト認ム

若強テ此線ニ於テ支隊ノ防禦ヲ爲サント欲セハ次ノ如クナササルヘカラス即チ全線ヲ大體ニ於テ獨立的ノ三地區ニ區分ス

A 鷺森東方約七百米高地附近

山寺—山形道方面ノ守備トシテ最モ堅固ニ設備シ以テ敵ヲシテ支隊左側ニ迫リ能ハサラシム

B 青柳小字谷地附近

中間守備トシテ一部隊ヲ配置ス但シ敵兵落合附近ノ蔭蔽地ニ眩惑セラレ主力ヲ以テ此方面ニ來ル場合ヲ顧慮シ設備ハ比較的堅固ナラシム(但シ此事ハ敵ノ過失ト認ム)



## C 七浦附近

主力ヲ以テ堅固ニ設備シ砲兵ノ主力ハ本道西側ニ配置ス

支隊ヲシテ前述ノ如ク稍、獨立的ナル三群(陣地内ノ集團工事ト誤認スル勿レ)ヲ以テ防禦セント欲セハ六大隊ノ少數兵力ニテハ不足ナルヲ如何セン

(甲)案中主力ヲ羽州街道方面ニ有スル案ハ前述(乙)案ト利害ヲ同クスルモノナリ  
甲案中其他ノモノハ概ネ適當ナル射界ヲ有シ支隊ノ全力ヲ以テ敵ニ對シ得ルモノトス

(甲)案ハ(乙)案ニ比スレハ山寺附近ノ隘路口ニ接近シアルノ害ナキニアラサルモ風間東方高地、十文字等適當ナル支撐點アリテ堅固ナル戰鬪線ヲ成形シ且各地區ノ前方ニ先ツ十分ナル射界ヲ有シ諸兵種ノ協同動作容易ニシテ支隊目下ノ狀況ニ適ス然レトモ右翼ヲ漆山附近ニ出シ主力ヲ以テ之ヲ守備スルトキハ其戰鬪狀態(乙)ニ類スルモノトナルヘク其指導モ亦然リ

又主力ニアラストスルモ有力ナル部隊ヲ清池又ハ其附近ニ出スコトハ敵主力ノ攻撃ヲ此方面ニ誘致スルノ虞アリ又我右翼ヲ十文字、漆山ノ中間附近ニ止メ

タルモノハ敵ノ包圍ヲ受クヘシ故ニ此案ハ左翼風間東方高地ヨリ十文字附近ヲ經テ右翼ハ清池東方約千米無名祠又ハ其東方四百米斷崖附近マテ延長スルヲ適當トス

## 三 部署ニ就テ

地形堅固ナル方面ニ反テ歩兵ノ兵力ヲ大ニシアルカ如キ、攻勢移轉即チ決戰ノ爲ノ指揮ノ系統ニ顧慮少ナキ如キハ不可ナリ

砲兵ノ主力ヲシテ攻勢移轉ノ時期ニ充分ノ協力ヲ爲シ得サルカ如キ陣地ニ在ラシムルハ不可ナリ又砲兵陣地ノ前方ヲ全ク開放シアルカ如キハ不可ナリ尙充分準備ノ時間ヲ有スルニ拘ラス歩兵、砲兵ヲシテ操典教示ノ如キ適當ナル關係位置ヲ探ラシメサル如キハ不可ナリ

## 四 敵ノ主攻撃方面ノ判斷

敵ノ攻撃方面ヲ判斷スルニ全ク地形ノミニ就テ考案シアルモノアルハ不可ナリ何トナレハ敵ハ偵察ノ結果我配備(設備)ノ大體ハ了知スルモノト見サルヘカラス果シテ然ラハ敵ハ地形ノミナラス我配備ニ由リ攻撃點ヲ選定スルナラン



換言スレハ諸官攻者タランニハ爾他ノ狀況ヲ除外セハ恐クハ地形上又ハ配備上ノ敵ノ弱點ニ乗スルコトヲ努ムルナラン從テ敵モ亦如斯ナルモノト考ヘ自己ノ配備ト地形トヲ併セ考ヘテ敵ノ攻撃方面ヲ判定シ要スレハ配備ノ修正ヲ爲スヘキモノナリ

五 攻勢移轉

攻勢移轉ノ方法防禦方針ト一致セサルモノアリ例ヘハ火力ヲ以テ敵ノ攻撃ヲ頓挫セシメテ攻勢ニ轉スル案ヲ立ツルモノニテ決戰時機ニ豫備隊カ如何シテ攻勢ニ轉スルヤヲ考案シアラサルカ如キ是ナリ目的ト手段トハ常ニ一致スル如ク工夫スヘシ

作業ノ作爲ニ就テ

一 判決ノ記載ナキモノ及其記述不明瞭ナルモノ例ヘハ要圖ノ如ク陣地ヲ占領スルヲ要スト記スルカ如キモノアリ將來實務ヲ執ル上ニ於テハ之ニテハ不適當ナリ注意シテ研究スヘシ

二 方針ノ記入ニ方リ處置乃至工事設備ノ程度等ハ強テ記入スルヲ要セス否此

等諸處置ノ生スル主旨ノ眼目ヲ記入スルヲ可トス

三 表題ハA支隊防禦ノ爲風間附近地形判斷ト記スルヲ可トス又表題ノ下ニハ此種作業ニ在リテ敵ノ攻撃ヲ受クル時機明瞭ナルトキハ強テ之ヲ記ササルモ可ナリ然レトモ晝間攻撃ヲ受クルトキト拂曉攻撃ヲ受クルトキトニ於テ差異アルカ如キ場合ハ特ニ之ヲ記入スルヲ要ス

四 此種作業ニ在リテハ地形ノ價值ニ應スル隊數ヲ記入スレハ足レリ強テ隊數ヲ記ササルモ可ナリ但シ視ル者ヲシテ指揮ノ系統ヲ了知セシムルノ注意ハ必要ナリ又諸官ハ學習上殊ニ將來實務ヲ執ルニ際シテハ其部署ヲ實行スルニハ直ニ何隊ヲ用フルヲ可トスルカヲ豫メ腹案シ置キ命令起案ニ支障ナキ準備ヲ爲シアルヘキハ勿論ナリトス

第三問題答解上ノ著眼

(一) 防禦戰鬪指導ノ方針

支隊防禦ノ指導方針ハ攻勢移轉ノ時機ヲ如何ニ豫定スヘキヤニ在リ步兵操典



第二部第七十一ハ決戰防禦ニ於ケル攻勢移轉ニ關シ左ノ如ク教示ス

- (1) 守兵ノ射撃ニヨリ敵ノ攻撃頓挫シタルトキ  
 (2) 敵ノ過失ヲ發見シタルトキ  
 同七十二ハ右ノ機會ヲ發見シ得サル不幸ナル場合ニ於ケル最後ノ手段ヲ指示シアリ

- (3) 最近距離ニ近接シタル敵ニ對シ最後ノ火力ヲ發揚シ全線ヲ擧テ突出ス

由之ヲ觀ルニ(3)ハ最後ノ非常手段ト見ルコトヲ得ヘク(2)ハ敵ノ過失ヲ基礎ト爲スモノニシテ不定ノモノナリ機會アラハ之ヲ利用スルハ勿論ナリト雖果シテ此機會アルヤ否ヤハ戰鬪開始前ヨリ豫察シ得ルモノニアラス(1)ハ即チ守者ノ當然勉ムヘキ所ニシテ兵力ノ均衡ヲ得テ攻勢移轉ノ機ヲ捉フル現代の攻勢防禦ノ方式ト謂フヘシ故ニ支隊長戰鬪指導ノ方針ハ火力ヲ以テ敵ノ攻撃ヲ頓挫セシメ以テ攻勢ニ轉スルモノナルヲ要ス而シテ此方針ニ基ク戰鬪ニ於テハ特ニ受働ノ守勢ニ陥ラサルコトニ注意スルヲ要ス(步二ノ五四)

世間往々此種防禦ノ受働的守勢ニ陥リ易キヲ慮リ敵ノ某程度ニ近接スルヲ待チ我ヨリ攻撃前進ニ移ルヲ可トスル旨ヲ説クモノナキニアラサルモ此ノ如キ機動的攻勢防禦又ハ防禦ノ假面ヲ裝フ攻撃準備姿勢ニ於ケル防禦法ハ敵ヲ知リ我ヲ知り地形特別ノ掩護ヲ呈スル等所謂對手次第ニ依ルモノナリ故ニ戰術上ノ正法ニアラスシテ權道ナリ何トナレハ全ク防禦ニ於ケル物質的利益ヲ放棄シ而モ敵ニ對シ勝利ヲ占メ得ル見込アラハ初ヨリ守勢ニ立チタル主旨ハ無意味ナレハナリ

軍ノ統帥上予ハ機動的攻勢防禦ヲ採用スヘカラストハ云ハス然レトモ戰鬪法トシテ觀タル攻勢防禦トシテ現代ノ方式ハ火戰ニ依リ兵力ノ均衡ヲ得テ後初メテ成立スルモノナリト稱スルナリ諸官目下ノ如ク初級ノ戰術研究中ニハ特ニ此注意ノ緊要ナルヲ認メ茲ニ一言ス

(二) 防禦線ノ選定

風間附近ニ於テ支隊防禦ノ爲採用シ得ル線ハ二線アリ

- (1) 大岡山、風間南端、青柳南端ノ線



- (2) 中里西南方高地、風間北部、十文字西端ヲ經テ立谷川ニ亘ル線  
 (3) 大森山、荒谷ノ線

(1) ハ地形比較的薄弱ニシテ且射界少ナク敵ノ近接容易ナリ(2)ハ左翼堅固ナル支撐點ヲ有シ相當ノ射界アリ攻勢ニ轉セントスル地帯ニモ若干ノ地物ヲ有ス(3)ハ敵ヲシテ中里西方高地十文字附近ニ堅固ナル攻撃據點ヲ得セシムルモノナリ故ニ予ハ第二ノ線ヲ以テ支隊防禦ノ目的ニ適スルモノト認ム詳細ハ先ニ總評ノ際述タルヲ以テ省略ス

已ニ述フルカ如ク風間、十文字、立谷川附近ニ亘ル線ニシテ支隊ノ防禦線ニ適ストセハ其防禦正面ヲ如何ニ決定スヘキヤノ問題ヲ生スヘシ

風間東側高地ハ堅固ナル支撐點ナルヲ以テ支隊陣地ノ左翼ヲ托スヘシ(歩二ノ五六第三項)

十文字ハ風間其他ト六七百米ノ間隔ニシテ彼此相應スルニ好都合ナル地物ナリ故ニ之ヲ一ノ支撐點ト爲スニ足ル(歩二ノ五六第二項及六二第二項末段)次ニ陣地ノ右翼ヲ決定セサルヘカス之本問題ノ重要ナル研究事項ノ一ナリ

抑、此種決戰防禦ニ在リテハ敵ヲシテ必スヤ我設備スル正面ニ向ヒ攻撃セシメ我火力ニ依リ敵ノ攻撃ヲ頓挫セシムルヲ要スルカ故ニ敵ノ必ス攻撃スルニ足ル相等ノ正面幅ヲ有セサルヘカラス否ラサレハ設備ナキ側翼ヨリ包圍セラルレハナリ而モ其正面ハ我兵力即チ攻者ニ比シ劣勢ナル兵力ニ相應シタルモノナラサルヘカラス(歩二ノ五六第二項)且勝利ノ基礎ヲ確實ナラシムル爲總豫備ノ兵力ハ大ナルヲ希望ス(歩二ノ六八)攻勢防禦ノ困難ナルハ此一事ヲ以テモ察シ得ヘシ

本狀況ニ於テハ敵ハ微弱ナル一師團ナルカ故ニ其攻撃正面ハ二吉乃至三吉ナルヘシ故ニ支隊モ亦之ニ對シ二千内外ノ正面ヲ領スルハ實ニ已ムヲ得サルモノナリ故ニ支隊ノ正面ハ風間東方高地ヨリ十文字ヲ經テ同村北方126.8標高點ノ西方四五百米ノ地點附近迄ハ少ナクモ之ヲ延長セサルヘカラス更ニ萬一ノ場合ヲ顧慮スルトキハ立谷川北岸ニモ一ノ支撐點ヲ要ス故ニ予ハ此際支隊ノ陣地ハ右翼清池東方無名祠ノ東方約四百米斷崖附近ヨリ十文字村附近ヲ經テ風間東方226.2高地附近ニ亘ル約三吉ノ正面ニ設備セラルルヲ



適當ト認ム支隊ハ僅々六大隊ノ兵力ヲ以テ三吉ノ正面ヲ占領シ而モ比較的  
大ナル豫備隊ヲ貯ヘテ勝利ノ基礎ヲ確實ナラシメントス茲ニ於テカ諸官ハ  
此種防禦カ特ニ地形ノ良好ナル援助ヲ要スルコトヲ首肯スルナラン又防禦  
ハ特ニ設備ヲ適切ナラシムルノ必要ト守備兵節約ノ緊要ヲモ了解スルナラ  
ン(步二ノ六八)

此種決戰防禦ニ於テ地形ノ有利ナルコト及陣地設備ニ多クノ時間ヲ緊要ト  
スル所以實ニ茲ニ存ス前回ノ決心ニ於テ陣地ノ設備ニ費シ得ヘキ時間ノ僅  
少ナルノ不利ヲ極論シタル主旨モ亦茲ニ於テ明瞭ナルヘシ

## (三)

攻勢ヲ企圖スル方面ノ決定

決戰防禦ニハ必ス攻勢ニ轉シ得ル地帯ヲ要ス(步二ノ五〇第一項末段)支隊ノ陣  
地ニ於テ地形上ヨリ觀ルトキハ風間東側高地ヲ除ケハ凡テ攻勢ニ轉シ得ヘキ  
地帯ナリ然レトモ攻勢ニ轉シ得ヘキ地帯全部カ常ニ必スシモ指揮官ノ企圖ス  
ル攻勢方面ト一致スルモノニアラス多クノ場合ニ於テハ此攻撃ニ轉シ得ヘキ  
地帯内ニ於テ何レノ方面ヨリ攻勢ヲ企圖スルヤヲ決定スルヲ要ス若此方面ノ

決定如何ニ依リテハ攻勢ニ轉シ得ヘキ地帯内ニ於テ攻勢移轉ニ使用スルヲ要  
セサル部分ニハ特別ノ設備ヲ要スルコトアルヲ以テナリ(步二ノ五八第二項)  
本狀況ニ於テハ風間東側高地ハ攻勢ニ轉シ得サル方面ナリ換言スレハ射撃ヲ  
以テ協力シ成ルヘク多ク敵ヲ此方面ニ吸引スルコトヲ勉メサルヘカラス十文  
字ハ敵カ我正面ヲ攻撃スルトキハ恰モ主力攻撃ノ焦點トナルヘキ地區ニシテ  
果シテ此守兵モ共ニ攻勢ニ轉シ得ルヤ否ヤハ今ヨリ判斷スルヲ得ス一ニ戰鬪  
ノ經過ニ待タサルヘカラス(步二ノ七〇、七一)而シテ此地區ノ守兵カ攻勢ニ轉シ  
得サル場合ニ於テモ支隊トシテハ攻勢ニ轉シ勝利ヲ得ルノ計畫ヲ爲ササルヘ  
カラス故ニ予ハ大體ニ於テ支隊ノ攻勢ヲ企圖スル方面ハ十文字(含マス)以北ノ  
地區ト豫定スルヲ適當ト認ム但シ狀況之ヲ許セハ平地方面部隊ノ全部攻勢ニ  
轉スルコトヲ希望スルヤ論ナシ

## (四)

陣地各部ノ價值ノ判斷

左翼地區中高地方面ハ地形堅固ナルヲ以テ設備ト兵力トヲ節約シ得ヘキモ同  
地區中平地方面ハ堅固ナル設備ヲ要ス而シテ十文字ハ有利ナル支撐點ヲ成ス



カ故ニ之ヲ核心トシテ所要ノ設備ヲ施シ其以北地物ナキ地點ハ人工的防禦設備ヲ行フヲ要ス

(五) 兵力ノ配當

地形ノ價值ト戰鬥指揮ノ方針トニ鑑ミ概ネ左ノ如ク兵力ヲ配當スルヲ可トス

高瀬川以南地區 歩兵一大隊

高瀬川立谷川中間地區 歩兵一聯隊

總豫備隊 立谷川北岸守備部隊及前方派遣部隊ヲ合セ歩

兵二大隊

砲兵及機關銃

以上各項ノ主旨ニ應スル如ク歩兵ニ協力シ得セシム

(六) 敵ノ主攻撃方面

敵ハ一部ヲ以テ高瀬川以南地區ヨリ主力ヲ以テ青柳、漆山中間地區ヨリ攻撃スルモノト判斷ス

(附言) 諸官ハ歩兵操典第二部第三章防禦ノ部ト築城教範草案第一章一般ノ要

領ヲ更ニ熟讀翫味スルヲ要ス

第三問題原案

既ニ述ヘタル所及後ニ述フル所ヲ綜合スレハ自ラ明瞭トナルヲ以テ略ス

防禦配備及陣地ノ設備

狀況

支隊長ハ陣地偵察後所要ノ命令ヲ與ヘ各隊指揮官ハ部下軍隊ノ招致及細部ノ偵察竝陣地構成ニ關シ所要ノ命令ヲ與ヘ諸隊ハ順序能ク工事ニ著手ス時ニ午後二時頃ナリ支隊ノ防禦工事ハ午後四時乃至午後四時三十分頃終了シ諸隊ハ所要ノ兵ヲ陣地ニ殘シ後方ニ於テ休止ノ姿勢ニ移ル

此時陣地占領掩護隊ヨリ敵歩兵ノ一部ハ午後四時過キ羽州街



道ヨリ山形市ニ進入セルモ敵ノ大部ハ同市南側附近ニ停止セ  
ルカ如シトノ報告アリ別ニ騎兵中隊ヨリ兵力不明ナルモ敵ノ  
一縱隊ハ長谷堂方面ヨリ山形市ニ向フ旨ノ報告アリ同時山形  
市方向ニ二三ノ小銃聲ヲ聞ク

#### 第四問題 (宿題)

風間附近A支隊防禦配備諸設備ヲ含ムノ要圖

#### 第四問題答解ニ對スル總評及答解上ノ著眼

##### 一 地區ノ區分

前述ノ判斷ニ基キ大體ノ方針決定セルヲ以テ之ニ應シ支隊長ハ先地區ノ區分  
ヲ爲ササルヘカラス之ヲ定ムルニハ目的ニ應シ地形ト指揮ノ便否トヲ顧慮ス  
ヘキコトハ操典ノ示ス所ナリ(步二ノ五八第一項)然ルニ諸官此區分ヲ明示セサ

ルモノアルハ適當ト云フヲ得ス本狀況ニ於テ十文字北端附近ヲ境界ト爲シ南  
北二地區ニ區分シタルハ確ニ目的ニ應シテ全陣地ヲ攻勢ヲ企圖スル方面ト否  
ラサル方面トニ分チタルモノニシテ一ノ考案ナリ然レトモ十文字及風間東方  
高地殊ニ大岡山迄ヲ一地區ト爲スハ指揮不便ナリ故ニ此際ハ地形殊ニ交通ノ  
難易ヲ顧慮シ(步二ノ五八第二項)寧ロ三地區ニ分ツヲ適當トス即チ立谷川以北  
ノ地區、立谷川、高瀬川間ノ地區、高瀬川以南ノ地區是ナリ

中央地區ハ攻撃ヲ企圖スル小地區ト否ラサル小地區トヲ含有スルヲ以テ一見  
當該指揮官ヲシテ二様ノ戰鬥指導ノ觀念ニ依リテ動作セシムルノ煩アルモノ  
ト考フルモノアラン實ニ然リ然レトモ事實十文字支撐點ト其北側地區ノ戰鬥  
ハ特ニ密接ノ關係アルノミナラス彼此相應シテ成功ヲ收ムルニハ却テ一指揮  
官ノ掌中ニ在リテ行動セシムルヲ可トス是操典カ狀況ニ應シ種々ニ變化アル  
コトヲ教示スル所以ナリ

##### 二 地區ニ備フル兵力ノ決定

中央地區ハ攻勢ヲ企圖スル方面ニシテ又敵兵攻撃ノ衝ニ當ル地區ナルヲ以テ



大ナル兵力ヲ配當セサルヘカラス故ニ此地區ハ一聯隊ヲ配當スルヲ適當ト認ム

左地區ハ敵ノ進路ノ一般方面ニ基キ又敵主力ノ攻撃ヲ安全ナラシムルニハ敵ハ比較的有力ナル兵力ヲ用フヘク我ハ成ルヘク多クノ兵力ヲ吸收スルヲ希望スル關係ヨリ比較的有力ナル部隊ヲ配當スルヲ可トス故ニ予ハ支隊ノ總兵力ニ鑑ミ一大隊ヲ用ヒントス

右地區ハ敵ノ企圖スル包圍ニ對スル顧慮ト攻撃前進ノ爲ノ立脚地ヲ堅固ナラシムル必要トヨリ一部ノ配兵ヲ要スルモ敵ノ進路ヨリ考フルトキハ重要ノ度前兩者ノ如クナラス故ニ予ハ步兵二中隊ヲ配當スレハ可ナリト思考スルモノナリ

總豫備隊トシテハ殘餘ノ一大隊半ヲ充當スルヲ適當ナリトス

砲兵使用モ亦概ネ前述地區守兵ニ相當スルモノナルヲ可トス詳言スレハ左地區ノ爲ニハ少ナクモ一中隊、中央地區ノ爲ニハ野砲大隊ノ全力又ハ主力ヲ充當シ右地區ニハ要スレハ一中隊位ヲ使用シ得ル如クスルヲ可トス故ニ予ハ左地

區ニ山砲一中隊、中央地區ニ野砲二中隊、他ノ野砲一中隊ハ當初控置スルヲ適當ト認ム

### 三 前地ノ分割

此種作業ニ於テ前地ノ分割ヲ記入セサルハ不備ナリ前地ノ分割ニ關シテハ步兵操典第一部中大隊戰闘ノ部(一七七)ニ記載シアルノミニシテ聯隊及旅團ノ部ニ之ナキヲ以テ往々聯隊以上ニハ必要ナキ如ク考フルモノナキニアラサルモ決シテ然ラス步兵操典第二部第六十一第二項ノ原則ヲ適用シ之ヲ行フヘキモノナリトス

軍隊指揮官ハ地區ニ從ヒ前地ヲ分割シ地區指揮官ハ更ニ之ヲ小地區ニ從ヒ分割シ逐次如斯シテ陣地前ニ於テ敵ニ安全地域ヲ與ヘサル如クスヘキモノナリ前地ヲ分割スルニハ常ニ擔任區域ヲ相交又シ重要ナル前地ニハ火力ヲ集中シ得ル如クスルヲ可トス

本狀況ニ於テハ右地區ニハ漆山―十文字道上漆山出口附近ヨリ以北ノ前地ヲ中央地區ニハ清池東側無名寺附近ヨリ青柳ノ内小字谷地南端附近ニ亘ル前地



ヲ左地區ニハ青柳ノ内小字河原北端附近ヨリ以南ノ前地ヲ分割配當スルヲ適當トスヘシ

四 陣地設備

陣地設備ニ際シ第一ニ定ムヘキモノハ歩兵火線ヲ何レニ選定スヘキヤニ在リ之カ爲敵ノ主攻撃ヲ受クヘキ方面タル十文字支撐點ヲ如何ニ編成スルヤヲ先ツ研究セサルヘカラス

十文字附近ニ支撐點ヲ編成スルニ方リ村縁ニ固著スルハ本邦村落ノ利用法トシテ適當ナラス寧ロ村縁ヨリ稍前方ニ防禦設備ヲ爲ササルヘカラス而シテ此支撐點ハ一大隊ヲ以テ守備シ得ルモノニテ而モ前面ニ障碍物(時間ノ許ス限り)ヲ設置シタルモノナルヲ要ス

十文字支撐點ヲ有力ナラシムル爲左地區中平地方面ノ火線ヲ何レニ定ムヘキヤハ一考ヲ要ス即チ學校附近マテ出スヘキヤ道路附近ニ止ムヘキヤ是ナリ前者ハ有効ナル協力ヲ爲シ得ル丈ケ自ラハ危地ニ陥ラサルヲ得ス若夫レ如斯セサレハ敵ヲ吸收スルコト及比隣地區ニ對スル協力不充分ナルカ故ニ火線ヲ此

位置ニ進メ其危險ハ設備ヲ以テ補ハントスル考案ハ一理アリ然レトモ此考案ハ陣地ニ於ケル支撐點ト中間散兵壕トノ本末ヲ顛倒セルモノナリ中間散兵壕ニハ如此任務ヲ課スヘキモノニアラス故ニ後退セル線ヲ可トス

風間以南ハ歩兵ノ火線ヲ高地ニ設備スルヲ堅固ナリトス砲兵ヲ風間高地ニ配備セントスル願慮及夜間防禦ノ願慮上風間東側畑地ニ歩兵ノ火線ヲ設ケタルモノアルモ如斯ルトキハ兵力ノ節約ニ困難ナリ而シテ此地區ニ於テ右翼ハ學校東方約二百米附近左翼ハ風間東側高地ニ托セント欲シ而モ中間ニ村落アリ是ニ於テ此地區ノ設備ハ研究ノ價值ヲ生スヘシ

中央地區右半部中126.8標高點西方約三百米附近ニハ二中隊ヲ以テ守備シ得ル支撐點ヲ設備スヘシ但シ此支撐點ノ前方ニハ障碍物ヲ設ケサルヲ可トス  
右地區ニ於ケル支撐點ハ無名祠ノ東方斷崖ノ附近ニシテ障碍物ヲ備ヘサルニ中隊分ノモノナルヲ可トス

右翼地區

二中隊分

一個

ハシ



中央地區

二中隊分 一個

一大隊分 一個

左翼地區

一中隊分(散兵壕)一個(平地)

一中隊分 一個(高地)

以上ハ支撐點及防禦上特ニ重要ナル散兵壕ナルモ此外中間ニ設備ヲナシ置クコトヲ怠ルヘカラス火力ヲ以テ決戰ノ機ヲ捉ヘントスル防禦ニ於テ特ニ然リ故ニ予ヲ以テ看レハ中間設備トシテ左ノ工事ヲ要ス

右翼地區支撐點中央地區右支撐點間ニ 一大隊分

中央地區 兩支撐點間ニ 一大隊分

左翼地區 高地下前記散兵壕間ニ 一中隊分

高地上約一中隊分

但シ十文字以南平地ノ散兵壕前ニハ時間之ヲ許セハ障碍物ヲ設クルヲ可トス

野砲ノ爲ニハ左ノ如ク陣地ヲ設備スルヲ可トス

山砲一中隊 中里西南方無名祠高地ノ稜線

野砲一中隊

高澤西側畑地

野砲二中隊

十文字東北方六百米附近

野砲一中隊

荒谷西方約八百米附近

十文字以北ニ於テハ第二線部隊ノ爲掩壕ヲ設備シ又交通壕ヲ設備シアルヲ要ス地障ノ通過設備ノ如キ特ニ然リ又之ヲ掩壕ニ利用スルヲ可トス其他彈藥補充其他ノ爲敵ニ暴露スル處ニハ蔭蔽シテ交通シ得ル如ク遮蔽物ヲ設クルヲ要ス

通信ニ關スル設備中各隊ノ電話器材ヲ以テ直屬部隊長間ヲ連絡シアルハ各作業ノ悉ク一致スル所ニシテ可ナリ而シテ支隊ハ電話隊ナキヲ以テ各獨立隊長ハ自己ノ器材ヲ以テ支隊長トノ連絡ヲ爲ササルヘカラス

電氣通信法ノ外別ニ通信法トシテ信號手配置及遞傳哨ノ配置ヲ怠ルヘカラス

五 陣地蔭匿手段

陣地蔭匿手段ノ必要ナルハ步兵操典第二部第六十三ニ明示スル所ニシテ本狀況ニ於テモ亦此原則ヲ適用シテ違算ナキヲ期セサルヘカラス此際研究スヘキ



ハ軍ニ斥候又ハ監視部隊ヲ配置シテ陣地ヲ蔭匿スルノミヲ以テ足レリトスルヤ或ハ偽工事ヲモ施シテ敵ヲシテ我陣地ヲ誤認セシムルコトヲ企圖スヘキヤ是ナリ例ヘハ大岡山、青柳、七浦ノ線附近ニ偽工事ヲ施ストキハ敵ハ我陣地ヲ偵察スルニ甚タシク惑ヲ生シ意外ノ好機ヲ捕捉シ得ルヤモ測リ難キカ如シ故ニ軍隊ニ大ナル努力ヲ要求スルノ嫌アリト雖此際偽工事詳細ハ後ニ述フヲ設クルヲ利トス但シ諸官ハ偽工事ナルモノハ所謂欺騙手段ニシテ常ニ必シモ好結果ヲ收メ得ルモノニアラサルヲ以テ之ニ多クヲ期待スヘカラス故ニ操典ニハ「偽工事ヲ設クルヲ利トスルコトアリ」ト示ス所以ナリ

抑、偽工事ハ目的ニ依リ其設備スル線及位置ヲ異ニスルモノナリ我陣地ニ關シ敵ヲシテ前後ニ於ケル位置ヲ誤認セシメ之ニ依リ時間ノ餘裕ヲ得ルカ又ハ敵ヲ過失ニ陥ラシメ之ヲ利用セントスル場合ニハ之ヲ真陣地線ノ前方ニ設ケ又相等ノ監視部隊ヲ配置シアラサルヘカラス然レトモ此際其兵力大ニ過クレハ動モスレハ前進陣地ノ害ヲ受クルノ虞アルコトヲ顧慮セサルヘカラス

我陣地線ニ關シ左右ノ位置、線上ノ設備又ハ兵力等ヲ誤認セシメ敵火ヲ偽工事ニ吸引セントスル場合ニハ防禦線上稍廣キ意味ニ於テ之ヲ設ケ真設備ト偽工事トヲ識別シ得サラシムヘキモノナリ步兵操典第二部第六十三築城教範草案第十八ニ云フ所ハ主トシテ此種ノ偽工事ナリ時トシテハ我陣地線即チ火線ノ後方高地線等ニ設クルコトアリトス

之ヲ本狀況ニ鑑ミルニ甲ノ目的ノ爲ニハ大岡山、青柳、七浦ノ線ニ相等ノ工事ヲ爲スカ大岡山西方高地附近ヨリ風間南端ヲ經テ學校、十文字西端ノ線ニ工事ヲ設ケ敵ノ兵力ヲ高地方面ニ吸收スル如クスルヲ可トス乙ノ目的ノ爲ニハ陣地兩翼及陣地ノ中間配備ヲ不明ナラシムル爲陣地線内真工事ノ間隙ニ適宜工事ヲ設クルヲ可トス山地ニ在ル砲兵陣地ノ如キ特ニ然リ

支隊目下ノ狀況ハ前進陣地ノ設備ヲナシテ時間ノ餘裕ヲ求ムル必要ハ之ナシ只敵ノ兵力火力ヲ陣地他部ニ吸引シ我射撃威力ノ發揚ニ依リ攻勢移轉ノ機ヲ發見スルヲ唯一ノ目的トスルヲ以テ此際ニ於ケル偽工事ハ主トシテ乙ノ目的ニ基キ大岡山西側ヨリ風間南端ニ亘ルモノト陣地内トニ設クルヲ可トス但



シ大岡山、青柳、七浦ノ線ニ偽工事ヲ設クルモ大ナル兵力ヲ配置セサレハ害ハナキモ効果モ少ナカルヘシ  
敵ノ搜索ヲ妨クル目的ヲ以テ斥候又ハ監視部隊ヲ出スヘキコトハ步兵操典第二部第六十三第一項ニ依リ勿論ニシテ大岡山南側ヨリ鷺森、落合ヲ經テ今塚ニ亘ル線附近ニ斥候ヲ、大岡山、風間南端、青柳南端、七浦、漆山附近ニハ其斥候ノ支援トナルヘキ小部隊即チ所謂監視部隊トシテ一小隊以内ノモノヲ配置スルヲ可トス

但シ先ニ陣地占領ノ掩護ニ任シアリシ中隊ハ夜間所屬隊ニ復歸セシメ此等ノ監視部隊ハ各地區指揮官ニ區域又ハ線ヲ示シテ之ヲ派遣セシムルモノトス

六 配備

配備ニハ豫定配備ト決定配備トアルコトニ注意スヘシ諸官ニ答解ヲ求メタルハ正當ナル敵情判斷ニ基ク所ノ豫定配備ナリ決定配備ハ敵ノ前進ニ伴ヒ始メテ生スルモノナリ(歩二ノ六四、七〇)守兵ノ配置、砲兵ノ陣地進入等即チ之ナリ  
豫定配備

- 右翼隊 步兵第一聯隊第一大隊(第一、第二中隊欠)、同機關銃一小隊
- 中央隊 步兵第二聯隊
- 左翼隊 步兵第一聯隊第二大隊、同機關銃一小隊
- 砲兵隊 野砲兵第一大隊、山砲兵第四中隊
- 總豫備隊 步兵第一聯隊本部、同第一第二中隊、同第三大隊、同機關銃一小隊、  
工兵第一中隊

細部ノ配備ハ圖上ニテ説明ス  
(本書ニハ之ヲ略ス)

攻勢防禦戰鬪經過ノ概要

狀況

三月十五日夕ニ於ケル支隊命令ニ基キ第一線各隊ハ現陣地ヲ守備シテ夜ヲ徹シ砲兵隊總豫備隊ハ荒谷南側畑地附近ニ露營



セリ此夜前方我監視部隊ノ前面ニ於テ彼我ノ斥候時々衝突ヲナス

三月十六日拂曉前敵ハ我斥候ヲ驅逐シテ其第一線小部隊ハ概ネ鷺森下柳見崎ノ線ニ現出シ我陣地ノ偵察ヲ爲ス敵ノ乘馬將校ヲシキ一群ハ高原高地<sup>△</sup>附近ニ出沒ス斥候ノ報告ニ依レハ山形市西北側ニハ敵ノ集團アルモノノ如シ

正午頃ニ至ルヤ敵歩兵約一中隊ハ鷺森北方高地ニ現出シ我大岡山守備隊ト一時射撃ヲ交換セルモ間モナク反對斜面ニ蔭蔽セリ

同時頃敵歩兵約一中隊ハ青柳河原北端附近及志村東端附近ニ進出シテ同地ヲ蔭蔽占領シ同方面ノ我監視部隊ハ陣地ニ退避セリ

夕刻ニ至ルモ狀況依然トシテ變化ナシ

諸隊ハ翌十七日拂曉ニ於ケル敵ノ攻撃ヲ豫期シツツ概ネ前夜ノ如ク徹夜ス

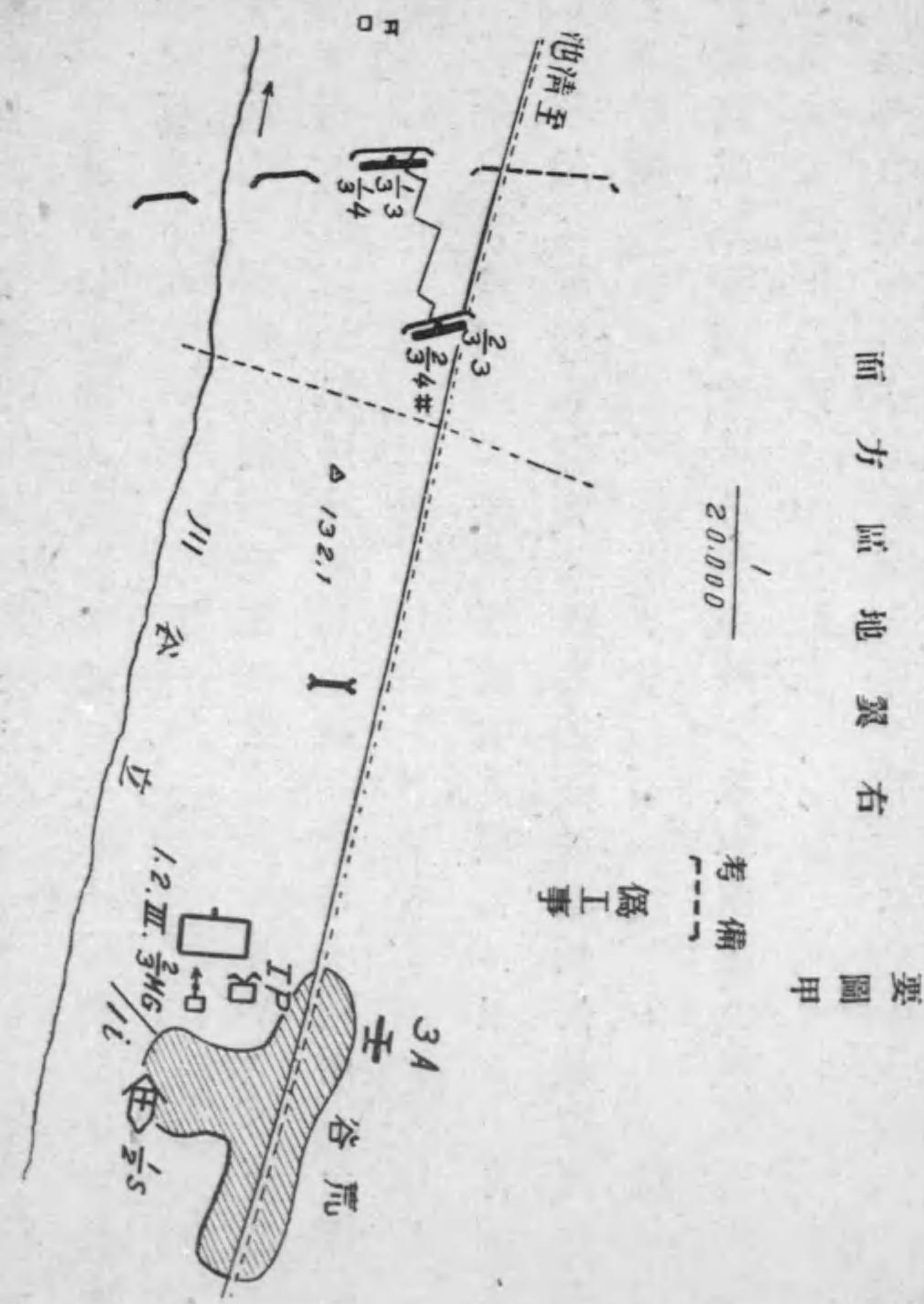
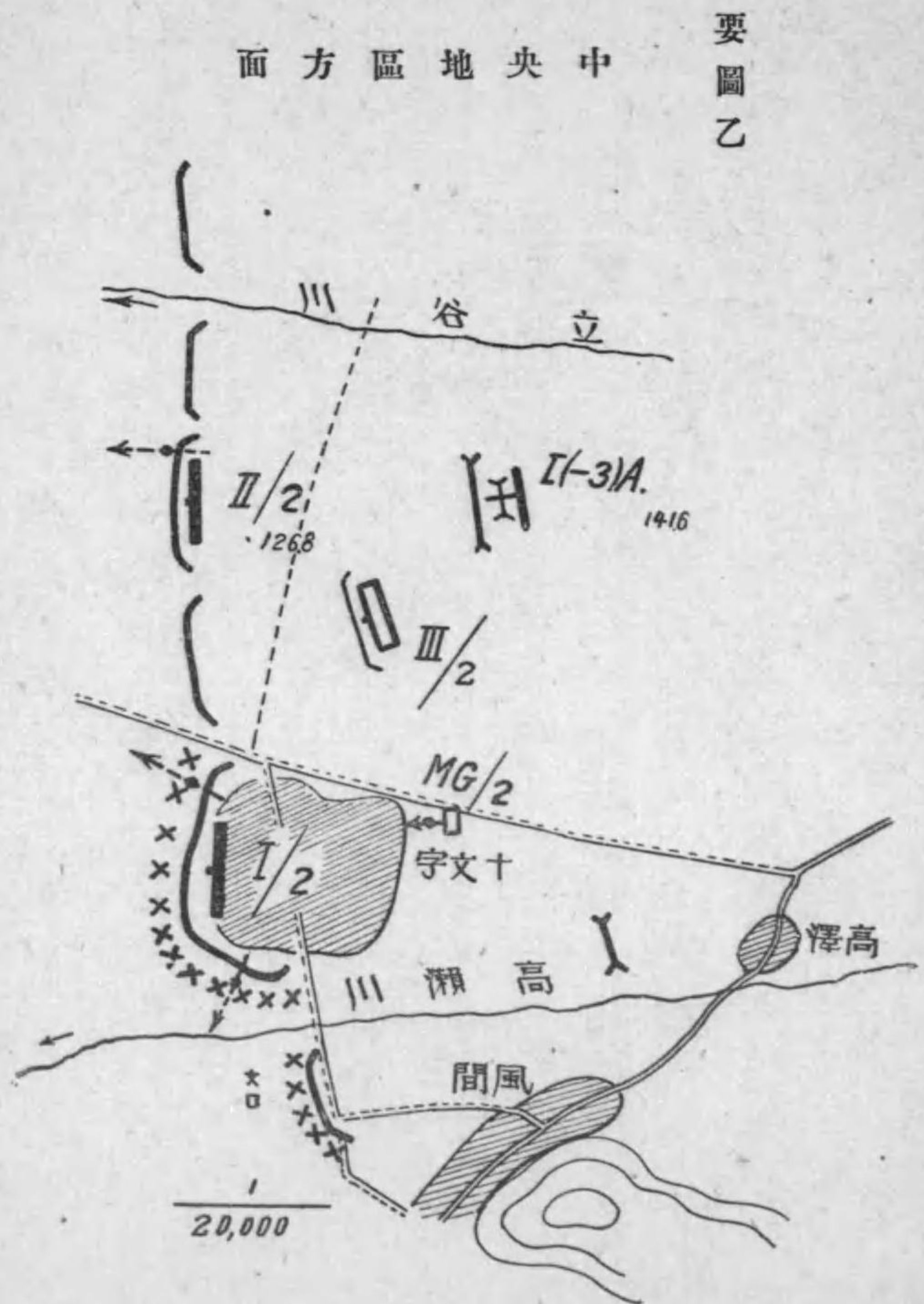
夜半大岡山守備隊ハ敵ノ夜襲ヲ受ケタルモ辛ウシテ之ヲ擊退スルヲ得タリ其他我陣地前ニハ敵兵夜暗ヲ利用シテ接近シツツアリ

三月十七日拂曉前即チ午前四時頃ノ報告ニ依レハ青柳及志村附近ニハ敵ノ部隊展開中ナルカ如シ又羽州街道方面ニ人馬車輛ノ運動頻リナルヤノ感アリ

第一線諸隊ハ警戒ヲ嚴ニシテ敵ノ攻撃前進ヲ俟チツツアリ其配備概ネ要圖甲、乙、丙ノ如シ

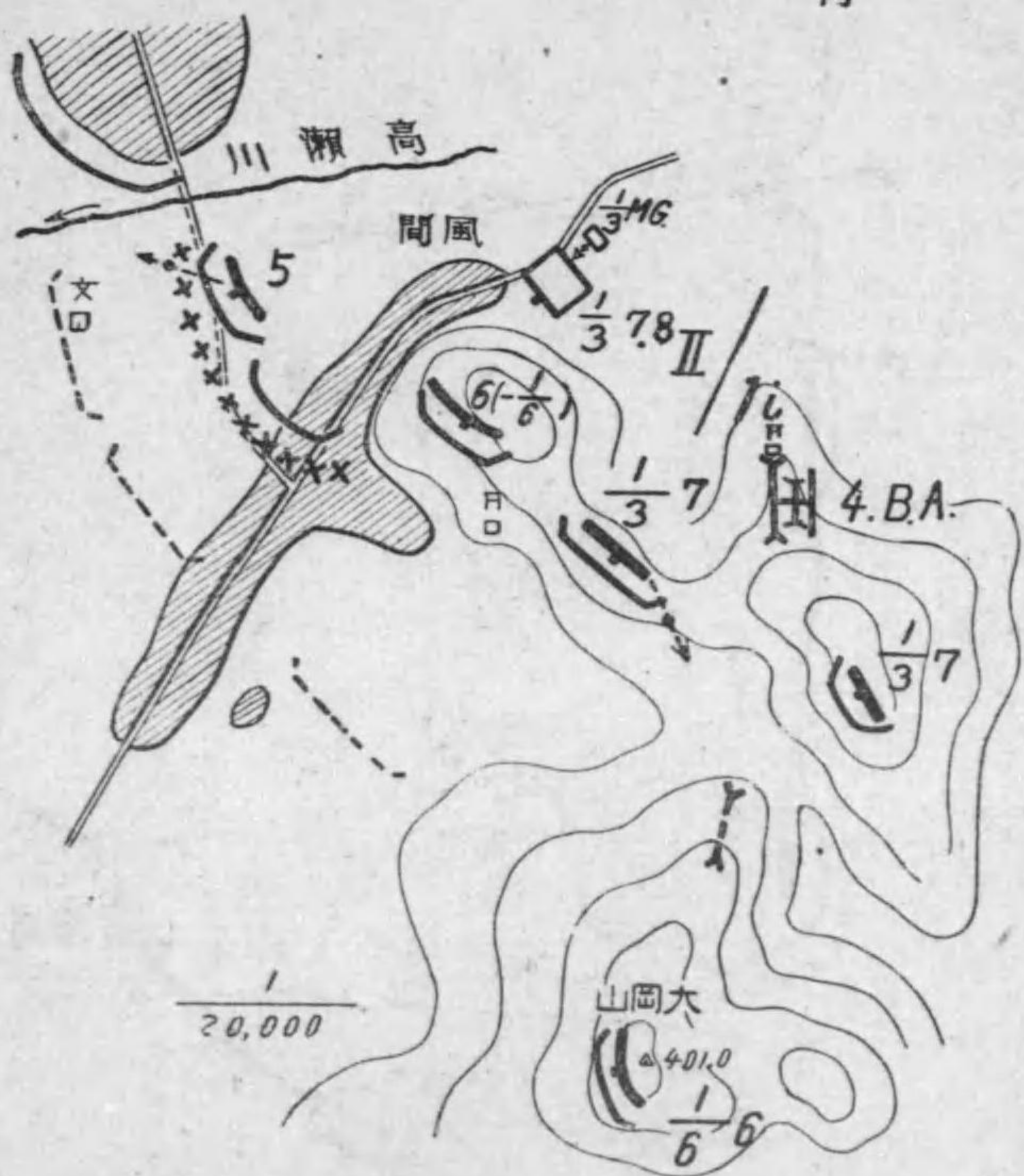
午前五時ニ至ル我陣地前寂トシテ聲ナシ







左翼地區方面



午前五時三十分乃至午前六時

支隊長ハ諸報告ニ基キ控置シアル砲兵第三中隊ヲシテ荒谷西方ノ陣地ニ進入セシメ尋テ砲兵隊長ニ射撃開始ヲ命ス茲ニ於テ敵砲兵モ亦應射ス之ニ依レハ約八門濱田北側附近、約十六門七浦西側附近ニ在ルカ如ク敵ノ歩兵ハ漆山東方約六百米ノ無名池附近ヨリ長谷西北端附近ニ亘リ濃密ナル散兵ヲ配置シ又風間方面ニ於テハ本道西側ニ約六百米、同東側ニ約三百米前後ノ散兵線アリ尙風間南方高地線附近ニモ敵兵アルモ其延長ハ未タ明確ナラス

午前六時乃至六時三十分

敵ハ漸次前進ヲ始ム我第一線諸處ニ緩徐ナル小銃射撃起ル敵歩兵モ亦若干前進ノ後射撃ヲ開始ス



午前六時三十分乃至七時

彼我ノ砲戰漸次激烈ナリ

左翼方面ニ於テハ敵歩兵約一中隊ハ青野東北山頂ヨリ、又一中隊弱ハ鷲森東北高地上ヨリ共ニ大岡山ニ對シ射撃ヲ集注ス

中央方面ニ於テハ十文字及其北側地區ニ對シ敵ハ濃密ナル散兵線ヲ以テ攻撃シ來ルモ我砲兵第三中隊カ一時目標ヲ此附近ニ變換セシ爲著シク前進シ得ス我第一線前約六百米ニ停止セリ

午前七時乃至午前八時

左翼方面ニ於テハ敵ノ大岡山ニ對スル攻撃益甚シク午前七時四十五分ニ到リ青野東北高地上ニ在リシ敵歩兵ノ内約一

小隊ハ其他ノ歩兵及濱田北方ニ在ル砲兵一部ノ援助射撃ノ下ニ南方ヨリ大岡山ニ向ヒ前進セントスル模様アリ將ニ大岡山東南約五百米ノ高地ヨリ前進ニ移ラントス此際我大岡山ノ守兵ハ陣地ヲ撤シテ同山東北方谷地ニ退却シ尋テ風間東側高地ノ西北麓ニ集合スルヲ得タリ午前八時稍前敵ノ一部ハ大岡山ヲ占領セリ

中央方面ニ於テハ敵ハ漸次其左翼ヲ延ハシツツ攻撃シ來リ殊ニ濱田北方ニ於ケル敵砲兵カ我歩兵線ヲ側射セシ爲敵情大ニ有利ニ傾カントセシカ我第一線諸隊長カ散兵線ヲ増加シテ其火力ヲ發揚セシト山砲兵中隊カ濱田北方ノ敵砲兵ヲ猛烈ニ斜射セシ爲戰況均衡ヲ持ス

午前八時乃至八時三十分



左翼方面ニ於テ敵ノ歩兵ハ大岡山ヨリ風間村役場ノ線ニ前進ス

其他ノ方面戰況概シテ變化ナシ但シ彼我ノ散兵線ハ漸次濃密トナリ小銃戰ハ時ト共ニ激烈トナル

午前八時三十分乃至午前九時

左翼方面ニ於テ敵歩兵ノ一部ハ更ニ風間ノ部落ニ沿ヒテ暴進シ概ネ同村中央丁字路附近ニ達セシカ我歩兵第八中隊ハ高地上ヨリスル射撃ニ掩護セラレツツ村落東側地區ヨリ逆襲シテ之ヲ前位置ニ撃退セリ

中央方面ニ於テハ敵ハ漸次散兵線ヲ増加シツツ躍進シ十文字附近最モ近キハ我第一線前約四百米ニ達シ其以北ニ於テハ概シテ五百米前後ニ達セリ之ニ對シ我山砲兵中隊ノ射撃

最有効ナルモ遺憾乍ラ目下全カヲ盡シテ濱田北方ノ敵砲兵ヲ射撃シアリ荒谷西方ニ在ル野砲兵第三中隊ハ今ヤ目標ヲ敵歩兵ニ取り有効ナル射撃ヲ送リツツアリ

午前九時乃至九時三十分

左翼方面ニ於テ敵ノ歩兵ハ二大隊以上ニシテ三大隊ニ近カラン、風間ノ東西兩側ニ於テ最我ニ近接シ其距離約三百五十米ナリ

中央方面及右翼方面ニ於テモ敵ハ屢前進ノ氣勢ヲ示スモ常ニ我火力ニ制壓セラレテ頓挫ス今ヤ十文字附近ニ於テハ全ク攻撃前進セス

敵ノ左翼ハ標高1132東北附近立谷川ノ線ニ在リ漆山東方ノ無名池東南方ニ約一大隊ノ後方部隊アリ高瀬川附近以北ノ



敵ノ歩兵ハ約五、六大隊ナラン  
 午前九時三十分前後敵砲四門七浦附近ヨリ漆山南部東側ニ  
 陣地ヲ變換ス我砲兵第三中隊ハ之ヲ猛射セシモ間モナク應  
 射スルニ到レリ

當時支隊ノ總豫備隊ハ立谷川堤防ニ沿ヒテ前進シ野砲兵第  
 三中隊陣地ノ北方河床内ニ在リ

午前九時三十分乃至十時

九時三十分稍過頃十文字ニ火災ヲ生ス當面ノ敵歩兵ハ之ニ  
 乘シテ一舉前進ヲ企テシモ地區守備隊ノ努力ニ依リテ之ヲ  
 拒止シ火災モ亦暫時ニシテ鎮火セリ當時此方面ニ於ケル敵  
 ノ後方部隊ハ漸ク悉キントスルモノノ如シ

是ニ於テ支隊長ハ十文字(含マス)以北ノ地區ヨリ攻勢ニ轉ス

ルニ決シ先ツ砲兵隊ヲシテ其主力ヲ以テ攻勢移轉ヲ準備セ  
 シム乃チ砲兵隊ハ第一中隊ヲ以テ濱田北方ノ敵砲兵ニ對セ  
 シメ其他ヲ以テ攻勢地區ノ歩兵ニ對シ三方向ヨリ火力ヲ集  
 中ス尋テ支隊長ハ歩兵第一聯隊(第二大隊及第一、第二中隊欠  
 ナシ)テ立谷川ノ兩岸地區ヨリ、歩兵第二聯隊ヲシテ其主力ヲ  
 以テ十文字(含マス)以北ノ地區ヨリスル攻勢移轉ヲ準備セシ  
 ム此間十文字及其北側ニ對スル敵歩兵三大隊餘ハ我前方約  
 百米ニ近接シ其一部ハ更ニ十文字北側ニ突擊セシカ歩兵第  
 二聯隊ハ逆襲ヲ以テ之ヲ擊退セリ又我右翼方面ニ於テハ敵  
 ハ概シテ三百米附近ニ近接セシモ其後前進ノ氣勢ナシ爾後  
 戦闘ハ時ト共ニ激烈トナル  
 支隊主力ハ陣地ニ於テ敵ヲ猛射シ午前十時攻撃ニ前進ス



## 攻勢防禦ニ關スル原則的説明

## (一) 意義及戰鬪性質

攻勢防禦トハ決戰的勝利ヲ得ンカ爲メ一地ニ於テ敵ヲ待チ敵ヲシテ先ツ攻撃セシメ自ラ豫定セシ時機及方面或ハ敵ノ與ヘタル時機ニ於テ攻撃ノ動作ヲ併セ行フヲ云フ

此種戰法ハ攻勢及守勢ノ兩利益ヲ適當ニ連結セシメントスルニ基クモノナリ元來攻者ハ確定セル決心ト行動ノ自由トヲ有シ守者ハ確定セサル希望(期待)ヲ有シ得ルニ過キス而シテ最後ノ勝利ヲ得ント欲セハ守者モ亦必ス某時機ニ於テ攻勢ヲ採ラサルヘカラス蓋シ戰勝ハ必スヤ攻勢前進ヲ以テ終結セサルヘカラサレハナリ然レトモ戰勝ハ必ス攻勢前進ヲ以テ開始スヘキヤ否ヤハ疑問ナリ換言スレハ攻勢前進ニ先チ停止シテ行フ火戰ノ顯著ナル物質上ノ長所ヲ利用スルノ可否ノ考察ヲ要スルコト是ナリ

(附言) 巧妙ナル統帥者ハ雷ニ戰術上ノミナラス戰略上ニ於テモ攻勢意志ニ基

ク守勢陣地ヲ選定シ敵ヲシテ之ヲ攻撃セサルヲ得サラシメ敵兵其損害、動搖、及疲勞ノ爲ニ氣力ノ悉クルヲ待チ戰術的攻勢ヲ採ル場合少ナカラス換言スレハ巧妙ナル統帥者ハ戰略的攻勢ト戰術的守勢ヲ良好ニ連結セシム又攻撃ニ際シテハ戰術的攻勢ト防禦ノ利益トヲ連結セシム敵ヲシテ必ス攻撃セシムヘキ陣地ヲ占領シ得ハ吾人ハ攻撃ニ移ル前先ツ防禦ノ利益ヲ利用スルノ可ナルコトアリ然レトモ此際注意スヘキハ縱令暫時タリトモ決戰ヲ遷延スルコトカ戰術的守勢ノ利益ヲ以テ補ヒ得サル如キ大不利ヲ來ササルヤ否ヤヲ熟慮セサルヘカラサルコト是ナリ之カ爲ニハ宜シク全般ノ形勢ヲ達觀スルヲ要ス

戰術的守勢ノ利益ハ關係集團ノ大ナルニ從ヒ漸次減少スルモノナルコトニ注意スルヲ要ス即チ

(1) 數里又ハ十數里ニ亘ル戰線ニ於テ到ル所防禦ニ適スル地形存在スルモノニアラス

(2) 某翼ヨリ他翼ヲ援助又ハ赴援シ難ク某翼ハ赴援ヲ受ケサル以前敵



ノ集中攻撃ノ爲撃破セラルルコトアルヘシ  
 正面ノ廣袤大ニ過クレハ突破セラレ小ニ失スレハ包圍セラル中庸ヲ得  
 サルヘカラサルコト勿論ナリ

攻勢防禦ハ其名ノ示スカ如ク攻撃ハ目的ニシテ防禦ハ之カ實行ノ手段ナリ換  
 言スレハ攻勢防禦ニ於ケル當初ノ配備ハ有利ナル攻勢動作ヲ取ランカ爲ノ準  
 備ノ姿勢ト見ルヲ得ヘシ

此種防禦ノ戰鬪性質ヲ研究スルトキハ凡ソ次ノ如クナル可シ

- (1) 攻撃ノ意圖即チ戰鬪目的ハ加働的ナリ
- (2) 位置ノ選定ハ加働的ナリ
- (3) 要機ヲ備フル陣地ナリト雖敵カ果シテ之ヲ攻撃スルヤ否ヤハ敵ノ隨意  
 ナルカ故ニ戰鬪惹起ハ加働的期待ト受働的現實トノ混合ナリ換言スレハ  
 半加働的ニシテ半受働的ナリ
- (4) 陣地ニ於ケル地形ノ利用ハ加働的ナルモ戰況ノ發展豫期ノ如クナルヤ  
 否ヤハ受働的ナリ

(5) 攻勢移轉ノ時機ノ捕捉ハ加働的期待ト受働的現實トノ混合ナリ

以上ノ如クナルヲ以テ更ニ之ヲ約言スレハ目的、位置ノ選定及地形ノ利用即チ  
 目的ニ從ヒ防禦配備ヲ爲スコトハ全然加働的ニシテ攻者ノ掣肘ヲ受クルコト  
 ナシ換言スレハ行動ノ動機ハ凡テ加働的ナルモ之カ現實ハ常ニ敵ノ行動ニ關  
 スル受働性ノモノナリ從テ防者自ラ此受働的現實ヲ主宰スヘキ位置ニ立タン  
 ト欲セハ敵ノ行動カ現實スル以前ニ於テ已ニ其行動ヲ豫察セサルヘカラス而  
 シテ此豫察ハ稀ニ適切ナル戰術的判斷ニ基クコトアルモ許多ノ場合ニ於テハ  
 指揮官ノ學識及實驗ノ結果ニ基ク戰術的想像ニ由ルモノトス而モ此想像ハ敵  
 ノ掣肘ヲ受ケツツ行フ處ノモノナリ

卓越セル將帥ニ在リテハ此想像ナルモノカ公平無私ニシテ能ク實際ノ狀況ニ  
 適合スヘシト雖凡庸ノ指揮官ニ至リテハ否ラス逐次發展スヘキ前線ノ戰況ハ  
 往々悲觀的ニシテ指揮官ノ精神ヲ錯亂セシメ想像ハ疑惑ト恐怖トニ蔽ハレ其  
 極自己意志ノ堅確ヲ害シ不決斷トナリ遲疑逡巡スルニ至ル而シテ指揮官意志  
 ノ不確實ハ部下ヲシテ志氣ノ沮喪企圖心ノ消失ヲ來サシムルモノニシテ歩兵



操典第二部第四第二項ノ教示ヲ嚴守スルコトハ防禦ニ於テ殊ニ緊要ナリ是歩兵操典第二部第五十四ノ劈頭防禦ハ動モスレハ全ク受働ノ守勢ニ陥リ易キコトヲ戒ムル所以ナリ兵團ノ大ナルニ從ヒ益然リトス

## (二) 要訣

前述戰鬪性質ノ説明ニヨリ明瞭ナルモ攻勢防禦ノ要訣ヲ摘記スレハ概ネ次ノ如シ

- (1) 堅確ナル攻勢的意志ニ依リ諸事ヲ統一シ戰鬪指導ニ關スル全般ノ計畫ハ此要旨ニ由リテ確立シ疑懼ノ念ヲ包含セサルヲ要ス
- (2) 位置ノ選定地形ノ利用及諸設備ハ攻勢移轉ノ主旨ニ合致スルヲ要ス
- (3) 攻勢移轉ノ時機ト方面及其方法ハ加働的ニ之ヲ選擇決行スルヲ要ス(但シ敵兵我豫期外ノ過失ヲ犯シタルトキ之ニ乘スルハ勿論ナリ)
- (4) 各級指揮官ハ各自獨立ト確信トヲ以テ攻勢移轉ナル唯一ノ目的ヲ基礎トシテ專心努力シ要スレハ自ラ犠牲トナリ全軍目的ノ遂行ヲ容易ナラシムルヲ要ス

## (三)

## 地形利用ノ著眼

地形利用ノ目的ハ説明スル迄モナク我軍攻撃精神ノ維持及攻撃力ノ發揚物質的威力ノ保持及對比的優勢ノ獲得並行動ヲ容易ナラシメ敵軍ヲシテ之ニ反セシムルニ在リ

- (1) 指揮官ニ對スル部下ノ信頼火戰及白兵戰ニ關スル信念ノ外防禦計畫ハ能ク徹底シテ疑義ナク又之ニ基ク勝利ノ信念ヲ發揚スルヲ要ス
- (2) 敵ノ統一指揮ヲ妨ケ行動ヲ局限シ若ハ兵力分離ヲ惹起セシメ我軍ハ統一指揮ト對比的優勢トヲ以テ之ニ對シ得ルヲ要ス
- (3) 敵ノ行動ヲ視察シ且我火力ノ發揚ニ便ニシテ敵軍ノ爲之ニ反スル地ナルヲ要ス

以上ノ要旨ハ歩兵操典第二部第五十六ヲ翫味セハ自ラ釋然タルモノアラシトニ注意スヘシ是現今ノ如ク進歩セル兵器ヲ以テスル防禦正面ハ縱令配兵小ナルモ十分堅固ニシテ能ク優勢ノ敵ニ對シ得ルモ一翼特ニ後方部隊



ナキ翼ハ甚薄弱ナルヲ以テナリ

正面ニ於ケル戦闘ハ防者ニ有利ナルニ關セス翼ノ配備又ハ依托ノ良好ナラサルカ爲翼側ニ於ケル危險ノ顧慮ヨリ遂ニ正面ノ戦闘ヲ徹底的ニ遂行スルコトナクシテ已ムヲ得ス攻勢意志ヲ抛棄スルニ到リシ例乏シカラス千八百六十六年七月三日Konigsberg附近ニ於ケル奧國北軍及明治三十七年六月十五日得利寺附近ニ於ケル露軍ノ如キ是ナリ(本書第一卷參看)

#### (四) 攻勢防禦ノ方式

攻勢移轉ヲ爲スヘキ場合ニ關シ步兵操典ハ已ニ述ヘタルカ如ク左ノ三場合ヲ指示ス

- (甲) 守兵ノ射撃ニ依リ敵ノ攻撃頓挫シタルトキ  
 (乙) 敵ノ過失ヲ發見シタルトキ  
 (丙) 最近距離ニ達セシ敵ニ對シ最後ノ火力ヲ發揚シテ敵ヲ震駭セシメ得タルトキ

(甲) ハ守勢ノ物質的利益ヲ遺憾ナク發揮シ然ル後攻勢ニ轉スルモノニシテ時機

ノ捕捉適切ナランカ最モ堅實ナル方法ナリトス然レトモ敵ノ攻撃ノ頓挫スルハ通常近距離稀ニ砲兵火ノ爲遠距離ニ於テ已ニ頓挫スルコトモアラシニ接近シタル場合ニシテ防者ノ損害モ相當ニ大ナルヘク又攻者ノ近接ニ伴フ精神的惡影響ハ大ニ増加スルモノナルコトヲ想ハサルヘカラス

(乙) ハ(甲)ノ場合ヲ除ク外凡テノ場合ヲ含有シ概括的ニ指示セルモノト解スヘキナリ故ニ其實質ニ就テ云ヘハ防者ハ觀テ以テ過失トナスモ攻者ハ自己内部ノ事情ノ爲已ムヲ得サルモノニシテ必スシモ過失ニアラサルコトモアルヘク又此等ノ所謂過失ナルモノハ防者ノ豫期スルモノモアルヘク又全ク偶發ノモノモ存スルナラン要スルニ(乙)ノ主旨ハ機會アラハ何レノ時機ニ於テモ之ニ乘スルノ可ナルコトヲ示スモノト知ルヘシ此種攻勢移轉ノ機會ニ關シテハ後ニ例示スル處アラントス

(丙) 終局迄受働ノ守勢ノミニテ終ルコトヲ避クル爲ノ最後ノ非常手段ニシテ坐シテ死ヲ待タンヨリハ進ンテ斃ルルニ若カスト爲スモノナリ本戦法ハ寧ロ我國々民性ニ鑑ミ採用セルモノナルコトヲ顧慮スルヲ要ス



攻勢移轉ノ時機及要領ニ關シ更ニ細説シテ二三ノ場合ニ於ケル方式ヲ掲ケレハ次ノ如シ

戰況ハ千變萬化窮極ナキモノナリ從テ予ノ例示スル二三ノ型式ニ拘泥シ戰機ノ妙用ヲ過ルカ如キコトアルヘカラス

(イ) 火戰ヲ主トスル防禦

歩兵操典第二部第五十六乃至第七十一ハ此場合ニ關スル原則即チ守兵ノ射撃ニ依リ敵ノ攻撃頓挫シタル場合ニ乘スル攻勢防禦ノ原則ヲ示スモノナリ故ニ茲ニ之ヲ記述セス唯一二ノ要項ヲ列舉シ諸官ノ注意ヲ喚起セントス

(A) 防禦線ハ火力ノ發揚ニ便ニシテ必要ナル方面ハ特ニ守兵ノ攻撃前進ニ便利ナルノミナラス敵兵全力ヲ擧ケテ我設備セル陣地ヲ攻撃スルモノナルヲ要ス且火線上ニ適當ナル支撐點ヲ有シ特ニ翼ノ支撐點ハ堅固ナルヲ要ス(步二ノ五六)

(B) 陣地ノ翼側後ニ豫備隊ノ爲適切ナル待機位置アリテ而モ機ニ乘シ攻撃前進ヲナスニ便利ナルヲ要ス

(C) 守兵ノ動作ト豫備隊ノ行動トハ相協力シテ攻勢移轉ヲ全カラシムルヘキ關係ニアルヲ要ス

(D) 戰鬪ノ重點ハ防禦線上ニ在ル守兵ナルヲ要ス換言スレハ火力ヲ以テ敵ヲ撃退シ得ルカ少クモ攻者ハ攻撃全ク頓挫シテ新ナル増援ヲ得ルニアラサレハ所謂坐シテ死ヲ待ツニ到ルカ如キモノナルヲ要ス

(E) 豫備隊ハ戰勝ヲ確實ニスルカ爲敵ニ最後ノ刺突ヲ加フヘキ七首ナサラルヘカラス而シテ銃劍突撃ヲ爲スヘキヤ停止シテ火戰ヲ交ヘタル後攻撃前進ニ移ルヘキヤ等ハ狀況ニ依ル

(F) 豫備隊ノ前進ニ伴ヒ守兵ノ全部又ハ一部ハ攻撃前進ヲ爲スヘキヤ將尙射撃ヲ以テ前面ノ敵ニ對スヘキヤハ我豫定計畫地形及敵ノ攻撃頓挫ノ狀態ニ關ス例ヘハ敵ノ攻撃頓挫ノ度甚シク攻守其處ヲ異ニシ最早依然止マリテ火戰ヲ繼續スルノ必要ヲ認メサルカ如キ狀況ニ於テハ全部攻撃前進ヲ爲スカ如キ是ナリ

(G) 以上ノ如クナルトキハ此種ノ防禦ノ攻勢移轉ハ一見強テ翼側ヨリ之ヲ



行フノ必要ナキカ如シ然レトモ縦令守兵ノ射撃ニ依リテ攻撃頓挫シタル攻者ト雖攻守其處ヲ異ニシ專ラ其現狀ヲ維持センカ爲ノ防勢ヲ主トスルニ至レハ其正面ニ於テハ案外鞏強ナル交戦ヲ爲シ得ルハ事實ナリ是吾人カ此種ノ防禦ニ於テモ尙攻勢移轉ハ之ヲ翼側ヨリ發展セシメント欲スル所以ナリ(歩二ノ六六七一)

(H) 若夫レ攻勢移轉ノ機ヲ失セハ敵ノ最近距離ニ來ルヲ待チ全線ヲ擧ケテ逆襲スルハ勿論(歩二ノ七二)尙敵ノ一部我陣地ニ突入スルトキハ守兵ノ奮闘ト相俟テ後方部隊ノ恢復攻撃ヲ決行スル(歩二ノ七三)ノ緊要ナルハ操典ノ示ス所ノ如シ

(ロ) 守勢地帯(堅固ニ設備セル地帯)ヲ軸トシテ其近傍側翼ニ於テ攻撃戦闘ヲ交ヘントスル防禦翼ヲ依托セル攻撃戰

此種防禦ニ於ケル守勢地帯ハ攻撃動作ノ樞軸ヲ成形スヘキ緊要ナルモノナルモ而モ戦闘ノ重點ハ之ヲ攻勢方面ニ有セサルヘカラス今大ナル狀況ニ就キ例示スレハ恰モ野戰軍カ要塞ヲ運動軸トシテ攻勢ヲ企畫スルト相似タリ

之ニ關シ一二注意スヘキ點ヲ述フレハ次ノ如シ

(A) 守勢地帯即チ防禦陣地ハ要機ヲ備フルト同時ニ堅固ニシテ防者ハ比較的僅少ノ兵力ヲ以テ守備シ得ルニ反シ攻者ハ其大部ヲ以テ必ス之ヲ力攻セサルヘカラサルヲ要ス

(B) 此種防禦ニ於テハ守勢及攻勢ノ爲ノ兵力分配ハ當初少ナクモ各半數ナラサルヘカラス成シ得レハ攻勢ノ爲ノ兵力ノ更ニ大ナルヲ希望ス

(C) 戦闘指導ノ著眼右ノ如クナルヲ以テ攻勢地帯ノ選定及準備位置ノ選擇特ニ緊要ナリ

此種防禦ニ於ケル總豫備隊ノ使用法ニ就キ一言スレハ次ノ如シ

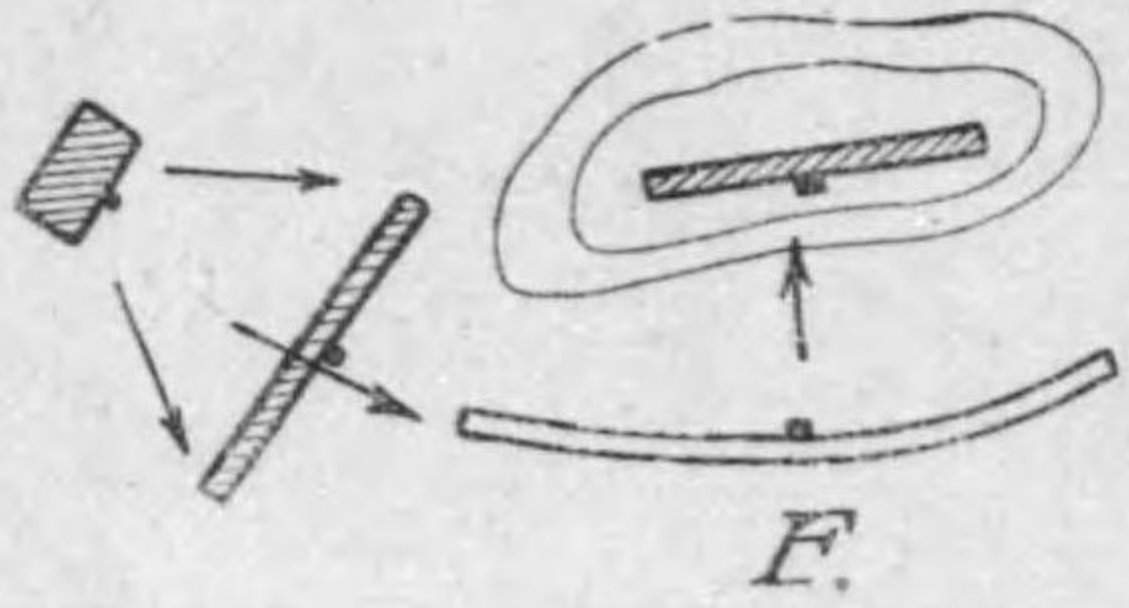
(I) 守勢地區ノ後方ニ位置スルトキ(旋回法)

此方法ノ利害左ノ如シ

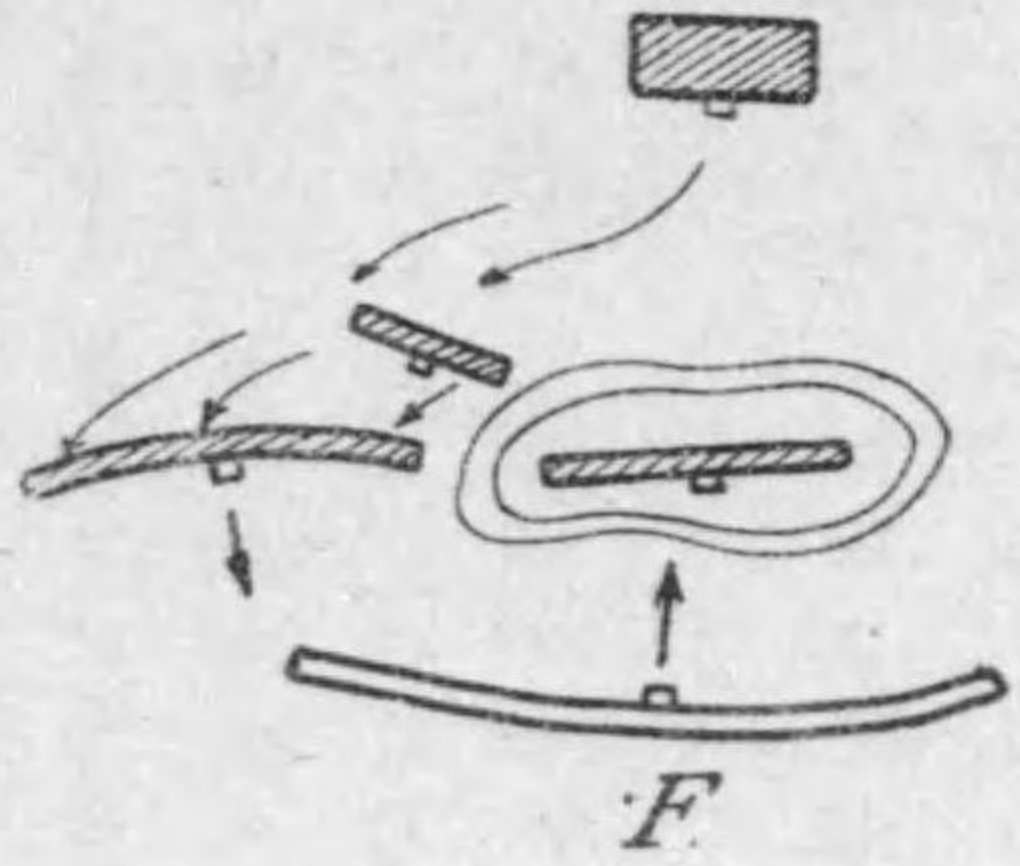
(a) 最初敵眼ヲ遮蔽シ我企圖ヲ秘匿ス

(b) 近ク後方ニアレハ損害ヲ受ケ遠キニ失スレハ時機ヲ失シ易シ





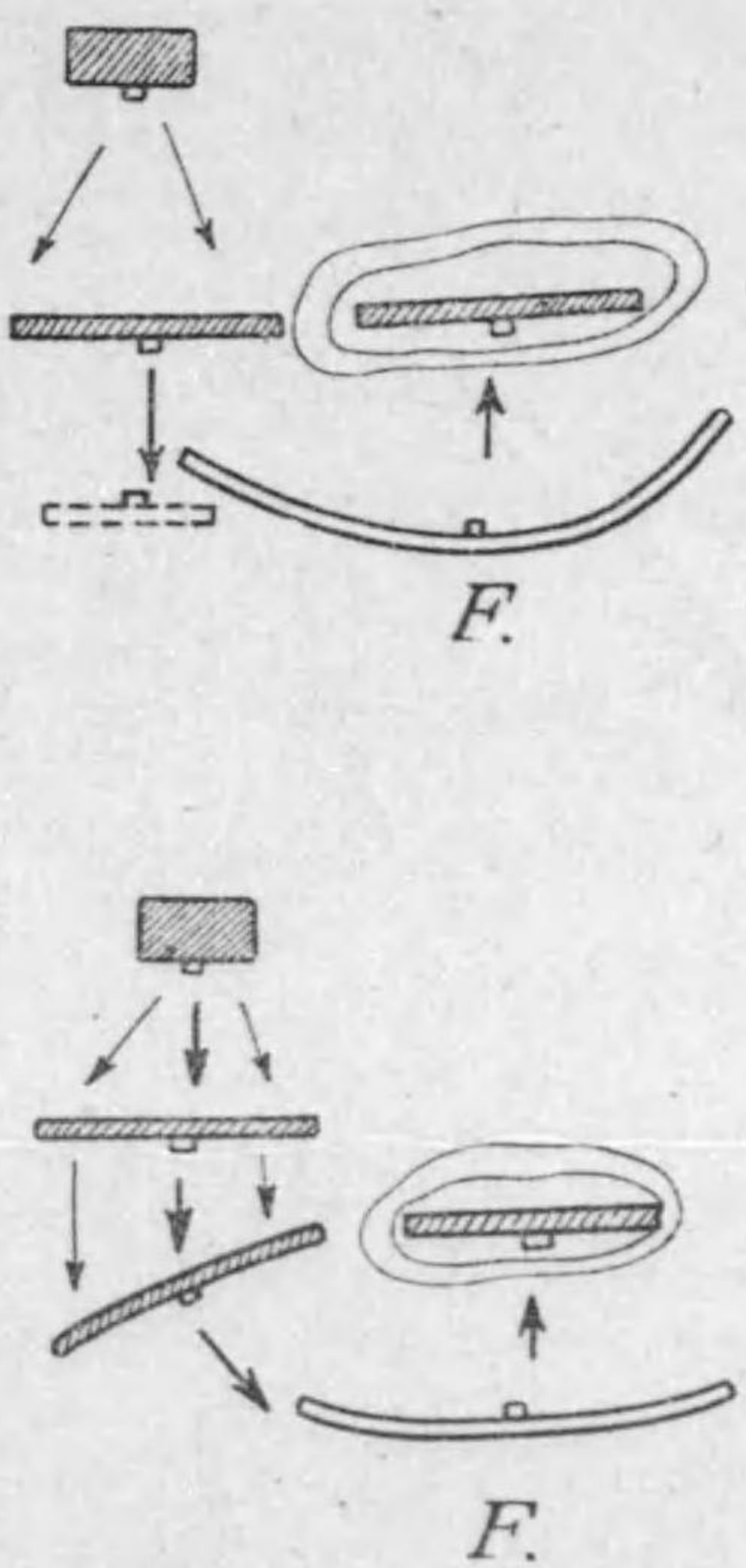
- (2) 守勢地區ノ側方ニ位置スルトキ(側撃法)  
 此方法ノ利害左ノ如シ
- (a) 機ニ先シ敵ニ發見セラレ我企圖ヲ妨害セラレ易シ
  - (b) 展開迅速容易且敵翼ヲ包圍シ得
  - (c) 守勢地區ニ對スル敵彈ノ損害ヲ受クルコトナシ



- (c) 展開ノ爲旋回ヲ要ス
- (d) 展開完了ニ時間ヲ要スル大ナリ



(3) 守勢地區ノ翼側後ニ位置スルトキ(半旋回法或ハ直進法)  
此方法ノ利害ハ前二者ノ中位ニ在リ



以上三種ノ場合ノ何レヲ採用スヘキヤハ步兵操典第二部第六十六ニ示ス  
所謂兵力戰況及地形ニ關係ス而シテ豫備隊ノ位置ハ戰況ノ變遷ニ應シ時  
々變化スルモノトス即チ攻撃前進ノ準備運動ヲ行ヒツツ位置ヲ轉スルモ  
ノナリ此種戰鬪ノ場合ヲ例示スレハ次ノ如シ

(a) 敵ヲシテ兵力運用ノ困難ナル地區ニ展開セシメ之ニ乘シ攻撃ニ前  
進ス (Troyes)

(ハ) 敵ノ薄弱ナル方面ニ對シ我優勢ヲ以テ攻撃ニ前進ス (Richmond)

此種防禦ハ所謂防禦ノ假面ヲ被リタル攻撃ノ準備陣トモ稱スヘキ姿勢ニ在  
リテ敵ノ接近又ハ兵力分離或ハ準備ノ不整頓ニ乘シ所望ノ方面ヨリ攻撃前  
進ヲ爲スモノニシテ陣地ニ配備スヘキ兵力ハ勉メテ之ヲ減少シ敵ヲシテ已  
ムヲ得ス我豫期ノ如キ行動ヲ採ラシムル爲カ又ハ我攻撃前進ノ際側翼等ノ  
掩護ニ任セシムルニ必要ナル程度ニ限ルモノトス  
今二三之ヲ例示スレハ次ノ如シ

- (a) 敵ノ兵力分離ニ乘ス (Austerlitz)
  - (b) 敵ノ行動地域ヲ制限シテ之ニ乘ス (Katzbach)
  - (c) 敵ノ準備中ナルニ乘ス (Rossbach 及沙河)
- (ニ) 攻撃中ナル敵ノ過失ニ乘スル防禦



此種ノ決戦ハ始メヨリ計畫シ得ヘキモノニアラスシテ偶發的ノモノナリ否始メヨリ如斯偶發事項ヲ條件トシテ戰鬪指導ヲ計畫スルハ危險千萬ナリ(將帥ノ力量ニ著シキ差異アル場合ニ於テ彼ノ Austerlitz ニ於ケル奈翁ノ如ク始ヨリ陷穽的計畫ヲ立テ其偶中セシ例ナキニアラサルモ現時各國軍ノ狀態及技術進歩ノ程度ニ於テハ稀有ナリ)又之ヲ豫定スルヲ得ス然レトモ若敵ノ過失ヲ發見セハ遲疑スルコトナク之ニ乘スルハ勿論ナリトス今假ニ一二ノ場合ヲ舉クレハ次ノ如シ

- (a) 攻者ノ近接動作ノ慎重ナラサル場合即チ步兵操典第二部第四十九ニ示ス用意ヲ缺キ主力ハ未タ戰鬪準備ノ完了セサル場合ニ際シ前衛ハ不用意ニ我陣地前ニ現出セル場合ノ如キ其一例ナリ
- (b) 攻撃計畫ノ根本的過失例ヘハ地形ノ判斷ヲ誤リ主力ノ使用方面不適當ナルカ如キ場合ニシテ沙河會戰ノ如キ其一例ナリ
- (c) 攻者カ縱隊分割ノ弊害ヲ暴露セシ時例ヘハ縱隊相互ノ連繫困難ナル地形ニ於テ不統一ニ陣地前ニ現出セシ時(各個擊破)

- (d) 攻者カ包圍又ハ迂回等ノ爲兵力ヲ分離セシ場合例ヘハ遼陽會戰中日本第一軍ノ太子河右岸ニ進出セシモノニ對シ露軍ノ企圖セシ攻勢ノ如キ是ナリ(各個擊破)
- (e) 攻者一部ノ暴進
- (f) 攻者ノ不自然ナル兵力移動例ヘハ攻者カ沈衰セル戰況ニ一轉機ヲ生セシメントシテ兵力移動ヲ企圖スル場合ノ如シ
- (g) 攻撃砲兵ノ不適當ナル陣地變換射擊ノ中絶ヲ避クル爲通常陣地變換ハ梯次ニ行フヘキモノナルコト野戰砲兵操典草案第二部第四十二ニ示ス所ナルモ此注意ヲ缺キシカ如キ場合ハ此例ナリ)
- (h) 攻撃砲兵カ過早ニ彈藥ヲ射耗セシカ如キ場合攻撃計畫ノ缺陷トシテ準備彈藥ノ不足或ハ攻撃指導法ノ適切ナラサル爲等ニ因リ攻者ノ彈藥缺乏ニ陥リシ場合此判斷ハ砲兵ノ戰鬪狀態ニ由ルノ外ナキモ緊要ナル時機ニ方リ活潑ナル射擊ヲ繼續シ得サルカ如キ場合例ヘハ南山攻撃ノ日本軍ニ於ケルカ如シ



之ヲ要スルニ攻者ノ避クヘカラサル缺陷及過失ハ防者ノ乘スヘキモノナ  
リト雖之ヲ原則的ニ列擧スルハ不可能ナリ但シ一定ノ敵ニ對シテハ其編  
制裝備及戰法ノ特徴アルヲ以テ多少趣ヲ異ニス

(ホ)

増加隊ノ來著ヲ待チテ攻勢ニ轉スル防禦

此種防禦ヲ攻勢防禦ニ入ルヘキヤ持久防禦ニ入ルヘキヤハ疑問ナリ何トナ  
レハ此防禦ハ左ノ要件ヲ基礎トスルモノナレハナリ

- (1) 増加隊ノ到著迄ハ持久ヲ目的トス
- (2) 増加隊到著以前ニ於テハ縱令機會アルモ之ニ乘スヘキ實力ヲ有セス
- (3) 増加隊到著後ハ攻勢ニ轉スヘキモ果シテ如何ナル時機場所方法ニ於テ  
之ヲ決行スヘキヤハ増加隊到著時ニ於ケル戰況ニ關シ豫メ之ヲ確定スル  
ヲ得ス
- (4) 増加隊ノ到著ト共ニ攻勢ニ轉スル方法ヲ案スルニ次ノ如シ

(a) 全隊(新舊共ニ)攻撃前進ニ移ル

(b) 舊陣地ヲ軸トシテ増加隊ヲシテ攻撃前進ヲ爲サシム

(c) 増加隊ヲ一度防者ノ總豫備トナシ後機ヲ見テ攻勢ニ轉ス

何レノ手段ニ出ツヘキヤハ一ニ現時ノ狀況ニ關ス  
以上論スル所ヲ以テスレハ當初指揮官ノ自力ヲ以テ決行スヘキハ一ニ持久  
的防禦アルノミニシテ其他ハ單ニ豫定ニ過キス何トナレハ指揮官ハ目下攻  
勢ニ必要ナル實力ヲ有セサレハナリ故ニ攻守兩勢ノ轉換作用ヲ防禦陣地附  
近ニ於テ行フ點ヨリ見ルトキハ一ノ攻勢防禦ニ相違ナキモ此轉換作用ノ實  
現ノ爲ニハ時機ニ特殊ノ制限ヲ受ク故ニ此時機ヲ分界線トシテ觀察スルト  
キハ持久防禦ト攻撃トノ稍、緣遠キニ戰法ノ結合ナリ而シテ此連結ヲ如何ニ  
圓滿ニ指導シ得ルヤハ一ニ指揮官ノ技量如何ニ關係スト謂フヘシ

### 攻勢防禦ニ關スル戰例

以下攻勢防禦ニ關スル若干ノ戰例ヲ掲ケテ研究ニ資ス  
明治三十七年八月下旬ヨリ九月月上旬ニ亘ル遼陽會戰ニ於ケル露軍ノ行動ハ防禦  
カ動モスレハ受働ノ守勢ニ陥リ易キコトヲ證スヘキ一例ナリ



## 遼陽會戰ニ於ケル露軍ノ行動

一 八月下旬露軍司令官ハ寒坡嶺附近ヨリ鞍山站附近ニ亘ル前進陣地ノ線ニ於テ日本軍ニ對シ一大決戰ヲ企圖ス即チ南部兵團(三軍團)ヲ以テ鞍山站陣地ニ於テ日本第二、第四軍ヲ拒止セシメ東部兵團(二軍團)ヲ以テ寒坡嶺附近ノ陣地ヲ守備シ日本軍第一軍ノ攻撃ヲ俟チテ更ニ一軍團ヲ此方面ニ増加シ三軍團ヲ以テ之ヲ擊破スルノ計畫ヲ立案セリ

然ルニ八月二十六日夜寒坡嶺附近陣地ノ一角日本軍ノ手ニ落チタリトノ誤報ニ接スルヤ軍ノ左翼極メテ危險ナリトシ加フルニ湯河増水セル爲該方面ノ退路危險ナルコトヲ慮リ夜半命令ヲ下シテ軍ヲ遼陽第一陣地ニ後退セシムルニ決ス

二 露軍司令官ハ太子河兩岸ニ機動ヲ行ヒ好機ニ乘シ攻勢ニ轉シ以テ日本軍ヲ擊破セントス

第一陣地ニ於ケル露軍ノ配置ハ大略要圖ノ如シ

日本軍ハ八月三十日遼陽—湯河沿道以西地區ニ於テ攻撃ヲ開始ス一方第一軍主力ハ專ラ太子河右岸ニ對スル進出準備ヲ爲ス

露軍ハ此日全力ヲ擧ケテ陣地ヲ固守セシカ右翼ニ於テ危險ヲ感シ總豫備隊ノ内歩兵四聯隊ヲ此方面ニ増加シ反對ニ日本軍ノ左翼ヲ包圍セントスルノ狀況ヲ呈セリ

八月三十一日日本第一軍主力ハ太子河右岸ニ進出セシモ其他ノ方面ニ於ケル攻撃進捗セス露軍ハ總豫備隊ヲ逐次第一線ニ注入シテ日本軍ノ攻撃ヲ拒止スルノミニシテ決然タル攻勢ヲ取ラス却テ太子河右岸ニ於ケル左側背ノ危險ヲ感スルニ到リ南正面ノ攻勢ヲ斷念シ該方面ハ第二陣地ニ後退セシメ其滅シ得タル兵力ヲ以テ太子河右岸ノ日本軍ヲ擊破セントシ約四師團半ヲ以テ太子河左岸第二陣地ヲ固守セシメ西伯利第一、第三軍團及第十軍團ヲ太子河右岸ニ移シ第十七軍團ト合シテ攻勢ヲ取ラントス

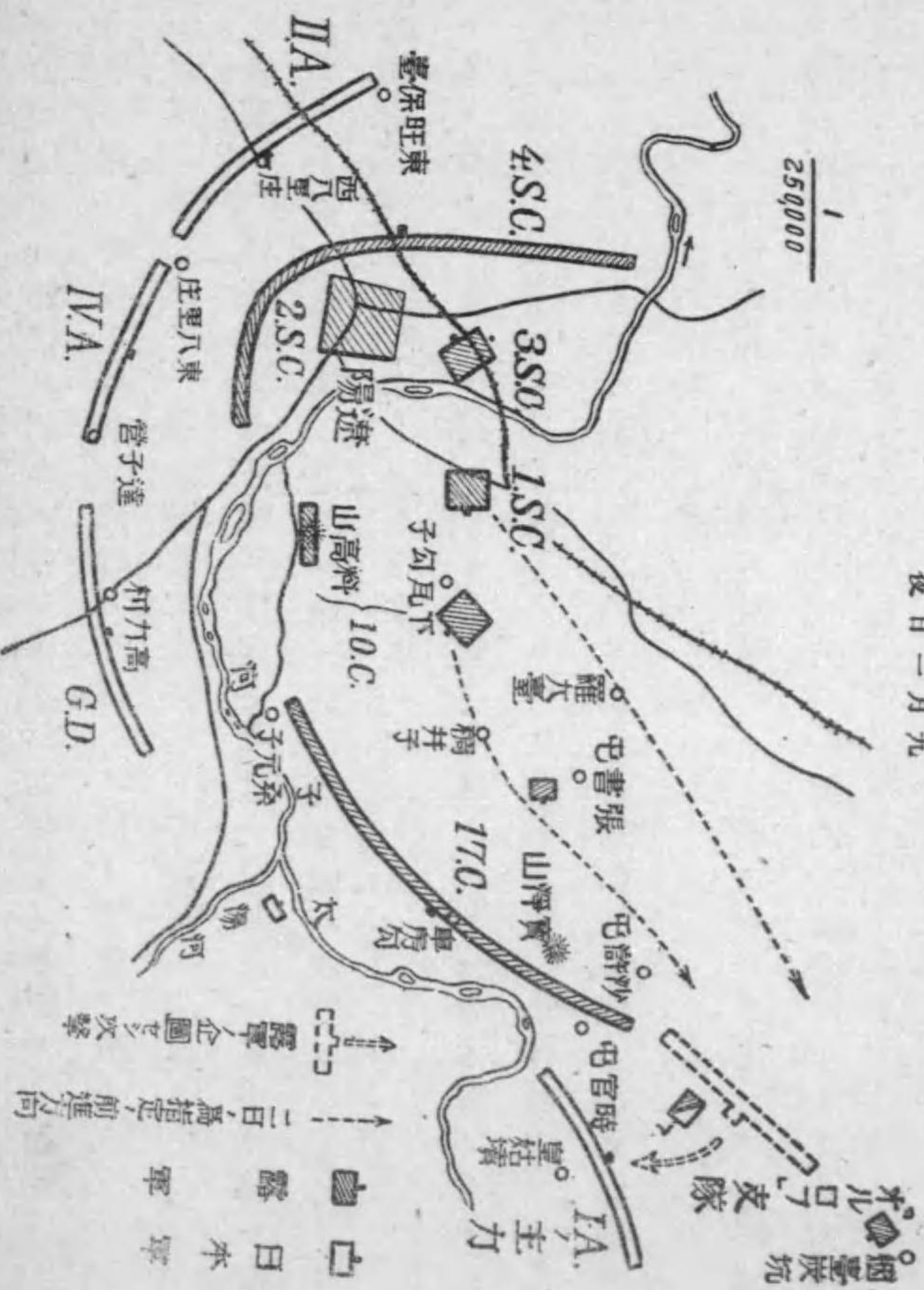
三 露軍司令官ハ右ノ企圖ヲ實行スル爲九月二日太子河右岸ノ兵力ヲ時官屯烟台炭坑ノ線ニ展開シ時官屯陣地ヲ軸トシテ右旋回ヲ爲シ三日攻撃ヲ實行セン







位置ノ軍南露日  
夜日一月九



千八百十四年二月上旬 Troyes 附近ニ於テ奈翁ノ計畫セシ攻勢防禦

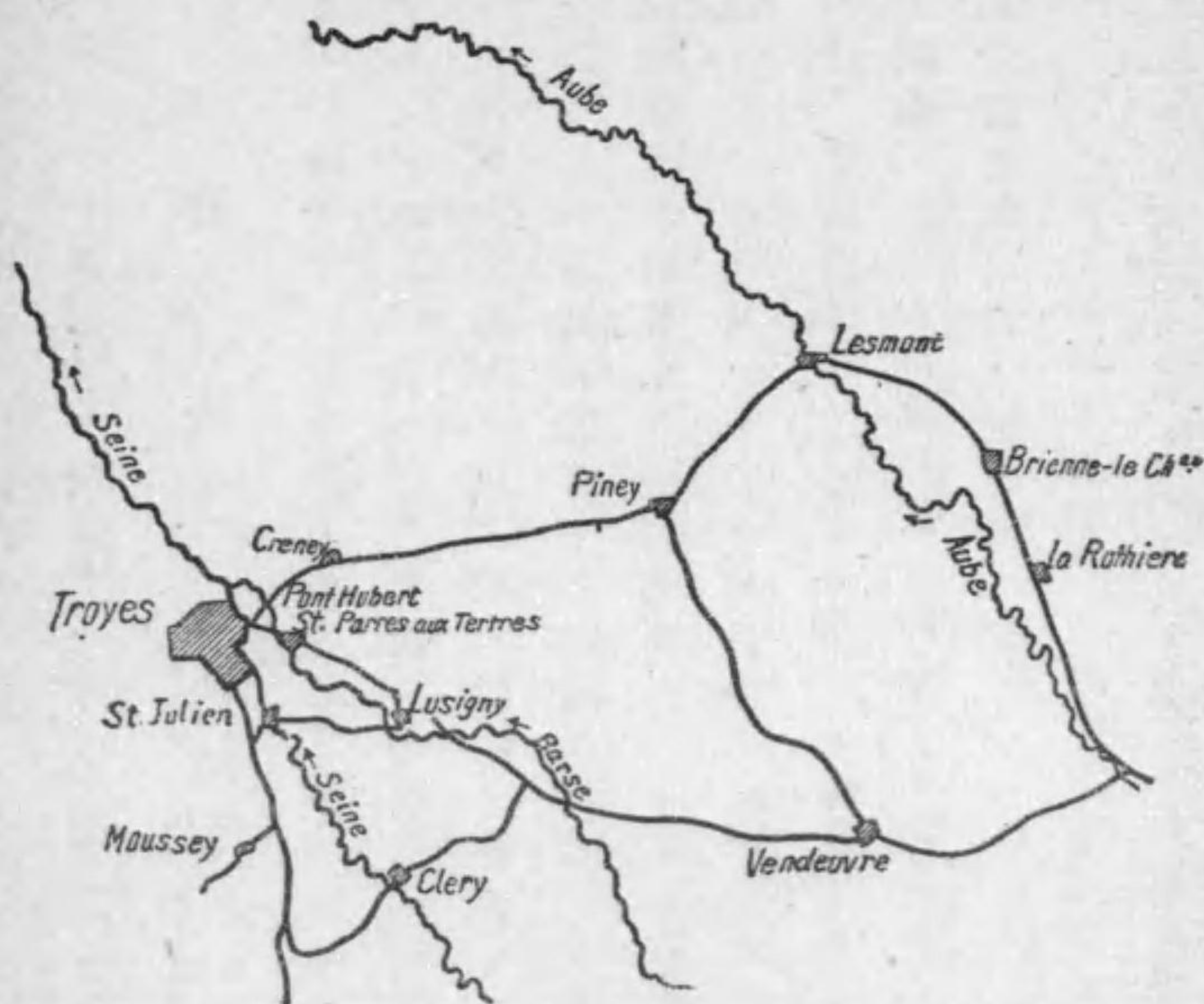
此防禦ハ著シク優勢ナル敵カ地形上其兵力ヲ分離セルニ乘シテ攻勢ヲ取ラントセシモノニシテ之カ爲一翼ハ之ヲ堅固ナル地形ニ依托シテ敵ノ攻撃ヲ拒止シ他ノ翼ニ於テ控置セル豫備隊ヲ以テ攻勢前進ヲ爲サントセシモノナリ

- 一 奈翁ハ二月上旬其素質劣等ナル四萬人ノ軍ヲ Troyes 附近ニ集結ス。
- 二 倍以上優勢ナル同盟軍ノ主力(九萬人以上)ハ Lesmont, Vendeuivre 及 Seine 河左岸ヨリ前進スルモノノ如クニシテ其兵力ハ Barse, Seine 兩河ノ爲ニ分離セラルヘク且 Troyes ヨリ Piney 及 Vendeuivre ニ通スル街道上 Barse ノ渡河點ハ防禦ニ適當セルヲ以テ奈翁ハ Troyes 附近ニ於テ防禦スルヲ有利ナリト判断セリ
- 二 之カ爲奈翁ノ部署次ノ如シ

Troyes 東北方 Pont Hubert 附近ニ於テ Piney 方向ニ對シテ陣地ヲ六千人 占領ス但シ其騎兵ハ Creney 附近ニ派遣ス退却ニ際シテハ Troyes



千八百十四年二月上旬  
Troyes 附近ニ於ケル奈翁ノ運動



ヨリ下流ニ於テSeine河ヲ渡過ス

七千人

Lusigny 附近ニ於テ Barse ノ渡河點ヲ扼シ包圍ヲ受クルニ至レ  
St. Parres aux Terres ノ橋梁ヲ保持ス

八千人

Troyes 市街ヲ防禦ス

一萬八千人

St. Julien 及其後方ニ集結シ騎兵三千ヲ以テ其前方ヲ警戒ス

三 奈翁ハ右ノ部署ヲ以テ Vendevre ヨリ Seine 左岸ニ向ヒ前進スル敵ニ對シ Moussey ヨリ Clery ヲ經テ攻撃前進セントセシカ同盟軍ノ一部遠ク左側背ニ前進スルノ氣勢アリシ爲遂ニ此企圖ヲ拋棄シテ西方ニ退却スルノ已ムナキニ至レリ  
因ニ Von Wartenburg ハ此ノ場合ニ於ケル奈翁ノ決心ヲ千八百七年 Passarge 河畔及千八百九年 Leclerc 河畔ニ於ケル彼ノ卓越セル行動ト併賞シテ曰ク「茲ニ於テ奈翁ノ元帥タル天才ハ俄然再ヒ光輝ヲ發シ吾人ヲシテ其全盛ノ時代ヲ追想セシメタリ是實ニ彼カ其天才ヲ發揮セシ最後ノ場合ト謂フヘシト」

千八百十三年八月二十六日 Katzbach ノ戰鬪



本戦闘ハ敵ノ展開困難ナル地形ヲ前方ニシテ後退配備ヲ爲シ豫メ展開セル正面ヲ以テ敵ノ進出ニ乗シ攻勢ニ轉セシモノナリ

戦況ヲ述フルニ先チ十三年戦役ノ初期ニ於ケル奈翁ノ作戰ノ梗概ヲ述フ

一 千八百十三年八月中旬奈翁ハ Böhmen ニ在ル同盟軍ノ主力カ En 山脈ヲ越エテ Dresden 方向ニ進入スヘキヤ或ハ尙東方 Lausitz 山脈ヲ越エテ Blücher ノ指揮スル Schlesien 軍ト提携スヘキヤ不明ノ裡ニ在リテ一部ヲ以テ Dresden ヲ守備シ他ノ有力ナル一部(Bober 軍)ヲ以テ Schlesien ニ於テ敵ノ Schlesien 軍ニ對セシメ主力ヲ Lausitz 山脈ノ北方ニ集結シアリシカ Schlesien 方面ノ敵ハ Böhmen ニ轉進シ同地方ニ在ル同盟軍本軍ニ合セントストノ情報ヲ得ルヤ一方兵力ヲ Görnitz 方面ニ集結シ他方ニ於テハ自ラ Zittau ニ赴キテ Lausitz 山脈ノ防備ニ從事ス然ルニ此間 Schlesien ニ於テハ大將 Ney ノ指揮スル Bober 軍ハ逐次敵ノ Schlesien 軍ニ壓迫セラレテ Bober 河ノ後方ニ退避ス

奈翁ハ Lausitz ノ状況急ナラサルヲ見テ先ツ Schlesien 軍ヲ擊破セントシ自ラ主力ヲ提ケテ八月二十一日 Bober 河ノ線ニ前進ス其兵力 Bober 軍ヲ合シテ十八萬ヲ算ス

二 同盟軍側ニ於テハ Blücher ノ指揮スル Schlesien 軍ノ任務左ノ如シ

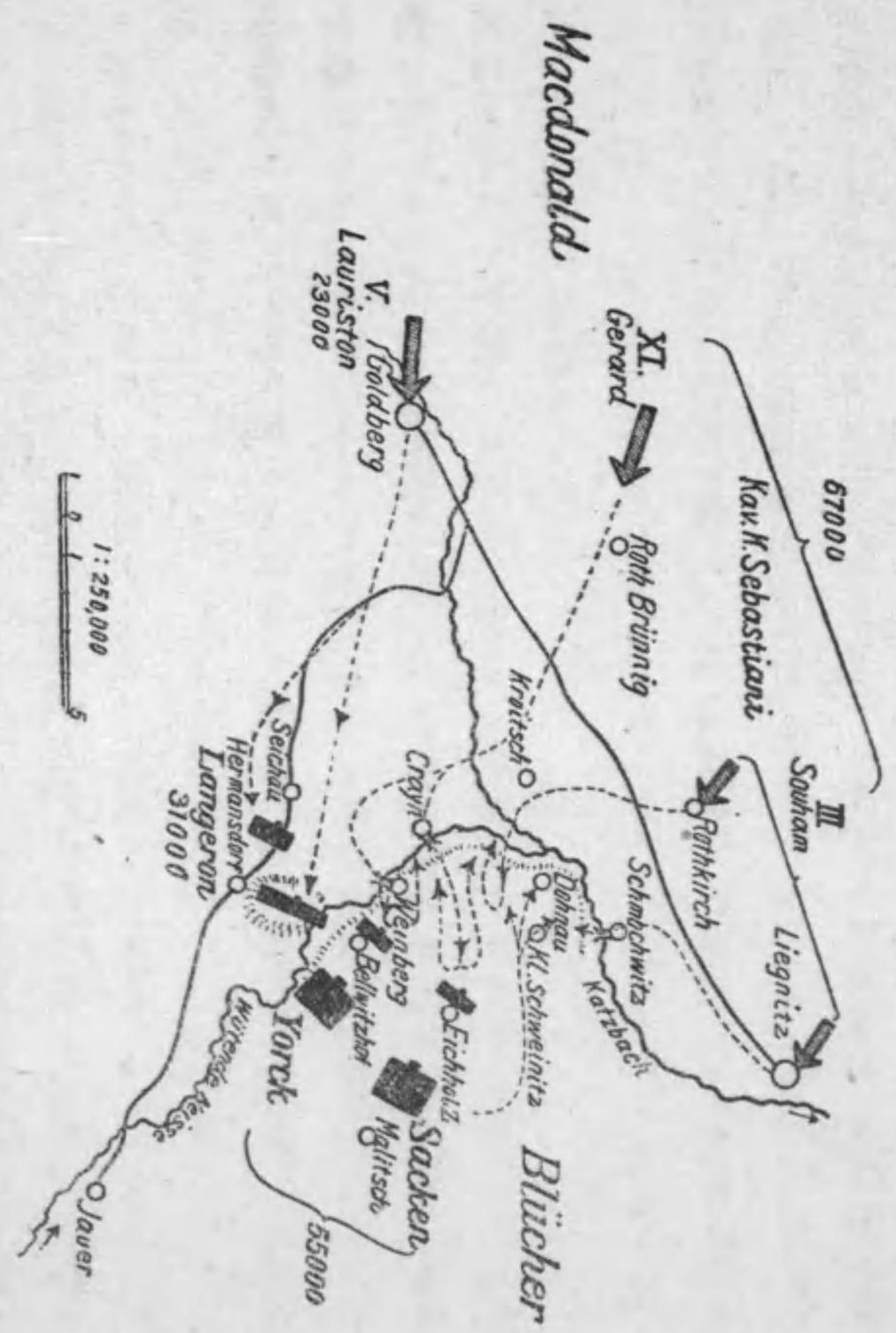
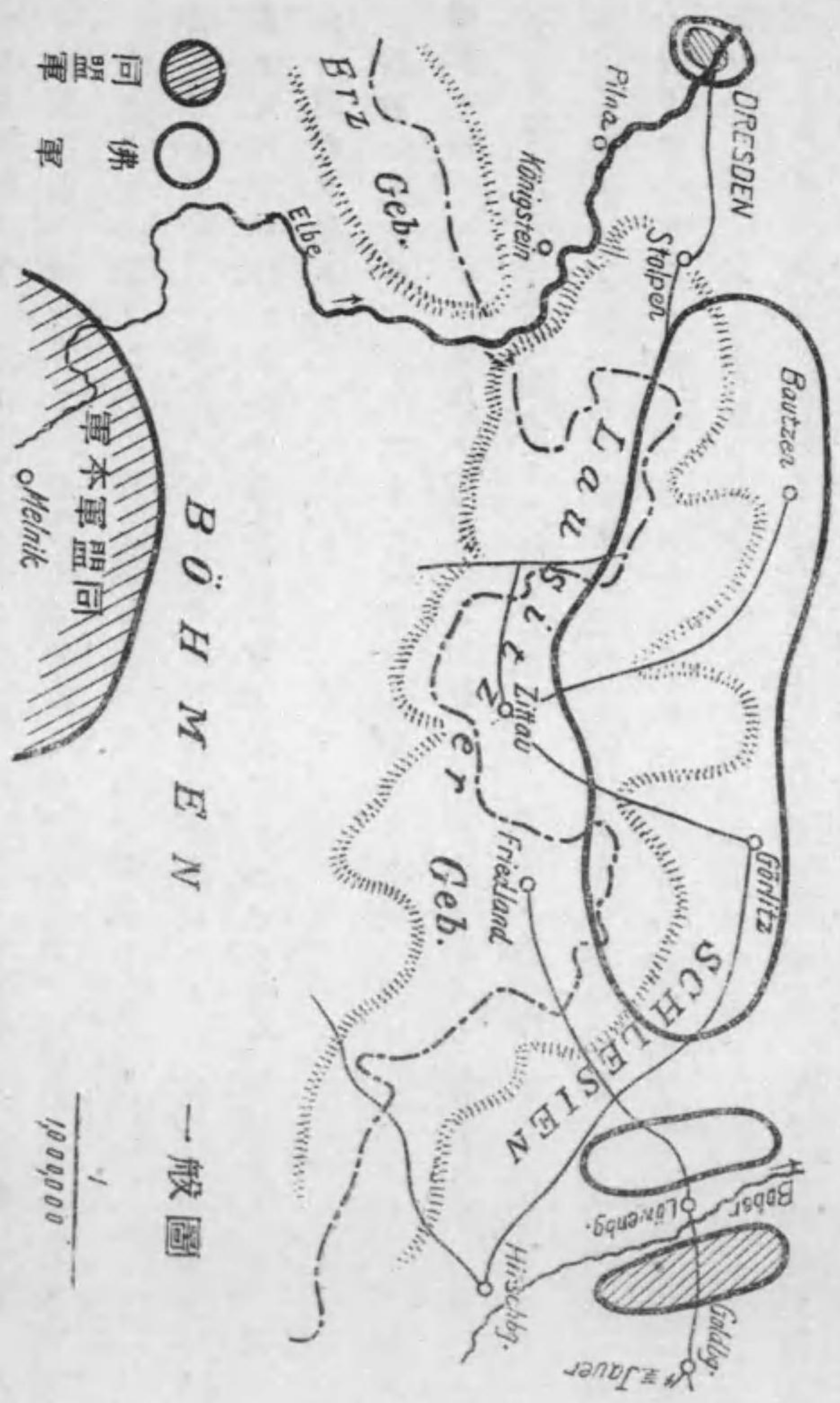
敵兵攻撃シ來ルトキハ東方ニ退避シテ敵ヲ Schlesien 方向ニ牽制ス敵兵退却スルトキハ之ヲ追躡シ以テ其兵力ヲ當面ニ繫留ス

Blücher ハ Ney ヲ追撃シテ Bober 右岸ニ在リシカ對岸ニ佛ノ近衛兵ヲ認ムルヤ奈翁ノ近接ヲ觀破シ其兵力 Schlesien 軍ノ倍數ニ達スヘキヲ判斷シテ逐次東方ニ向ヒ退却ヲ始ム

三 奈翁ハ第一線ヲ以テ二十一日敵ヲ追撃セシメシカ二十二日ニ到リ到底敵ヲ捕捉シ得サルヘキヲ以テ自ラ之ヲ追撃スルコトヲ中止シ Macdonald ニ命スルニ Bober 軍約十萬人ヲ指揮シテ敵ノ Schlesien 軍ヲ Katzbach 後方ニ壓迫シタル後 Bober ニ歸リテ陣地ヲ占領シ敵兵再ヒ前進シ來レハ之ヲ迎撃スヘキコトヲ以テシ自ラ主力ヲ提ケテ Görnitz ニ退却スルニ決セリ是同盟軍ノ本軍 En 山脈ヲ越エテ Dresden 方向ニ前進ノ徵アルコトヲ知リタレハナリ

Schlesien 軍ハ退却ヲ續行シテ八月二十二日 Goldberg 附近ニ於ケル後衛戦闘ノ後 Katzbach 右岸ニ退避ス







Macdonald、敵ヲ追躡シテ同日第五軍團ヲ以テ Goldberg 及其東方ニ、第十一軍團ヲ以テ Goldberg 北方ニ、第三軍團ノ二師團ヲ以テ Liegnitz ニ、同軍團ノ他ノ二師團ヲ以テ Rothkirch ニ、騎兵第二軍團ノ主力ヲ以テ Rothbrunnig ニ、其一部ヲ以テ Liegnitz ニ達ス

四 Macdonald、敵ハ Jauer 附近ノ陣地ニ在ルヘク Katzbach 及 Neisse 川ノ線ニ在ルハ其後衛ナリト判断シ二十六日第五、第十一軍團ヲ以テ Seichan ヲ經テ Jauer ニ、第三軍團ヲ以テ Liegnitz 及其南方ヲ經テ Jauer ニ向ヒ前進シ、騎兵第二軍團ニハ第十一軍團ノ歩兵一旅團ヲ附シ、第三、第十一軍團ノ中間ヲ Kroitsch ヲ經テ前進セシメ、敵ヲ Jauer 以東ニ壓迫セントス

Schlesien 軍ハ二十五日 Neisse 川兩岸ニ前進シ Saaken (露軍團ハ前衛ヲ以テ Eichholz ニ、主力ヲ以テ同地 Malisch 間ニ、York (普軍團ハ前衛ヲ以テ西北面シテ Bellwitzhof 附近ニ、主力ヲ以テ同地東南方ニ、Langeron (露軍團ハ前衛ヲ以テ Seichan Hermansdorf ノ中間ニ、主力ヲ以テ Hermansdorf 北方高地ニ在リ) Prücher ハ軍ノ主力ヲ以テ Liegnitz, Goldberg ノ線ニ在ル佛軍ノ中央ヲ突破セント企圖ス然ルニ二十

六日佛軍前進セシ爲此企圖ヲ實行スルニ至ラス止マリテ敵ヲ俟ツ

二十六日佛ノ第五、第十一軍團ハ Seichan ニ向ヒ前進シ、騎兵軍團亦 Kroitsch ヲ經テ前進ス然ルニ第三軍團長ハ正午ニ至ル迄出發セス

當時連日降雨ノ爲 Neisse 川ハ大ニ漲溢シ佛軍中央縱隊ハ唯二個ノ橋梁ノミニ依ラサルヲ得ス

Prücher ハ豫メ展開セル軍ヲ以テ之ニ乗セントス

五 佛ノ第五、第十一軍團ハ Hermansdorf 東北方高地ノ Langeron 軍團ノ陣地ニ衝突シ攻撃ヲ開始ス又第十一軍團ハ其歩兵三大隊ヲ以テ Crayn ニ在ル普國軍團ノ前衛ヲ驅逐シテ Neisse 川右岸高地ニ進出シ、騎兵第二軍團ニ屬スル第十一軍團ノ一旅團之ニ續キテ渡河シ Weinberg 北方高地端ニ進出シテ展開ヲ始ム、騎兵軍團亦之ニ續行シテ其左方ニ開進ヲ始ム此日猛雨ニシテ展望及小銃ノ點火甚不良ナリ

一方佛軍司令官 Macdonald ハ Liegnitz-Jauer 道上ニ於テ第三軍團ノ來著ヲ俟チシカ遠ク Hermansdorf 方向ニ砲聲ヲ聞クニ及ヒテ該方面ニ騎行ス途次第三軍團長



ニ會シテ其前進計畫(二縱隊ト成リテ正午 Liegnitz 及 Rothkirch ヲ發シ Schmoob-  
nitz 及 Kroitsch ヲ經テ前進ス)ヲ承知シ之ニ示スニ右縱隊ノ先頭タル第八師團ヲ  
以テ騎兵軍團ニ續キテ Kroitsch ヲ對岸ノ高地ニ前進セシメ左縱隊(二師團)ハ  
北方ヨリ敵ヲ包圍スル如ク動作セシムヘク右縱隊ノ他ノ一師團(第九)ハ豫備ト  
爲スヲ可トスヘキ旨ヲ以テス當時軍司令官ハ Neisse 右岸ニ於ケル敵ノ抵抗ハ  
眞面目ノモノニアラスト判斷ス  
爾後佛ノ第八師團モ亦騎兵軍團ニ續キ渡河シテ展開ヲ始ム  
是ヨリ先 Blücher ハ此狀況ヲ觀破シ且 Liegnitz ノ方向ノ敵ノ前進遲延セルヲ見  
テ Sacken 及 Yorck 兩軍團ヲシテ決然攻撃ニ前進セシメ高地端ニ展開中ノ敵ニ  
對シ絶對ノ優勢ヲ以テ之ヲ漲溢セル Neisse 川ニ壓迫スルヲ得タリ  
佛軍ノ損害ハ甚大ナリ唯第九師團ノミハ稍秩序ヲ保チテ退却スルヲ得タリ又  
第三軍團ノ左縱隊ハ Schmoobwitz 附近ニ於テ Katzbach ヲ渡リ Dohnau 附近ニ展開  
ヲ始メシモ時機既ニ遅レ右方軍主力ノ敗退後ニシテ且前面ノ高地既ニ敵ノ爲  
ニ占領セラレタルヲ見テ退却ス

六 本戰鬪ハ豫メ展開セル正面ヲ以テ敵ノ展開困難ナルニ乘シテ攻勢ヲ取リタ  
ルモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ナルモ一方ニ於テハ高地ノ後退配備トモ見  
做スヲ得ヘシ  
佛軍ノ敗北ハ統一指揮ヲ缺キシコト及搜索不充分ニシテ高級指揮官カ敵情ノ  
判斷ヲ誤リシニ因ル

### 千八百一十二年八月廿六廿七日 Dresden ノ戰鬪

本戰鬪ハ豫メ設備セル陣地ニ於テ敵ヲ拒止シ増援隊ノ來著ト共ニ陣地ノ兩翼ヨ  
リ大規模ニ包圍的攻勢移轉ヲ實施セシ例ナリ(本卷第二九四頁一般圖參照)

一 奈翁カ八月二十二日 Schlesien ニ對スル總追撃ヲ中止セシントハ既ニ Katzbach  
戰鬪ノ部ニ於テ述フル所ノ如シ  
爾後奈翁ハ軍ノ主力ヲ Dresden 方面ニ移動スルコトヲ繼續シ二十五日 Stolpen 及  
其以東ニ約十四萬ノ兵力ヲ集結ス  
是ヨリ先將官 St. Cyr ハ其第十四軍團(大約二萬人)ヲ以テ Dresden ヲ守備ス同市



ハ左岸ニ於テハ臨時築城ニ依ル角面堡及圍郭等ヲ有スルニ過キス奈翁ハ主トシテ野戰軍ノ行動ニ依リテ同市ヲ防禦セントセリ又同市ハ南方ヨリ瞰制セラレ其前地ハ Weiseritz ノ谷地ニ依リテ二部ニ分離セラル

同盟軍ノ本軍十四、五萬人ハ一部ヲ以テ二十四日既ニ Dresden 南端ニ於ケル佛軍ノ陣地前ニ達シ二十五日更ニ陣地前ニ近接セシモ最左翼ニ於ケル奧國軍團ノ來著ヲ俟ツ等ノ爲未タ攻撃ヲ開始スルニ到ラス此間奈翁ノ近接ヲ知リテ志氣沮喪ス然レトモ Dresden ノ運命甚逼迫セリ

- 二 奈翁ハ元來 Königstein ヲ經テ敵ノ背後ニ前進シ之ヲ Böhmen ヨリ遮斷セントセシカ二十五日夜半ニ至リ Dresden ノ運命危急ニ迫リ直接之ヲ救援スルノ必要アル旨ノ報告ニ接シ直ニ命令ヲ下シ騎兵及近衛軍ヲシテ Dresden ニ向テ Vandra-  
 mme ノ軍團(四萬人)ヲシテ Pina ニ向ヒ行進セシメ自ラ Dresden ニ向ヒ先發ス
- 三 二十六日午前同盟軍ハ各方面ヨリ攻撃ヲ開始シ午後四時頃ニ到リ總攻撃ニ移リ市街圍郭ニ肉迫セシモ成功セス

奈翁ハ午前九時頃已ニ同市ニ到着シ其軍隊モ亦午前十時頃ヨリ漸次到着ス茲

ニ於テ逐次防禦ニ要スル配備ヲ取り殊ニ其多數ノ砲兵ヲ陣地正面ニ増加ス午後六時頃ヨリ佛軍ハ各方面共攻勢ニ轉シ Mortier ノ指揮スル近衛軍ノ二師團ハ左翼ヨリ露軍ヲ攻撃シテ之ヲ Sriesen 方向ニ擊退シ八時頃遂ニ同部落ニ侵入シ夜半ニ到リ全ク之ヲ占領セリ中央正面ニ於テモ St. Cyr ノ一師團ハ普軍ヲ Strehla ニ擊退シ又近衛軍ノ他ノ二師團ハ敵ヲ Räcknitz, Plauen ノ線ニ擊退シ Weiseritz 左岸ニ於テハ Murat ハ歩兵二師團及騎兵一軍團ヲ以テ當面ノ敵ヲ擊退シテ Löbtau 北方ニ亘ル線ヲ占領セリ

此日奈翁ハ約七萬人ヲ以テ倍數以上ノ同盟軍ノ攻撃ヲ擊退セシカ此夜更ニ Marmont (第六)軍團及 Victor (第二)軍團到着シ約十二萬ノ兵力ヲ使用シ得ヘキヲ以テ安靜ニ二十七日ヲ迎フルヲ得

二十七日早朝奈翁ハ Victor 軍團ヲ右翼ニ、Marmont 軍團ヲ中央ニ増加シテ猛烈ナル砲撃ヲ加ヘタル後午前十時頃先右翼ニ於テ攻撃ニ前進セシム茲ニ於テ Murat ハ敵ノ左翼ヲ擊破セリ然レトモ中央及左翼方面ニ於テハ同盟軍ハ其位置ヲ固守シ佛軍亦斷乎タル攻勢ヲ取ラス







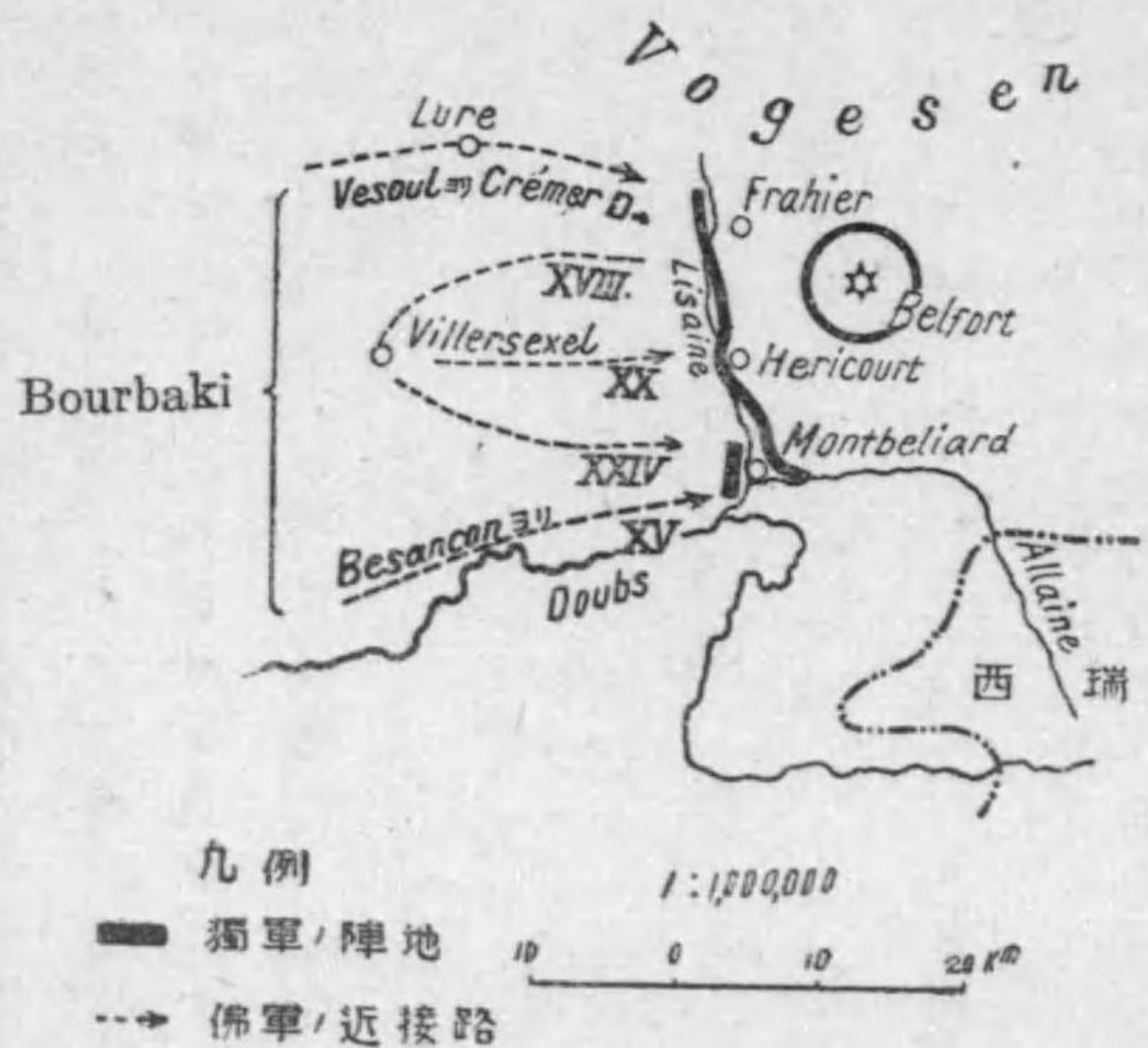
セシヲ以テナリ一翼ニ於ケル危険ノ爲有望ナル攻勢移轉ノ機會ヲ拋棄シ若  
 ハ其不成功ニ終リシ戰例乏シカラス得利寺ニ於ケル露軍及Konigsbrunnニ於ケ  
 ル奧軍(共ニ本書第一卷包圍ノ部參看)ノ如キハ適例ナリ  
 (ニ) 同盟軍カ二十五日及二十六日早朝ヨリ堅確ナル決心ヲ以テ攻撃ヲ斷行セ  
 サリシハ全ク過失ナリ

千八百七十一年一月中旬Tisaine河畔ニ於ケ  
 ル獨逸軍ノ防禦

本戰鬪ハ一翼ヨリスル逆襲ノ一例ナリ

- 一 佛國東軍ノBelfort解圍及Elsass侵入ノ企圖ニ對シBelfort攻圍軍ノ背後ヲ掩  
 護スヘキ將官Werderハ步兵三萬九千、騎兵三萬六千、野砲百四十二門ヲ以テ右翼  
 Vogesen山脈ヨリ左翼瑞西國境ニ亘ル三十五吉ノ正面ニ於テ敵ノ前進ヲ拒止ス  
 ル爲主力ヲ以テLisaine左岸ニ陣地ヲ占領ス
- 二 佛國東軍ハ第十五、第十八、第二十、第二十四軍團及Crémér師團ヨリ成リ大將Bo-

Lisaine 會戰一般圖  
 1871—15-17/1



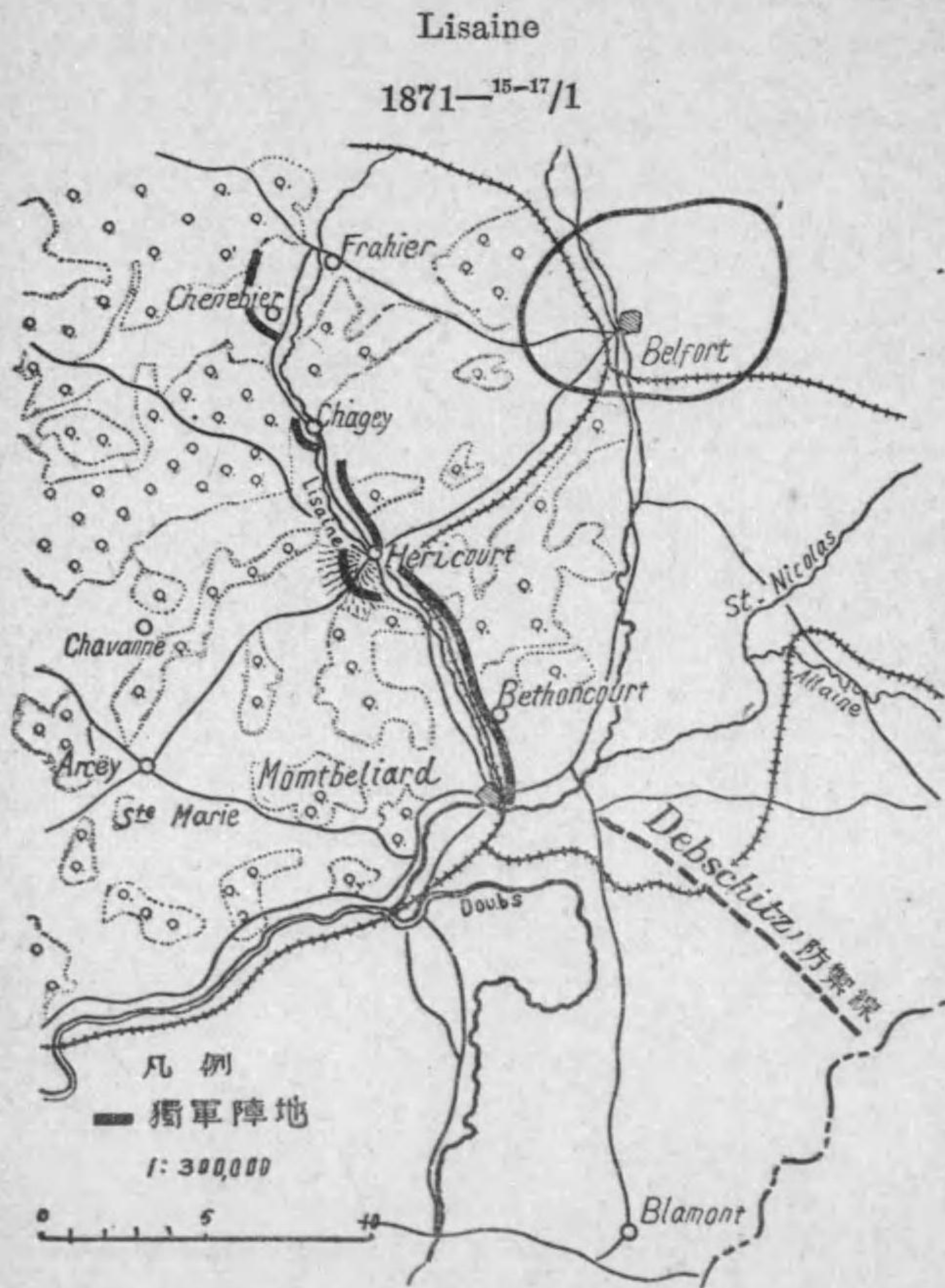
urbaki之ヲ指揮ス其團結鞏固ナラス訓練不精ナリト雖兵力ノ優勢ナルコトW-  
 orderノ指揮スル部隊ニ三倍ス



獨軍陣地ノ右翼タル Vosgesen 山脈ハ冬季ハ近接困難ナリ又 Allaine, Doubs 兩河及瑞西國境間ノ狹隘ナル山地ハ有力ナル佛軍ノ運動ニ適セス(獨軍ハ Von Debschutzノ指揮スル歩兵七千人及砲十六門ヲ以テ之ヲ監視セリ)

獨軍ノ主ナル防禦正面即チ Montbeliard ヨリ Frahier ニ亘ル二十一吉ノ間ニ於ケル陣地ノ正面ハ前地ノ大部分森林ヲ以テ蔽ハレ敵ノ蔭蔽近接容易ナルモ陣地線上ハ局地的價值ニ富メリ當時 Lisaine 川ハ氷結シテ障礙ヲ呈セスト雖其左岸谷縁ハ良射場ヲ呈シ Montbeliard ハ堅固ナル城砦ヲ有シテ良據點ヲ成シ Hericourt 附近ニ於テ右岸ニ突出セル高地ハ一種ノ「カポニエール」ヲ成形シ且其近傍ハ Hericourt 兩側左岸高地ヨリ側防シ得ヘクシテ陣地ノ最強部タリ尙陣地ノ要點ハ凡テ工事ヲ以テ防禦威力ヲ増加セラレ且 Belfort ヨリ攻城重砲三十七門此防禦ニ増援セリ

三 佛軍ハ一月十三日來獨ノ先進支隊ノ妨害ヲ受ケツツ前進シ漸ク十五日ヨリ眞面目ノ攻撃ヲ開始セリ而シテ獨軍ノ右翼ヲ甚薄弱ナリト判斷セシ爲第十五、第二十四、第二十軍團ヲ以テ Montbeliard ヨリ Hericourt ノ正面ニ對シテ前進セシ





メ此間第十八軍團及 Crémier 師團ヲシテ Lure ヲ經テ前進セシメ獨軍ノ右翼ヲ包圍スル豫定ナリ

四 佛軍ハ十五日及十六日 Monbéliard, Hericourt ノ正面ニ對シ優勢ナル歩兵特ニ砲兵ヲ以テ攻撃セシモ總テ擊退セラル然ルニ十六日 Chenebier 附近ヲ守備セシ獨ノ歩兵三大隊、砲兵三中隊ハ優勢ナル佛軍ノ壓迫ヲ受ケテ Frahier 方向ニ退却ノ已ムヲ得サルニ到レリ

茲ニ於テ Verdier ハ歩兵八大隊、騎兵二中隊、砲兵四中隊ヲ此方面ニ集合シ之ヲ以テ十七日未明佛軍ニ對シテ逆襲シ之ヲ Chenebier 方向ニ擊退セリ此日佛軍ハ更ニ一回獨軍右翼ニ對シ突擊セシカ攻撃ノ精力漸次減少シ十七日夜ニ到リ遂ニ退却ヲ開始セリ

五 佛軍ノ退却ハ一方酷烈ナル沍寒ト給養ノ粗惡トニ惱マサレシニ基因スト雖他方ニ於テハ其部隊ハ攻撃戰鬪ニ適當セス且 Bourbaki ハ獨軍陣地ノ正面大ナルト Frahier ヨリ其左翼ニ向ヒ行ハレタル攻撃移轉ニ由リ Verdier ノ兵力ヲ八萬人ニ及フモノト判斷セシ爲攻撃困難ナルノミナラス猶豫スレハ更ニ獨軍増

加ノ爲大ナル危險ニ陥ルヘシト信シテ攻撃ヲ斷念セシニ因ル  
六 教訓

(イ) 獨軍ノ實行セシ兵力ノ移動使用ハ狀況上適當ナルモ一般ニハ實行シ難シ當面ノ敵ノ攻撃氣勢鈍キカ或ハ緩和セラレタル場合ノ外ハ却テ其方面ニ於テ敵ニ乗セラルルノ危險アリ然レトモ當時ノ如ク敵ノ素質劣等ナル等ノ場合ハ特別ナリ

(ロ) 獨軍陣地ノ如ク兩翼堅固ニシテ且正面上處々ニ支撐點アリ從テ敵ノ攻撃方向自ラ制限セララル場合ニ於テハ正面廣大ナルモ頑強ナル防禦ニ適ス之ニ反シ正面堅固ナルモ翼ニ於テ開放セラレタル陣地ハ薄弱ナリ何トナレハ敵ハ堅固ナル正面ヲ避ケテ翼ヲ攻撃スヘキヲ以テナリ例ヘハ獨軍ニシテ若 Hericourt 附近以北ヲ開放センカ其正面ハ狹小トナルモ佛軍ノ企圖セシ如ク右翼ヲ包圍セラレシナルヘシ

(ハ) 翼ニ於ケル決然タル攻勢移轉ハ屢、攻者ニ攻撃不成功ノ暗示ヲ與フルコトアリ是翼ノ破綻ハ精神的ノ感響大ナレハナリ意志不堅確ナル攻者ニ對シテ



殊ニ然リ之ニ反シ正面ヨリスル部分的逆襲ハ局部ノ成功ヲ得ルモ大勢ヲ左右スルコト稀ナリ蓋攻者ハ其他ノ部分ニ於テハ平然トシテ攻撃ヲ續行シ得ルヲ常トスレハナリ

千八百六十二年六月下旬 Richmond 附近ニ於

ケル米國南軍ノ防禦

本戰鬪ハ設備セル陣地ニ於テ守勢ヲ取り其外翼ニ於テ大規模ニ攻勢ヲ取りシ一例ナリ

一 六十二年四月十萬人以上ヲ有スル合衆國(米國北部)ノ Potomac 軍ハ York, James 兩河ノ中間ナル Virginia 半島ニ上陸シ Yorktown ヨリ聯邦(米國南部)ノ首府タル Richmond ニ向ヒ前進シ六月下旬其主力(三軍團半)ヲ以テ Chickahominy 河右岸ニ於テ Richmond 東側ノ堡壘ニ對シ、一部(一軍團半)ヲ以テ同河ノ左岸ニ位置ス當時 Richmond ハ少數ノ輕砲及薄弱ナル工事ヲ以テ防備セラレシカ聯邦軍(南軍)指揮官 Lee ハ首府防禦ノ爲集合セシ兵力中僅ニ二師團ヲ堡壘ニ殘置シ他ノ三

師團ヲ Chickahominy 河左岸ニ移シ恰モ Ashland ヲ經テ前進中ナル Jackson 師團及 Stuart 騎兵師團ト六月二十七日 Richmond 市北方地區ニ於テ連繫スルヲ得タリ乃チ Lee ハ此等ノ兵力五萬五千人ヲ以テ北軍ノ右翼ヲ攻撃セリ當時堡壘ニ殘置セラレシ二師團モ當面ノ敵ヲ抑留センカ爲出撃セシモ敵兵甚優勢ニシテ攻撃成功セス

北軍ハ大ナル損害ヲ以テ擊退セラレ全ク Richmond ニ對スル攻撃ヲ斷念シ豫メ遷位シアリシ艦隊根據地タル James 河口方向ニ退却セリ

二 上記 Lee ノ採リシカ如キ大膽ナル計畫ノ成功セシ主因ハ次ノ如シ

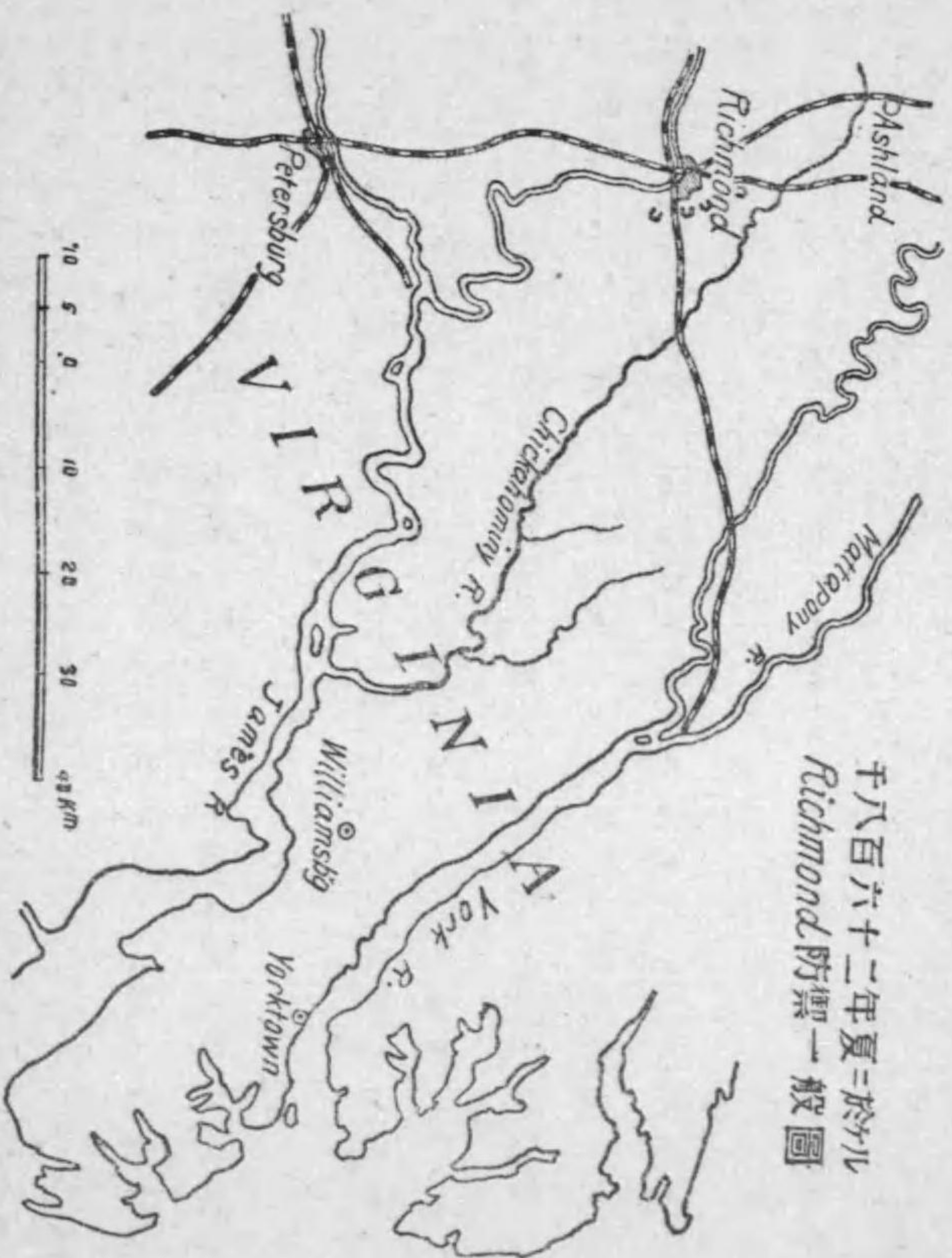
(イ) 南北戰爭ニ於ケル軍隊ハ常備軍ニアラスシテ戰時急設ノ民軍ナリ故ニ其素質劣惡ニシテ全ク攻撃及機動ニ適セス故ニ Richmond 直接ノ守兵ハ著シク之ヲ減スルヲ得タリ

(ロ) 軍隊カ機動性ヲ缺クカ故ニ一旦基礎配備ニ於テ不利ニ陥リシ北軍ハ之ヲ恢復スルヲ得サリシアリ

(ハ) 南軍主力ノ攻勢ニ對シ Richmond 守備部隊ノ協力適當ナリシコト



千八百六十二年夏ニ於ケル  
Richmond防禦一般圖



(二) 合衆國政府ハ政治上ノ關係ヨリ北軍指揮官ノ作戰ニ干涉シ其 Jackson 師團等ニ對スル處置ヲ不可能ナラシメタルコト  
 以上ノ如キ成功ノ原因ヲ有スルヲ以テ吾人ハ現代ノ進歩セル國軍ノ對抗戰團ニ於テ常ニ如此戰團指導ヲ豫期スルコトヲ得スト雖其精神ニ於テハ一範例タルヲ失ハス

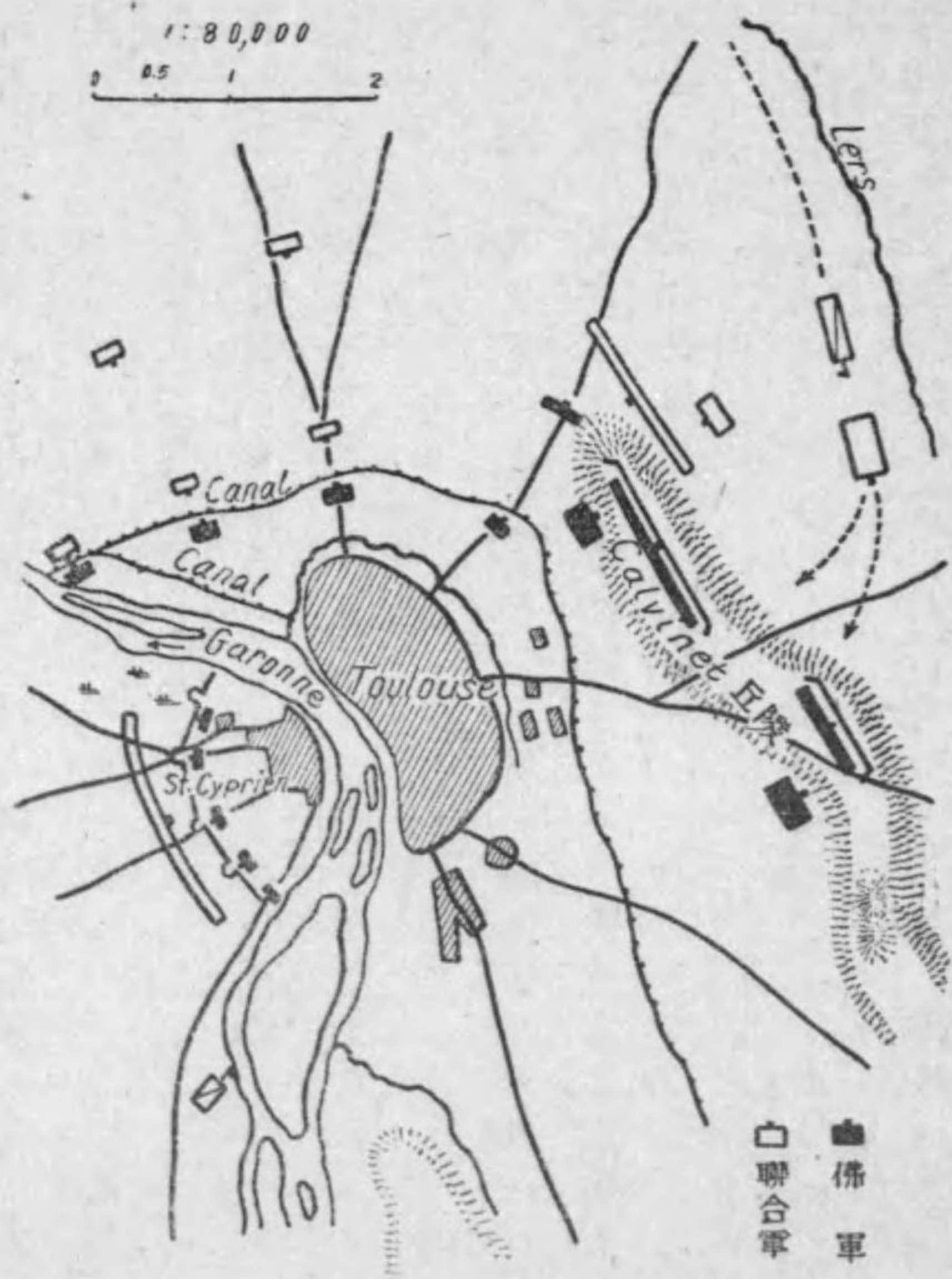
因ニ南北戰爭及獨佛戰爭ノ下半年期ニ於ケル作戰ヲ研究スレハ民軍カ如何ニ機動性ヲ缺キ且攻撃戰團ニ不適當ナルカヲ了解スルニ足ルヘシ

千八百十四年 Toulouse ノ戰團

本戰團ハ防者カ甚シク優勢ナル攻者ノ過失ニ乘シ陣地ヨリ出撃セシ一例ナリ  
 一 西班牙ヨリ退却セシ佛將SoultハToulouse 附近ニ陣地ヲ占領ス此陣地ハGaronne 河左岸ニ於テハSt. Oyprien 西端ハ堡壘ヲ以テ堅固ニ防備セラレ右岸ニ於テハCalvinet 丘陵及運河ニ據ル其守兵歩兵七師團騎兵一師團大約四萬弱ナリ  
 四月十日英將 Wellington ハ英西聯合軍歩騎兵合シテ約八萬ヲ以テ此陣地ヲ攻



TOULOUSE 附近戰鬪要圖  
1814—10/4



攻勢防禦之研究

三一五

三一四

擊ス即チ歩兵一萬五千、騎兵二千五百ヲ以テ Garonne 左岸 St. Cyprien ノ外廓ニ向ヒ、歩兵一萬、騎兵三千ヲ以テ Garonne 右岸運河ノ線ニ向ヒ、歩兵三萬六千、騎兵千八百ヲ以テ Calvignac 丘陵ノ北部ニ向ヒ、 Beresford 軍團(歩兵一萬二千、騎兵千二百)ヲ以テ佛軍陣地ノ右翼ニ向ヒ攻撃ス

叙上 Wellington ノ攻撃配備ハ其兵力 Garonne 河ニ依リ全ク兩斷セラレ

二 聯合軍ハ各方面ニ於テ攻撃ヲ開始セシカ只其最左翼 Beresford 軍團ハ著シク遅レテ戰場ニ到着シ佛軍ノ陣地前ニ於テ側面行進ヲ行フ

佛軍ハ午前中戰況甚有利ニシテ各方面ニ於テ聯合軍ノ攻撃ヲ擊退セシカ今ヤ Beresford 軍團ノ側面行進ヲ行フヲ見ルヤ Soult ハ其二師團ヲ以テ高地上ノ陣地ヨリ攻勢ニ轉ス

此攻勢移轉ハ甚機宜ニ適シ英軍ノ運命危殆ニ瀕セシモ佛軍兩師團ノ攻撃實行方法甚拙劣ニシテ諸將多ク死傷シ加之其歩兵ハ後方陣地ヨリスル砲兵射撃ヲ妨害セシヲ以テ英兵之ニ乘シテ奮戰シ遂ニ戰況ヲ挽回スルヲ得タリ

三 所見



(イ) 聯合軍カ歩兵一萬五千ヲ Garonne 河左岸ニ割キシハ過大ナリ何トナレハ此方面ニ於ケル成功ハ主力方面ノ戰況ニ直接ノ影響ヲ及ホササルニ反シ佛軍ハ左右兩岸何レニモ任意ニ兵力ヲ移動シ得レハナリ此關係ニ於テ佛軍陣地ハ恰モ Garonne 河上ノ複橋頭堡ノ如シ

(ロ) Peresford 軍團ノ行動ハ全然過失ニシテ Soult ノ之ニ乘セシハ甚適切ナリ攻撃ニ任セシ兩師團ノ戰闘方法適切ナランカ彼ヲシテ掉尾ノ勝利ヲ博セシメシナラン

(ハ) 歩兵ノ攻勢移轉ニ際シテハ歩兵自ラ其戰闘方法ニ注意スヘキハ勿論砲兵モ亦有爲ニ之ニ協カスヘキ注意ヲ缺カサルヲ要ス之カ爲砲兵ハ豫メ之ヲ準備スルカ或ハ臨機ノ處置ヲ決行セサルヘカラス

### 千七百五十七年十一月 Rosbach 附近ノ戰闘

本戰闘ハ機動的攻勢防禦ニ依リテ約三倍優勢ナル敵ヲ擊破セシモノニシテ正面攻撃困難ナル陣地ヲ占領シ敵ヲシテ迂回運動ヲ行ハシメ此間陣地ヲ撤シテ豫メ

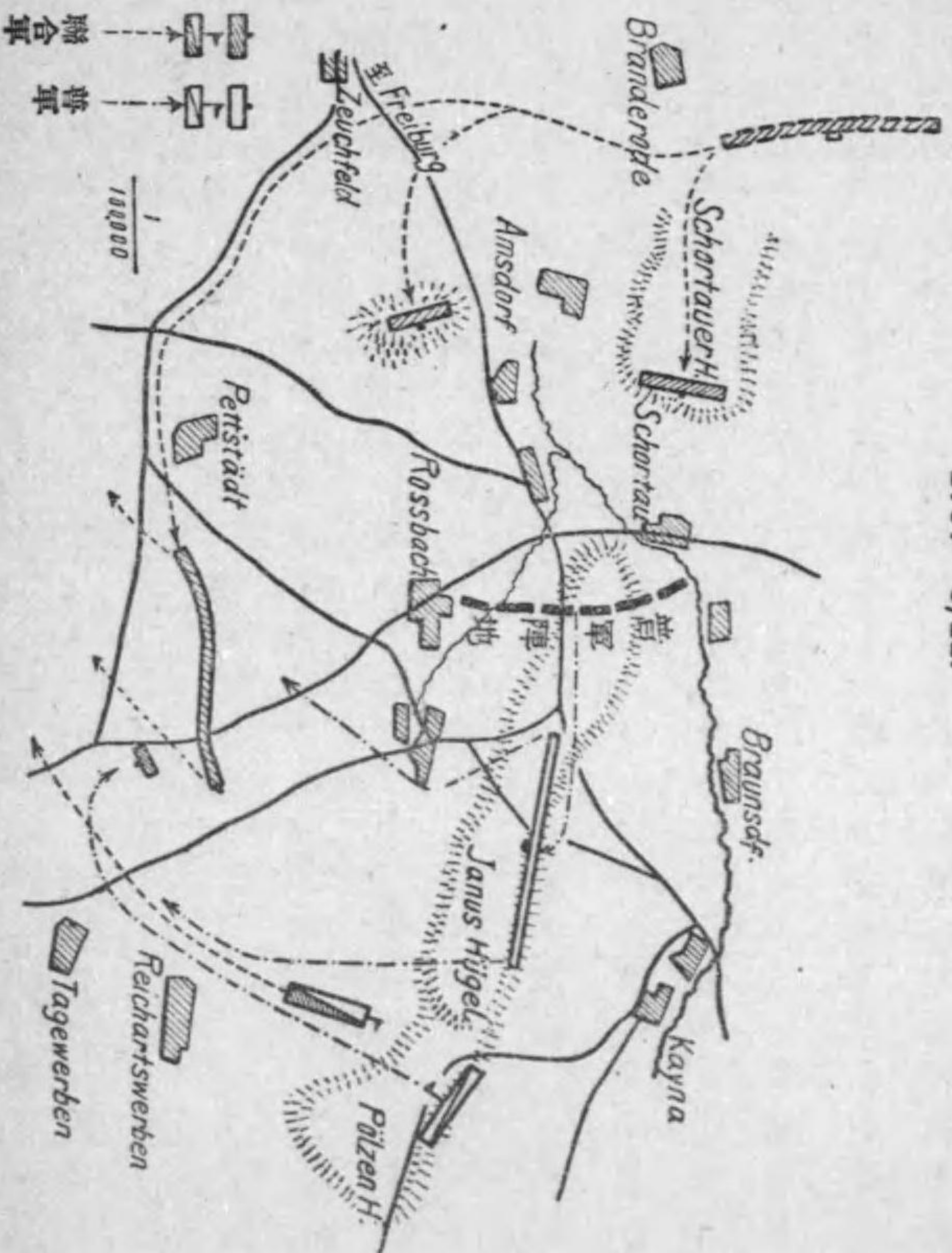
展開セル正面ヲ以テ運動中ノ敵ニ乘シタル例ナリ

一 千七百五十七年十一月三日 Friedrich 大王ハ歩兵二十七大隊、騎兵四十五中隊、人員合計二萬餘人ヲ以テ Braunsdorf 北側地區ニ在リシカ佛埃聯合軍歩兵九十大隊、騎兵八十四中隊、人員合計六萬四千人カ Branderode 北方約一里ノ地區ニ於テ側面ヲ暴露セルヲ知り之ヲ攻撃セントシテ四日朝 Schortau 西方地區ニ前進ス然ルニ佛埃聯合軍ハ其危險ヲ覺リ此日 Branderode 東北側地區ニ前進シテ大王ニ正面セシヲ以テ大王ハ即時 Rosbach 附近ニ後退シテ陣地ヲ占領ス此陣地ハ甚堅固ナレトモ其左翼薄弱ナリ然ルニ大王ハ敵ヲ誘致シテ攻撃セシメンカ爲故意ニ此翼ヲ開放シアリ

二 聯合軍ハ攻撃ノ意志ヲ有セス Freiburg ヲ經テ退却セントセシモ其同地ノ渡河ニ際シ大王ノ攻撃スル所トナランコトヲ虞レ一旦敵ヲ壓迫シタル後退却セントス之カ爲十一月五日先ツ Pötschitz 附近ニ進出シ敵尙退却セサレハ六日之ヲ攻撃スル豫定ナリシモ其後狀況ノ如何ニ關セス五日攻撃ヲ斷行スルニ決シ同日正午頃歩兵六十二大隊、騎兵八十二中隊(四萬餘人)ヲ以テ南方 Zeuchfeld 及



ROSSBACH 附近戰圖要圖  
1757—5/11.



Petstättヲ經テ Reichartswerben ニ向ヒ運動ヲ起シ各一部ヲ Schortauer Hügel 及 Amsdorf ニ配置シテ此轉進ヲ掩護セシム

大王ハ Rosshach 高地上ヨリ聯合軍ノ運動ヲ目撃シテ Zeuchfeld ヲ經テ Freiburg ニ向ヒ退却スルモノト推斷シアリシカ其 Zeuchfeld ヲ經テ Petstätt 方向ニ前進スルヲ見ルニ及ヒ敵ハ希望ノ如ク攻撃シ來ルモノナルコトヲ確信スルヤ咄嗟ノ間其全兵力ヲ左方ニ旋回シテ Kayna ニ向ヒ前進セシメ次テ Janus Hügel 西端ヨリ右折シテ同高地北側ヲ前進シ更ニ南面シテ該高地上ニ展開ス

三 聯合軍ハ大王ノ運動ヲ認メテ退却スルモノト判斷シ大ニ勢ヲ得テ急進之ヲ殲滅セントス然ルニ其先頭騎兵團カ Reichartswerben 北方ニ現出セル頃ニハ普軍騎兵三十八中隊ハ Pölzen Hügel 北側ニ在リ又砲兵ハ Janus Hügel ニ陣地ヲ占領シ步兵モ亦恰モ展開ヲ終ラントス

普軍砲兵ハ直ニ敵騎兵ヲ射撃シ騎兵ノ第一線列十五中隊ハ敵騎ノ展開中ニ乗シテ之ヲ攻撃シ第二線列二十三中隊モ亦之ニ參加シ聯合軍ノ騎兵ハ潰走ス當時恰モ前進中ナリシ第二ノ騎兵團モ亦此渦中ニ投入シテ潰走セシカ普軍騎兵



ハ之ヲ窮追スルコトナク Tageverban 西方ニ集合ス  
此間普軍歩兵ハ左翼ヨリ逐次前進ニ開始ス

四 聯合軍歩兵ハ尙普軍退却中ナリト信シ其騎兵ノ退却ヲ意トセス縦隊ヲ以テ前進中ナリ茲ニ於テ普軍ハ右翼ノ十二大隊ヲ以テ聯合軍ノ左側ヲ、左翼ノ七大隊ヲ以テ其先頭ヲ攻撃ス聯合軍ハ急遽展開ヲ始メシモ時機既ニ遅ク優勢ノ兵力ヲモ用フルニ途ナク今ヤ普軍ノ包圍ニ陥ラントス此時普軍騎兵ハ猛然聯合軍ノ右側ヲ襲撃セシカハ聯合軍ハ遂ニ Freiburg 方向ニ潰亂シテ退却スルニ到レリ

### 五 教訓

- (イ) 聯合軍カ其優勢ナル騎兵ヲ以テ敵情ノ偵察ニ努力セサリシハ當日戰敗ノ第一原因ナリ
- (ロ) 普軍カ能ク其企圖及運動ヲ秘匿シ得タルハ巧妙ナル地形利用ノ結果ナリ
- (ハ) 敵ノ將帥ノ性質及慣用戰法ハ我作戰指導上甚重要視スヘキモノナリ、聯合軍ハ Friedrich 大王ニ就テ熟知セルニ拘ラス此注意ヲ缺キ其 Rosbach 北方ヨリ

Kayna 方向ニ影ヲ没スルヤ直ニ退却ト判斷シテ輕舉暴進セシカ如キハ大ニ戒ムヘキコトトス

### 千八百十三年十月 Leipzig 會戰ノ一部

Leipzig 會戰中ノ Wachau 附近ノ戰鬪ハ正面的攻勢移轉ノ成功セサリシ一例ナリ

一 千八百十三年十月中旬奈翁ハ其兵力約十八萬人ヲ Leipzig ノ周圍ニ集結シ全兵力概略三十一萬人ヲ有スル埃露同盟軍ニ對シテ決戰ヲ企圖ス

二 十月十六日 Leipzig 南方面ニ於ケル戰鬪ニ參加セシ佛軍ノ兵力ハ十一萬五千人ニシテ其十五日ニ於ケル配置ノ大要左ノ如シ

三軍團 右翼ハ Connewitz, Döllitz ノ線 Pleisse 河ニ托シ Markkleeberg, Wachau Liebertwolkwitz ノ正面ニ於ケル陣地ヲ占領ス

騎兵二軍團 右陣地ノ中央後ニ位置ス

一軍團 Holzhausen 附近

一軍團 Taucha 附近

騎兵一軍團 同右



近衛軍 Leipzig 西南側

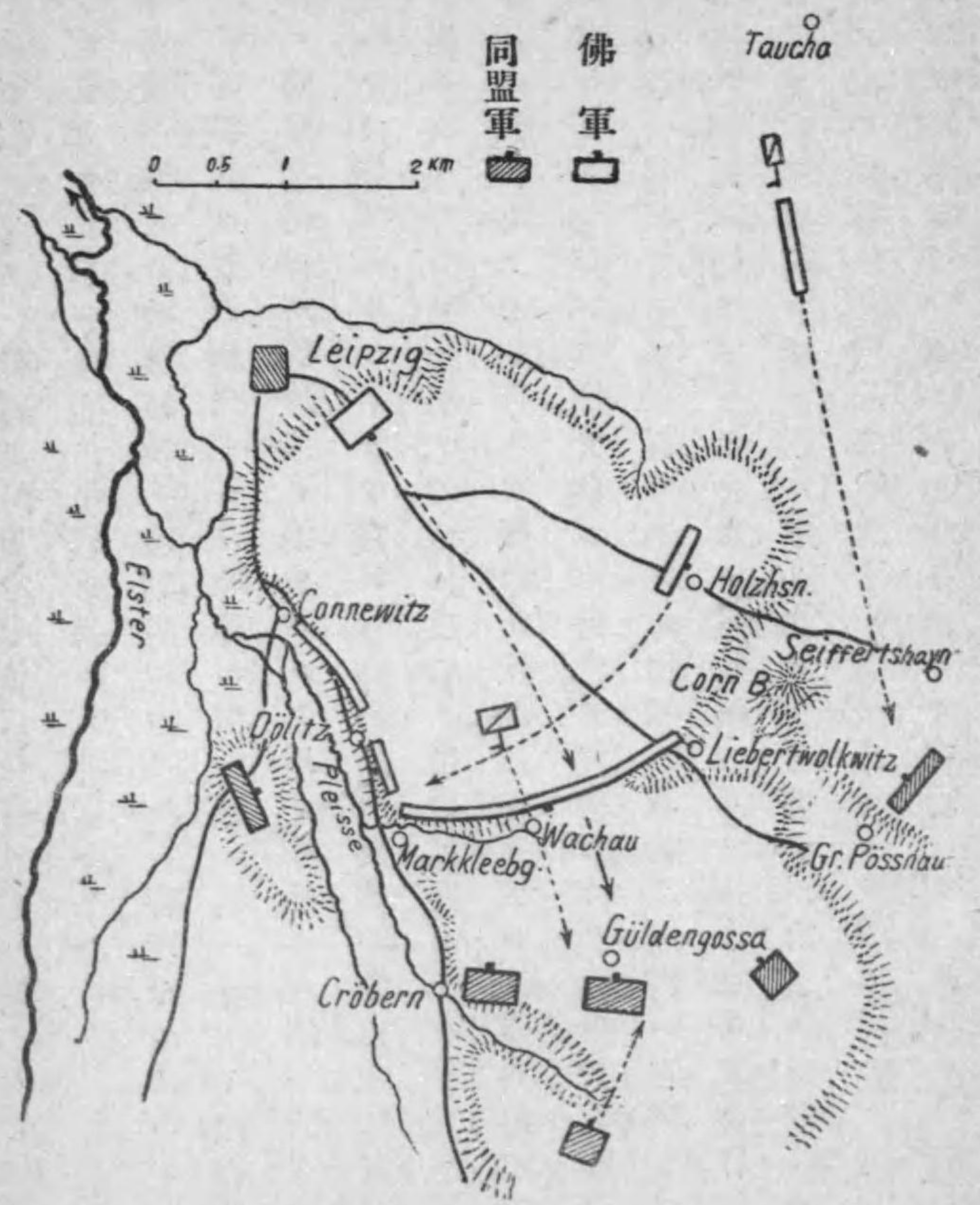
三 此方面ニ於テ同盟軍ハ十六日概シテ五縱隊ヲ以テ佛軍ニ近接ス Pleisse 河右岸ニ於テハ第一線六萬四千人左翼後ノ豫備隊二萬人合計八萬四千人ニシテ別ニ三萬人ハ Pleisse, Elster 兩河ノ中間ヨリ Connewitz ニ向ヒ前進ス

奈翁ハ此狀況ヲ目撃スルヤ Pleisse 右岸ニ於テ攻勢ヲ取ルニ決シ後方ノ部隊ヲ第一線近ク前進セシム然ルニ同盟軍ハ午前十時頃ヨリ攻撃ヲ開始シ佛軍ハ一度 Markleeberg ヲ失ヒ Wachau ヲ爭奪スルコト五回ニ及ビ奈翁ハ一時退却ノ必要ヲ感スルニ到リシカ午前十時乃至正午頃ニ到リ戰況ハ漸次佛軍ニ有利トナル即チ奈翁ノ後方部隊ハ漸次戰線ニ到着シ優勢ヲ以テ決戰ヲ指導シ得ルノ見込ヲ生ス

四 奈翁ハ一部ヲ以テ同盟軍ノ右翼ヲ攻撃シ主力ヲ以テ Guldengossa 附近ニ於ケル其中央ヲ突破セントシ全線ヲ擧ケテ出撃ス而シテ此攻勢移轉ハ敵ヲ陣地前ヨリ驅逐シ得タルモ終局ノ成果ヲ收ムルコトヲ得スシテ遂ニ日没ニ及フ

一方佛軍ノ右翼タル Dölitz 附近ニ於ケル同盟軍ノ攻撃成功セシヲ以テ佛軍ハ

WACHAU 附近戰鬪要圖



攻勢防禦之研究



永ク此陣地ニ止マルヲ得ス又翌十七日以後同盟軍ハ更ニ其兵力ヲ増加シ得ヘキヲ以テ茲ニ奈翁ハ決戰ノ好機ヲ逸スルニ到レリ

五 論者或ハ佛軍ノ攻勢移轉ノ時刻尙早カリセハ奏功セシナラント云フト雖此事タル亦甚疑シ蓋シ如此ナレハ陣地ニ據テ敵ニ與ヘキ損害及敵ノ兵力ヲ陣地ニ拘束シ得ヘキ程度遙ニ減少スルヲ以テ成功ノ見込ハ此方面ニ於テ減少スルモノト謂ツヘケレハナリ茲ニ於テ吾人ハ攻勢防禦實行ノ困難ニ想到セサルヲ得ス何トナレハ攻撃ノ時機ハ攻者ノ自由ニ委セラル而シテ佛軍ノ如ク當日中ニ一大決戰ヲ終局スルヲ要スル狀況ニ在リテハ是非其某時機ニ於テハ攻勢ニ轉スルヲ要スルヲ以テ必シモ好機ヲ待ツコトヲ得サレハナリ從テ攻勢防禦ノ利益ハ甚減少ス又正面ヨリスル出撃ハ攻者カ反對ニ守勢ニ立ツヲ以テ容易ニ之ヲ壓倒シ得サルヘキコトハ本戰例ノ示スカ如シ佛軍カ局部的優勢ヲ以テ行ヘル攻勢移轉ニ於テ既ニ然リ況ンヤ劣勢ナル防者ノ出撃ニ於テオヤ故ニ此種ノ攻勢移轉ハ通常攻者カ大ナル過失ヲ犯セシ等ノ場合ノ外ハ防者ノ火力ニ依リテ攻撃頓挫ヲ來シタルトキニノミ成功スヘキモノナリ

## 戰術的側面陣地ニ關スル原則的則說明

### (一) 意義及性質

側面陣地トハ敵ノ前進路ノ側方ニ占ムル陣地ニシテ敵方ノ翼側ニ難攻不落ナル據點ヲ有スルカ若ハ跋涉スヘカラサル大障礙物ヲ控ユルニアラサレハ成立セサルモノトス故ニ理想的側面陣地ハ敵ヲシテ其正面ヲ變更シ後方ノ連絡ニ危殆ヲ及ホサシムルモノナリ(陸軍大學校學術研究會出版兵語之解六九參照) 側面陣地トハ敵ノ前進路ニ併行シテ側方ニ位置スル陣地ニシテ左ノ性能ヲ備フル陣地ヲ謂フ(陸軍士官學校戰術學教程卷三參照)

- (1) 敵ノ前進路我砲兵ノ有効射界内ニアルコト
- (2) 敵方側面堅固ナルコト
- (3) 攻勢移轉容易ナルコト
- (4) 我退路安全ナルコト

前者ハ一般ニ側面陣地(戰略的及戰術的)ヲ說明シ後者ハ主トシテ戰術的側面陣



地ヲ説明セルモノナリ初學者側面陣地ヲ説クニ方リ往々敵ノ進路ニ對スル關係位置、敵ノ行進方向ニ對スル我正面ノ方向等ヲ以スルモノアルモ是形體ヲ以テ論シ實質ヲ究メサルモノニシテ未タ適當ト云フヲ得ス

抑、側面陣地ハ敵進路(作戰方向)ノ側方ニ位置シ之ト併行シタル配備正面ヲ有スル陣地ニ相違ナキモ左ノ實質ヲ有セサルヘカラス

(1) 敵ハ其連絡線ヲ我ニ暴露スルコトナク本來ノ進路ヲ前進シ能ハサルコト

(2) 敵ハ正面ヲ變換シ其連絡線ヲ側面ニ有スルニアラサレハ我ヲ攻撃シ得サルコト

(3) 敵ハ戰鬥勝利後我ヲ追撃センニハ本來ノ前進目標ヨリ異リタル方向ニ轉進スルヲ要スルコト

此際我モ亦其連絡線ニ危險ヲ感スルコトアルハ勿論ナリトス

側面陣地ノ實質以上ノ如クナルヲ以テ此陣地ニハ特ニ充足スヘキ性能アリ該性能ニ關シテハ士官學校戰術學教程其他ノ戰術書ニ詳細記載シアルヲ以テ茲

### ニ之ヲ省略ス

側面陣地ハ敵兵我ニ顧慮スルコトナク前面ヲ通過スルニ方リテハ我ハ敵ノ側面又ハ連絡線ニ向ヒ攻撃前進ヲ爲シ得ヘク敵若正面變換ヲ爲シテ攻撃ヲ企圖スルニ方リテハ往々ニシテ攻勢移轉ノ好機ヲ發見シ得ヘキハ前述第一第二ノ實質ニ由リ明瞭ナリ故ニ側面陣地本來ノ特性ハ敵ヲ不利ナル形勢ニ誘ヒ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントスル攻撃ノ爲ノ準備陣ト見做スヘキモノトス稀ニ敵ヲシテ困難ナル姿勢ノ下ニ展開セシム(慎重ナル展開動作ヲ必要トス)ルカ爲ニ生スル時間ノ餘裕ヲ得ントスル持久戰ノ陣地トスルコトアルモ此場合ニ於テハ早晚他方面ノ戰況ノ發展ニ依リテ救済セラルルノ望アルヲ要ス何トナレハ我ハ己ニ通常其本來ノ連絡線外ニ位置スルノミナラス何等敵ヲ拘束スヘキ威力ヲ有セサレハナリ

### (二)

#### 價值

側面陣地ノ戰術的價值ハ敵進路ニ對スル位置、防者ノ有スル實力、地形、防者時機利用ノ良否等ニ關スルモノナリ



敵ノ進路ニ對スル位置ニ就テハ敵進路トノ距離カ我陣地前ヨリ敵ノ達セントスル目標迄ノ距離ヨリモ大ナルトキハ價值少シ是我側面陣地ヨリ敵ヲ擊留シ得ル以前已ニ敵ハ其目的物ヲ脅威シ得レハナリ又戰鬥陣地トシテハ敵兵我有効射界内ニ於テ動作セサルヘカラサル如ク其進路カ我砲兵ノ射程内ニ在リ始メテ價值大ナルモノトス

側面陣地ハ防者カ攻勢動作ヲ以テ敵ニ對シ得ルニ於テ始メテ其價值アリ之カ爲ニハ陣地其物ノ状態ハ我攻勢ニ便ナルト同時ニ防者ハ攻勢ヲ取り得ルノ實力ヲ有セサルヘカラス即チ其數及素質上敵ノ側面又ハ連絡線若ハ敵ノ停止準備中ニ攻撃前進ヲ爲シ得ルカ或ハ敵ノ側面展開若ハ展開後旋回シテ新正面構成中ニ攻勢ニ轉シ得ルヲ要ス若否ラスシテ防者單ニ防支的守勢ヲ事トスルトキハ敵兵正面ヲ變換シテ交戦スルトキハ防者ハ正面及側面ヨリスル包圍ニ陥ルヘシ又若攻者一部ヲ我ニ對シ主力ヲ以テ本來ノ目標ニ前進スルニ方リテハ終ニ防者戰ハシテ該陣地ヲ撤シ敵ニ追從スルノ已ムナキニ至ルヘヘケレハナリ

側面陣地ノ價值ハ彼我ノ連絡線ニ受クル危殆ノ感應ノ大小ニ依リテ差異アリ此點ニ關シテハ別ニ解説ヲ要セサルヘシ

側面陣地ハ陣地其物ニ就テ論スレハ側面ノ掩護確實ノ程度及急襲的ニ攻勢移轉又ハ攻撃前進ヲ爲スニ便ナル地形ナリヤ否ヤニ依リ價值ヲ異ニス防者若好機ニ攻勢ニ轉スルトキハ攻者側面展開ヲ爲ス場合ニ於テハ其未タ外翼ニ堅固ナル立脚地ヲ領有セサル間ニ中央突破ヲナシ得ヘク攻者旋回シテ正面擴張ヲ爲ス場合ニ於テハ薄弱ナル外翼ヨリ之ヲ包圍的ニ肅捲スルカ或ハ其旋回軸ヲ打破スルヲ得ヘシ是攻者ノ準備中防者ハ既ニ充分準備セル展開正面ヲ以テ之ニ對シ得ルヲ以テナリ

### (三) 用フヘキ場合

戰術的側面陣地ノ性質及價值ヲ翫味スルトキハ此陣地本來ノ用途ハ攻勢的ナルニ拘ラス之ヲ攻勢的及持久的ノ兩様ニ利用シ得ルコトヲ示スモノナリ而シテ此陣地ハ連絡線ニ顧慮ヲ置クコト少ナクシテ可ナル小部隊又ハ大部隊ト雖地形、友軍等ノ關係ニ依リ連絡線ノ變換比較的容易且安全ナルトキ能ク利用シ

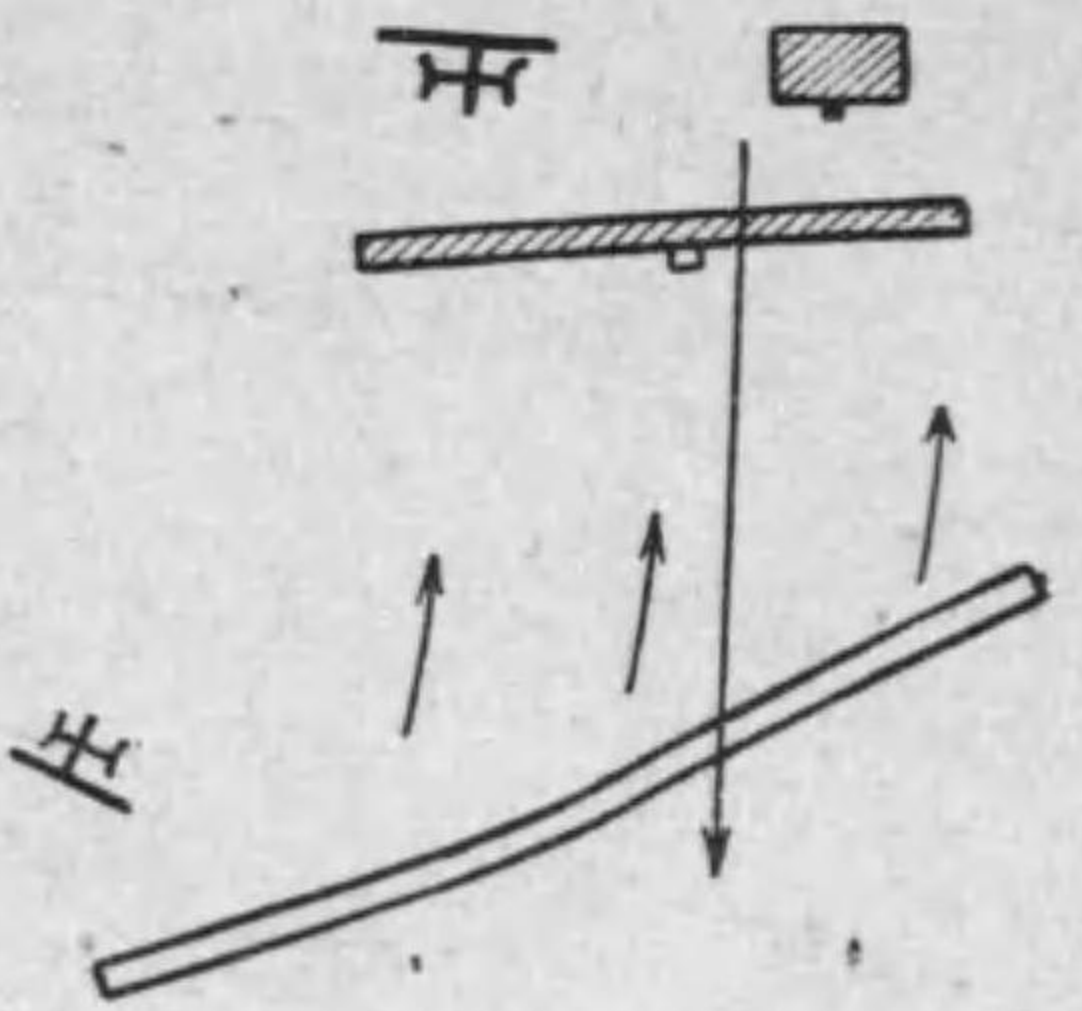


得ラルルモノナリトス  
 攻勢的ニ側面陣地ヲ利用スルハ攻者ノ利タル攻撃ノ時機、方向及方法中少ナクモ方向ト方法ニ大ナル掣肘ヲ加ヘ之ヲ利用シテ攻勢ニ轉スル場合ナリトス  
 持久的ニ側面陣地ヲ利用スルハ敵ヲ他方面ニ繫留シ失敗ノ場合ニ於テモ其累ヲ我主力又ハ友軍ニ及ホササラント欲スル場合ナリトス(本軍ノ隘路進出掩護ノ如キ是ナリ)  
 何レノ場合ニ於テモ地形特別ニ此種陣地ノ利益ヲ提供シアルヘキハ勿論ナリトス

(四) 各場合戦闘指導ノ要領

攻勢的利用ノ場合ニ於ケル戦闘指導ノ要領ハ大體ニ於テ攻勢防禦戦闘指導ト異ナル所ナシ唯細部ニ就テ敵ノ動作ニ由リテ生スヘキ二三ノ攻撃方法ヲ述ブレハ次ノ如シ

(甲) 敵兵側面展開ヲ爲ス場合

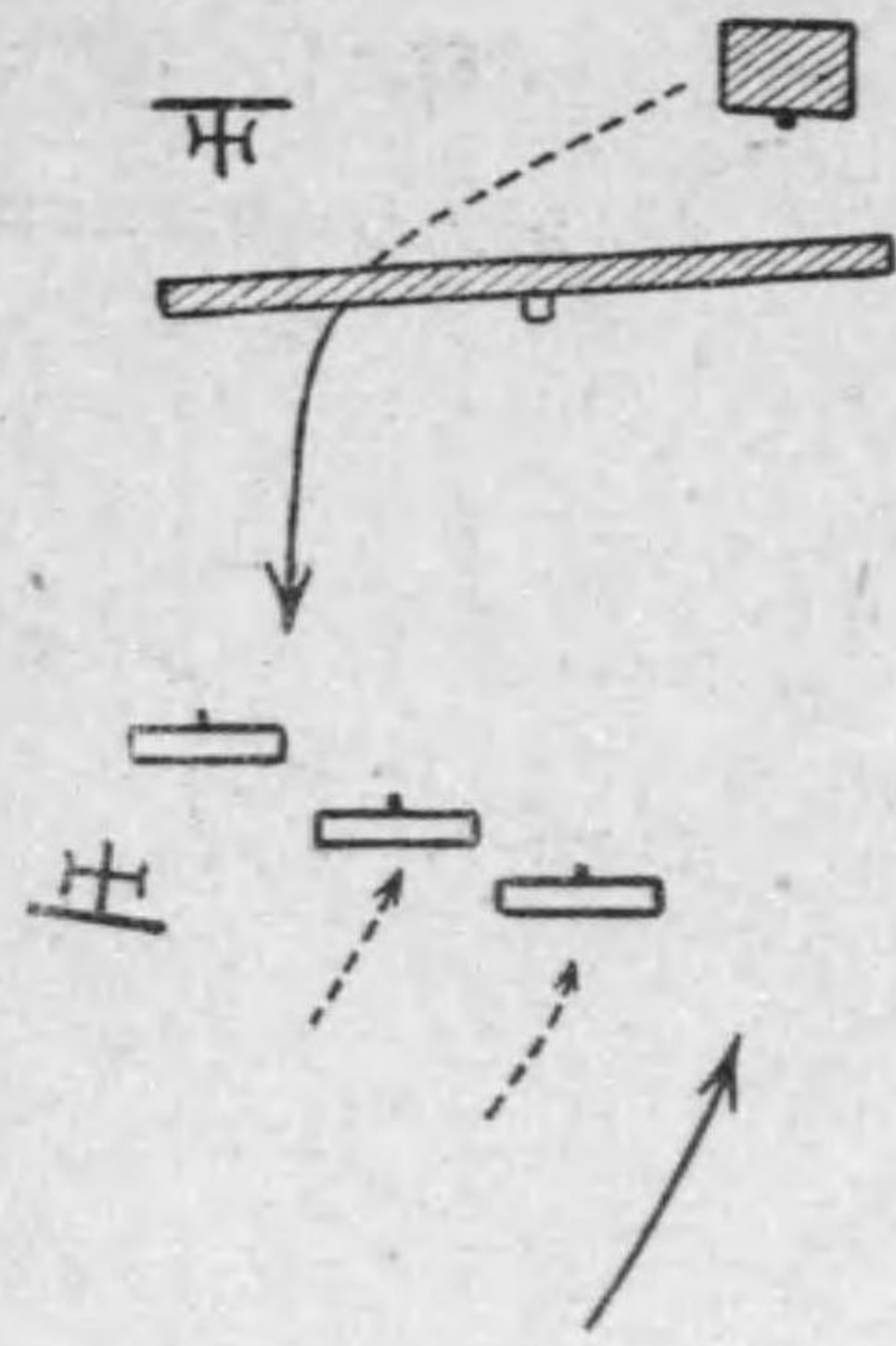


此場合ハ地形上已ムヲ得サルカ或ハ敵兵不謹慎ナル際生シ易シ  
 如此狀況ニ於テハ敵兵力ノ重點カ尙後方ニ在ル時機ニ於テ其重點ニ遠カリ

戰術的側面陣地ニ關スル原則的説明



テ他ノ翼ニ近ク攻撃スルヲ有利トス  
(乙) 敵兵旋回シツツ新正面ヲ作ル場合



此場合ニ於テハ敵ノ主力カ尙外翼ニ於テ旋回中ナルニ乘シ其旋回軸ニ近ク  
攻撃スルヲ有利トス蓋シ側面陣地ノ一翼ハ通常地形ニ依托セラレルヲ以テ  
攻者ハ主攻撃ヲ他翼ニ指向スヘク之カ爲主力ノ旋回完了スル迄ニ多クノ時

間ヲ要スレハナリ

(丙) 敵兵我陣地ヨリ離隔シテ慎重ニ展開スル場合

敵カ時間及地域ノ關係上我陣地ヨリ離隔シテ慎重ニ展開シ得ル場合ニ於テハ  
側面陣地ノ利益ハ一部消滅ス即チ此場合ニ於ケル攻撃及防禦ノ要領ハ戰術關  
係ニ於テハ側面陣地ノ特色ヲ帶フルコト稀ニシテ只包圍的動作ハ開放セラレ  
タル一翼ニ限ラレルヲ異レリトスルノミナリ故ニ防者ハ他ノ一翼及正面ニ於  
テハ地形及設備ニ依リテ兵力ヲ節約シ此翼ニ於テ攻勢移轉ヲ行フヲ常トス  
守勢的利用ノ場合ニハ一般持久防禦特ニ爾後ノ企圖ヲ有スル持久防禦ノ戰術  
指導ト異ナル所ナシ而シテ行動ノ細部ニ至リテハ主力若ハ友軍ノ狀況及地形  
ニ關シテ變化スルモノトス

(附言)

側面陣地ハ敵ノ作戰方向行進方向カ其戰術範圍外ニシテ作戰範圍内ニ在  
ルトキハ之ヲ戰略的側面陣地ト稱スヘシ而シテ戰略的側面陣地ニ關スル  
作戰ノ研究ハ學年ノ進ムニ從ヒ他日之ヲ研究スル所アラン



## 前進陣地ニ關スル原則的説明

### 附記

- 一 前進陣地ニ關シテハ既ニ本書第一卷陣地攻撃ノ研究ニ於テ若干項ヲ附記セリ以下記述スル所ハ之ト重複ノ嫌ナキニアラサルモ暫ク之ヲ收録ス
- 二 前進陣地ノ意義ヲ左ノ如ク廣義ニ解スルコトニ就キテハ研究ノ餘地アリト雖全然個人ノ意見トシテ茲ニ掲ク

### (一) 意義

本陣地ノ前方ニ設クル陣地ハ其ノ目的及戰鬥性質ノ如何ニ拘ラス凡テ之ヲ前進陣地ト云フ而シテ此陣地ニ於ケル戰鬥ハ本陣地ニ在ル部隊ノ目的如何ニ關セス通常持久ノ性質ヲ有スルモノナリ以上ノ如クナルヲ以テ前進陣地ナルモノハ名ハ同一ナリト雖其内容ニ至リテハ種々様々ニシテ其占領ノ方法及戰鬥法ニ關シ一定ノ方式要領等ノ存在スヘキモノニアラス要ハ現時ノ狀況ニ應シテ指揮官其人ノ運用ニ存スルモノナリ



(二) 種類

前進陣地ノ意義前述ノ如ク甚漠然否雜然タルモノニシテ之ヲ適當ニ分類スルハ困難ナルノミナラス強テ之ヲ分類セント欲スレハ却テ前進陣地ナルモノノ内容ヲ不完全ナラシムルノ感アリ故ニ無理ニ其種類ヲ區別スルハ予ノ好マサル所ナリ然レトモ學習上研究ノ便ヲ顧慮シ通常吾人ノ出會スル前進陣地中主ナルモノニ就キテ若干説明ヲ試ムレハ概ネ次ノ如シ

- (イ) 搜索、警戒、掩護等ヲ主トスルモノ
  - (ロ) 敵ノ近接若ハ攻撃動作ヲ困難ナラシメントスルモノ
  - (ハ) 敵ヲ陷レンコトヲ主トスルモノ
- 即チ是ナリ

(イ) 搜索、警戒、掩護等ヲ主目的トスル陣地  
此種ノ陣地ハ本陣地占領部隊ノ爲ニ一種ノ保安任務ノ達成ヲ主トスルモノニシテ特種ノ警戒又ハ搜索勤務ノ遂行ニ任スル部隊ノ占領スヘキモノニシテ其陣地ニ於テ戦闘ヲ交フルハ眞ニ已ヲ得サル場合ノ手段ニ過キサルナリ例ヘハ

- (a) 工事掩護
  - (b) 本陣地ノ蔭蔽(陣地ト見做シ得ヘキモノニ限ル)ノ如シ又稀ニ
  - (c) 搜索ノ據點占領
  - (d) 特殊物件ノ掩護
- 等ノ爲ニモ使用セラレコトアリ
- 以上各種ノ場合ニ於ケル陣地占領法、之ニ任スル部隊、兵力並其行動ノ要領ハ步兵操典第二部第五十七、同第六十三等ヲ翫味セハ自ラ明瞭ナルモノアリ即チ此種ノ陣地ハ本陣地占領部隊ノ目的如何ニ拘ラス通常占領スヘキ性質ノモノナリ而シテ此種ノ陣地ヲ占領スヘキ部隊ハ通常歩騎兵ノ小部隊ヲ以テ適當トスヘキコトモ亦推知スルニ難カラス諸兵種連合ノ部隊ヲ以テ此種ノ陣地ヲ占領スル如キハ極メテ特別ノ場合ナリトス而シテ本陣地トノ距離ノ如キモ通常大ナラサルコトモ知ルヲ得ヘシ但シ(c)(d)ニ在リテハ特別ナリ
- (ロ) 敵ノ近接若ハ攻撃動作ヲ困難ナラシメントスル陣地



此種ノ陣地ハ敵ニ不利益ヲ與ヘ若ハ彼レノ獲得シ得ヘキ利益ノ領有ヲ妨害セ  
ントスル目的ヲ以テ占領スル陣地ニシテ通常一部ノ戰鬪ヲ豫期ス例ヘハ

(a) 敵ノ本陣地ニ近接スルヲ困難ナラシムルモノ

(b) 敵ノ據點占領ヲ妨害スルモノ

(c) 敵ノ前進ヲ阻碍スルモノ

是ナリ (a)ハ本陣地ノ前方近距離ニ於テ敵ノ近接シ易キ死角又ハ射擊シ得サル  
扇形地ノ消滅ヲ目的トシ (b)ハ敵ノ攻撃ノ據點殊ニ砲兵陣地ノ占領等ヲ妨害セ  
ントスルモノニシテ通常本陣地前砲兵ノ有効射程内ニ設ケラルルコト多ク (c)  
ハ利用シ得ル地域ノ大小ニ關スレトモ多クハ遠距離ニ稍獨立的ニ設ケラルル  
モノナリ事情如斯ナルヲ以テ此等部隊ノ兵力及編組モ亦時ノ狀況ニ應シ歩兵  
ノ一小部隊ヨリ二兵種又ハ三兵種連合ノ小支隊ヲ以テスル等種々様々ナリ

(ハ) 敵ヲ陷レンコトヲ主トスル陣地

此種陣地ハ敵ヲシテ過失ヲ犯サシムルカ過失ニアラサルモ餘義ナク弱點ヲ暴  
露セシメントスルモノナリ例ヘハ

(a) 前進陣地ヲ本陣地ト誤認セシメントスルモノ

(b) 前進陣地ノ攻撃ニ際シ我本陣地ニ對シテ其側面ヲ暴露セシメントスル  
モノ

モノ

(c) 前進陣地ト本陣地トニ對スル有利ナル攻撃方向正反對ニシテ敵ヲシテ  
攻撃實行上ノ困難ニ遭遇セシメントスルモノ

等はナリ此種ノ陣地ハ其目的上諸兵種連合ノ有力ナル部隊ヲ以テ之ヲ占領シ  
而モ多クハ本陣地ノ近傍ニシテ敵ノ過失ヲ利用シ防者ニ攻勢移轉ノ動機ヲ與  
ヘシムル如キモノナラサルヘカラス然レトモ此種ノ陣地占領ノ基礎觀念ハ敵  
ノ過失ヲ目的トスルモノナルカ故ニ特別ノ狀況ノ下ニアラサレハ採用スヘキ  
モノニアラス即チ彼ヲ知り己ヲ知レル天才的統帥者ノ手腕ヲ待チテ始メテ成  
立スルモノナリ即チ此種前進陣地ノ占領ハ用兵ノ變法ニシテ常徑ニアラサル  
ナリ故ニ主義トシテ此種ノ前進陣地ハ排斥スヘキモノナリ何トナレハ此陣地  
ニシテ一度我計畫ニ齟齬ヲ生センカ其害ノ及フ處甚大ナレハナリ

(三) 利害

前進陣地ニ關スル原則的說明



前進陣地ニ關スル利害ヲ列舉スレハ次ノ如シ  
利益

- (1) 我本陣地ノ行動ヲ掩護シ敵ノ行動ヲ妨害ス
  - (2) 時間ノ餘裕ヲ得ルニ便ナリ
  - (3) 敵ニ過失ヲ犯サシメ之ニ乘シ決戰ヲ有利ニ指導ス
- 弊害
- (1) 敵ニ各個擊破ノ機會ヲ與フ
  - (2) 退却ノ指導困難ニシテ過誤ヲ犯シ易シ
  - (3) 敵兵前進部隊ニ尾シ本陣地ノ運命ヲ危ウス
  - (4) 前進部隊ノ危急ヲ救ハントシテ本陣地外ニ於テ意圖外ノ戰鬪ヲ惹起スルコトアリ
  - (5) 前進部隊退却ノ爲本陣地ニ在ル部隊ノ志氣ヲ沮喪セム

以上ハ一般ニ亘リ利害ヲ列舉シタルモノニシテ個々ノ場合ニ於テハ其都度其利害ノ研究ヲ要ス而シテ之カ研究ノ爲ニハ

- (甲) 敵ノ行動例ヘハ偵察等ヲ妨害スルヲ目的トスルヤ
  - (乙) 敵ヲシテ我陣地ニ關スル誤解ヲ生セシムルヲ目的トスルヤ
  - (丙) 前進陣地ニ於ケル戰鬪ノ結果ヲ利用スルヲ目的トスルヤ
  - (丁) 時間ノ餘裕ヲ得ルヲ唯一ノ目的トスルヤ
- ヲ熟慮スルヲ要ス

(甲)ハ我國典範令ノ原則ニ照スモ許多ノ場合ニ用フヘキモノニシテ(乙)ハ時トシテ某程度迄採用スルコトアリ(丙)ハ主義トシテ排斥スヘク(丁)ハ持久ノ目的ニシテ地形之ヲ許サハ用フルモ妨ナキモノナリ

(四) 諸兵種連合ノ部隊ヲ以テ守備スヘキ前進陣地ヲ用フヘキ場合及戰鬪指導ノ要領

諸種ノ關係以上ノ如クナルヲ以テ諸兵種連合ノ部隊ヲ以テ守備スル前進陣地ハ持久ノ目的ヲ有シ且地形有利ナル場合ニ於テ採用セララルモノナリ換言スレハ爾他ノ目的ヲ達セントスルヨリモ時間ノ餘裕ヲ得ルコトヲ最重要視シ此陣地ニ伴フ害ハ之ヲ地形ノ補助及指揮官ノ手腕ニ依リテ除去又ハ減少シ得



ル場合ニ採用スルヲ適當トス  
 此種前進陣地ヲ守備スル部隊ノ戰鬪要領ハ持久戰(持續戰)ノ要領ヲ應用スレハ  
 足レリ故ニ其詳細ハ省略スルモ特ニ注意スヘキハ退却指導ノ巧妙ヲ要スルコ  
 ト是ナリ之カ爲ニハ要スレハ豫メ諸種ノ設備ヲ爲シ置クヲ緊要トス  
 之ヲ要スルニ諸兵種連合ノ部隊ヲ以テ守備スル前進陣地ハ決戰ニ於テハ主義  
 トシテ之ヲ避クヘク持久戰ニ於テハ地形之ヲ許サハ採用スルヲ適當トスル場  
 合少ナカラス而シテ此種防禦ハ稍指揮ノ巧妙ヲ要スルヤ論ヲ待タサルナリ  
 序ニ一言センニ前進陣地ナル觀念ハ極端ナル持久戰タル要塞防禦ノ方式ヲ野  
 戰ニ應用セントスルニ起因セルヤノ感アリ從テ列國ニ於ケル趨勢モ亦此歴史  
 的關係ニ胚胎セル處アリ一言シテ他日ノ研究ニ資セントス

## 初級戰術講授錄 第二卷 終

大正六年五月二十五日印刷  
 大正六年五月三十一日發行

陸軍大學校將校集會所

發行者兼  
 印刷者  
 前田岩太郎

東京市四谷區荒木町二番地

東京市麴町區下六番町十七番地

印刷所 同 勞 舍



319
380



終